（必要以上に大書せず、餘白もあけぬこと、よみづらい連綿字でかゝぬこと、丁寧にかくこと、徒らに折目をつけぬこと、そして裏面をも使用すること、そのためには敷板を使用すること、使用後は一定の場所に置き、紛失などせず又學校に忘れて來ぬやうにすること等を注意し、これを實行して、習慣づけなければならぬ。むだに使はせぬには、即ち經濟的に使用させるには紙の大切にすべきことを非常に手數のかゝる製紙過程を教へることから反省させてもよい。物品を粗末にせず經濟的に使用するといふことは、將來に於ても甚々必要な習慣であるから、機會ある毎にこれを徹底的に習慣づけたい。

兒童をして前記の使用の注意を實行させ、一方自習を眞面目に行はせる方法としては、教師が各兒童の自習帳を時々檢閲することである。即ち兒童はその檢閲を恐れて、注意事項を嚴守し、また眞面目に自習もするやうになるからである。教師は一々兒童の自習帳に檢印を捺し、總括的に或は個別的によい點、悪い點、改むべき點、改しむべき點等を批判するがよい。兒童は自分の學習帳と照合してよいにつけ悪いにつけ大いに反省する所あるであらう。從つてこの學習帳の檢閲といふ點は、最も肝要なことである。

作業の形式と實行調査

作業は原則として兒童の獨立作業たらしめ、教師はその輔導役、相談役でありたい。しかし低學年の作業は獨立では行へぬし、又その學科によつては教師の輔導を主とせねばならぬことゝもある。要は作業の効果を的確ならしめ、作業を漸次に兒童自身に自發的ならしめるにある。

兒童の作業を自發的ならしめるには、兒童を計畫者たらしめねばならぬ。即ち教師がプランを立てず、兒童自身に教材の選擇を行はせねばならぬ。素より全然教師の交渉なくしてはプランは立てられぬが、例へば圖畫、手工、裁縫、家事等

の比較的自由な教材にあつては、時々兒童に教材を選擇せしむべきである。それによつて兒童は異常な興味を覺え、從つてその學習心は盛んになるし、兒童の頭腦は次第に計畫的になり、凡て自發的に作業するやうになり、遂に兒童の獨立作業は完全に行はれるやうになる。他の學科に於ても教師の指導に委せてばかりゐてはいけない。即ち教師の指導を仰ぐと共に、兒童自身も常にその計畫に參與して作業を自發的にせねばならぬ。例へば書方教授に於ての字配りや、圖畫科に於ての色彩の手法等に關しても、教師の指導は八分にとゞめて、後は兒童の獨創的な計畫にまかすべきである。

作業に際しては、まづ第一に、すべての物にはプランを明確に立てゝ然る後實行に取りかゝるべきことを教へ、プランが十分に決定せぬうちは、決して作業に取りかゝらしてはならぬ。そして一旦作業に取りかゝつたならば、遊戯氣分にならざること、冗漫に亙らざることを慎め戒告せねばならぬ。兒童は用具の淨山あることや、特別室等の環境の相違することのために、とかく騒ぎたてるものである。例へばさし當り用もない用具をいぢつて見たり、珍らしさうに人の席を覗いて見たり、教師の許しも得ずに起立して勝手な行動を取つて見たり、至く手のつけられぬ混亂さを呈するものであるから、作業室に入るに際してはこれらの點も嚴重に戒しめて置くべきである。また作業時間には多くの質問が生じ來るものであるが、兒童同志の會話を嚴禁し、その質疑は直接教師に訊くやうに注意し、そしてその質疑に對しては教師は懇切丁寧に答ふべきである。

經費の節約を圖るために、作業材料はこれを或る程度まで節約せねばならぬが、それと共に兒童の作業材料に對する取扱方をも訓練せねばならぬ。即ち、學校の所有に屬するものと兒童自身の所有に屬するものとの何れたるを問はず、作業用具は常にこれを大切に取扱はせねばならぬが、それには用具に對する感謝の念を抱かしめるやう常に訓練するがよい。實際に於て書方や圖畫の場合に、用紙を何枚も何枚も平氣で破り棄てるといふ兒童があるが、しかもその破り棄てる紙は

最後まで書き了へたのではなく、中途でやめたものが多い。しかもこれは行きづまりてさうするといふよりも、習慣的にやることが鈔くない。そしてさうした兒童の作品には餘りいゝものがない。それは作業にかゝる前に十分に計畫を立てぬことゝ作業に熱心でないことゝに基因するもので、しかも單に用具の不經濟なばかりでなく、時間の不經濟であり、そして成績の不圓滿である。故にかゝる惡習を改めしめることは、一は用具の經濟となり、一は作業に熱心ならしめ、延いて成績の向上を圖らしめる結果となるから、もし斯樣な兒童の行爲を發見した場合には、敎師は特に銘意にその惡習の改善に努めねばならぬ。以上述べた作業に對する訓練は、また兒童の人格に對する訓練であるから、敎師はこれらの訓練には大いに努力する所あらねばならぬ。

豫習復習の習慣と訓練

如何に巧妙な敎授が行はれたとしても、それが獨り學校内でのみでのことであつたならば、決して十分なる學習をなすことが出來ぬ。卽ちそれは豫習復習と相俟つて始めて學習は完全に行はれる。換言すれば豫習復習は兒童學習上重大な役目を演ずるものなのである。ところで、これをどの程度に課すべきかといふことがさし當つての問題となる。遊び盛りの兒童を捉へて無理に長時間をそれに縛りつけることの無理にして、しかも効果のないことは論を俟たぬが、これを兒童の自由に一任すべきものでも素よりない。

豫習復習のさせ方には、家庭でやらせるのと學校で課するのと二方面があるが、その何れにしても兩者には密接な關聯がなくてはならぬ。原則としては高學年に於ては復習にその重心を置くべきである。そしてこれを課するに當つては、兒童心身の發達に適應する所の分量程度を異ふべきで、尙家庭の事情も斟酌し、家庭で未習敎材を

與へてはならぬ。その他豫習事項の應用等にも意を用ふべきである。更に各學年の豫習時間はどの位が適當であるかといふに、一般的にいふならば、第一は當日學んだことを一通り統べさせる位、第二は一日二十分、第三、四は一日一時間、第五、六は一時間半、高等科は二時間位が適當であらう。

最も注意を要するのは、家庭に於ける豫習復習である。もしそれが旨く行はれねば折角の學校敎育もその使命を十分に果たすことが出來ず、時には全然破壞されてしまふこともある。いくら兒童に豫習復習を實行せよと云つても、家庭がこれに無關心であつたり、甚だしきは學校で學びさへすれば家では本なんか讀まんでもよい、その暇があれば家事に手傳ふがよいなどといふにあつては、或は自發的學習心のない兒童は父兄の何も云はぬをいゝ事にカバンを放つたまゝ外へ飛び出すであらうし、或は兒童が勉强したくとも父兄がさせやうでは只勉强さへすればよいと考へて、朝から晩までやれ豫習、やれ復習と兒童の心理を少しも顧慮せずに机に喰りつかせれば能事畢れりとするものもあり、甚だしきはそれでも滿足らやとして家庭敎師などを傭入れて無理强ひに勉强せしめるものもある。過ぎたるは猶及ばざるが如しといふが、これは一層惡い結果を招く虞れがある。卽ち兒童の心身はために疲勞の極に達し、中にはその結果神經衰弱になり、早くも厭世的な考へを持つやうになることすらある。尤もその父兄の心事は素より惡むべきではないが、實に心なきわざといふべきである。要するに、彼等は兒童の世界は決して大人の窺知すべからざる別世界であることを知らぬによるものである。かうした點を考察すると、豫め豫習復習の時間を限定して父兄に通じ、これを履行して貰ふことの要がある。しかし必ずしもそれに拘泥すべきでなく、場合によつて多少の時間の融通を計らねばならぬ。要は彼等兒童に過勞を强要せぬにある。卽ちどんな場合でも緩々ながらする仕事は勞しても效がないからである。

朗讀法の訓練

正しい朗讀をなさしめることは、模範的發音を根柢とする。これを敎へるには音韻擧上の知識と正しき模範とが必要である。まづ父音韻を明瞭に發音することを練習せしめ、次いで一音と他音との區別を明瞭にせしめる。それから言葉に移るが、言葉は幾つかの音が連續して發せられるものであるから、音節が明瞭でないと言葉は解らなくなる。譬へば音節は竹の節のやうなものである。しかし餘りに音節を明瞭にさせようとすると、今度は言葉がその構成分子たる音に分れて、却つて意味をなさなくなる。甚だしきは「はな」が「はーな」となつてしまふ。そこで發音の長さ、强さ、高さ、即ち間拍子とアクセント（拍節と調子）とを敎へねばならぬ。長さについては長いものは遲くそして重みがあり、短いものは速くそして輕い。强さ即ち力づよく發音するか否かについては、强く發音されたものは重みがあり、輕く發音されたものは輕い。高さについては高いものは强く低いものは弱い。——等のことを實際についてよく敎ふべきである。そして音の長短と强弱とが一體の音系列中に於て交互的に現はれるとリズム（音律）をなし、その時間交互關係が所謂間であり、ア的强弱關係の反覆が調子である。素よりその理論はいらぬが、これを實地に練習せしめて、正しい讀書の基礎をつくらねばならぬ。また此音の矯正は、模範によつて正しい音を模倣させるのみならず、口形や舌の位置等について說明し、意識的に自己の此音を矯正するやうに訓練せねばならぬ。

かくて讀書の基礎練習が出來たならば、朗讀はひとりでに出來る筈であるが、これを反覆練習せしめることによつて、正確にそして迅速に讀むやうにせねばならぬ。それと同時に文字と讀方との結合のない、即ち內容の持たぬ讀方は極力これを排斥せねばならぬ。即ち自分の讀んでることが何にもわからずに讀むといふことは、讀書の意義をなさぬものだからである。朗讀の場合は迅速と云つても或る限度があるが、意味のとれる範圍內で十分早くよませることは必要である。そして低學年では他の讀物も正確に朗讀する習慣をつけるために音讀せしめてもよいが、中學年に及んでは必要以外はすべて默讀せしむべきである。何故かといふに、ヒユエー氏の實驗によると、音讀は默讀よりも六割六步も遲く、最も急速度で讀んでも音讀の方が五割六步も遲いといふからである。殊に今日の文化生活に於ては讀方の材料が著しく豐富になり、しかも讀方が人々の精神生活の重要な一局面となつて來てる點から見ても、讀方の速度といふことは社會の切實な要求だからである。

擧手起立の訓練

着席の姿勢で擧手する時は、右手を擧げるのが本體である。しかし筆記してるたり運算してる場合には左手でもよい。但し、兩者とも餘り高く擧げさせるに及ばない。と云つて餘り低くてもいけない。即ち擧けてるるのか擧けてるないのかわからぬからである。中には敎師が「今お話したことは解りましたか、解つた方は手を擧けなさい」とかいはれると、實際解つてもるず、また知つてもるないのに、他の兒童が皆元氣よく手を擧けるるので、自分も解つてるる、乃至知つてるる風をしたいがために、矢張り手を擧ける兒童もあるが、さうした兒童の擧手は、從つて敎師の目にとまらねばよいがといふのだから、一般に低い。擧手は敎師の目についてこそ、その目的が達せられるのであるから、適宜の高さ、即ち敎師の目にとまる範圍の高さでなければならぬ。そして前記の卑怯な擧手の兒童に對しては、十分の訓練を必要とする。

それに低學年などでは、無邪氣で元氣なために、擧手と同時に叫び聲をあげ、その喧囂さは時に敎室の授業の妨げとな

ることもあるから、挙手には叫び聲を伴はぬやうに訓練せねばならぬ。そして挙手は何のためにするかを教へねばならぬ。即ち一々返事をしたり、又は發問の要るつたりする時は挙手するもので、前者では絶對に聲を出す必要はなく、後者では一言「先生」とその注意を促がせば足りる。それなのに中にはその儘として、「先生々々」と早々に二度も三度も言つたり、甚だしいのは三度も四度もよぶが、かうした厭々しい癖、即ち早口の癖と重ね言葉の癖とはこれを矯正せねばならぬ。

教師の發問に對する答辯を指名された場合又は發問を許された場合には、起立して答辯又は發問をなさしめる。そしてその起立の姿勢は、身體を直立にし、兩足を自然に揃へ、兩手を自然に垂れ、そして眼は教師の目を正視せしむべきである。殊に聲の調は大切で、下を見て答へたり、そつぽを向いて發問したりしてはいけない。また十分に答へられぬ場合などには頭をたゝいたり耳を引つぱつたりして答へる癖も兒童にはあるものであるから、さうした事も改めしめる。同時に指名された場合には答案の如何に關らずすべて起立せしめ、もし答へられぬ時は明瞭にその旨を、即ち「知りません」とか、「解りません」とか、云はしめねばならぬ。

質問答辯の訓練

兒童の訓練のない質問は、教師を混亂せしめることが多い。寄、集に教師の頭を混亂せしめるばかりでなく、教授の進行を妨け、徒いて無意味な時間を浪費する。また兒童の訓練のない答辯も教師を混亂に導く。即ち教師は訓練のない答辯からは教授徹底の程度を明確に察知することが出來ぬ。例へば甲の答辯と乙の答辯とに甚だしい程度のある場合には、教師は教授を進めてよいものか、それとも今一度授業の實績を調るべきかに迷ふ。從つて兒童の質問並に答辯の訓練は等閑に附すべからざる緊要事である。

教師はまづ質問の時機についてよく兒童に了解せしめる所なければならぬ。即ちどんな時機に質問してよいか、どんな場合に質問すべきかといふ點をよく理解せしめ訓練せしむべきである。これをよく訓練してゐないと、教授の進行は阻害され、時間が浪費される。多くは講義の一節の終るを待つて兒童の質問を許す場合には、講義中には絶對に發問せぬやうにせしめる。彼等に質問の癖を張つてやるやうにするがよい。何故ならばその方が兒童をして自發的に質問の疑點を探求せしめる注意力を養成するに役立つからである。尤も講義の終りに質問を許す場合には、講義中には絶對に發問せぬやうにせしめる。即ち講義の進行を妨害するからである。但し低學年では疑點があつて質問しようとしても。時がたつとそれを忘れて、わからぬまゝに終ることがあるから、その都度發問させ、徐々に一定の時機に質問をなすやうに訓練する。

兒童によつては頗る要領を得た質問を發するものもあるが、その反對に不得要領な質問を平氣でなすものもある。前者は優秀な頭腦の持主で、後者は輕率な思慮の足りない兒童に多い。かうした要領を得ない質問に對しては、教師は質問の要領を懇切に說いて、再びそんな質問を發せぬやう注意せねばならぬ。それから突調子もない、例へば教科とは全然無關係な質問をする兒童もあり、そしてそれは案外多いが、それには教師は答辯の責任を持たんでもよい。即ちそれは質問といふよりも、教師を愚弄する一種の挑戰だからである。しかし答辯の責任は持たなくとも、その不遜の態度はこれを矯めべく、質問の本義からこれを說いて、彼等に反省せしめる所なければならぬ。惡意のある惡問は、教師を馬鹿にし他の兒童を馬鹿にし、そして己れ自身を馬鹿にするものである。彼等はつまり神聖なる教室の胃潰兒である。

また一時に雜多な質問を發する兒童もあるが、かゝる雜多な質問より、質問そのものゝ內容も多くは空疎で教科目の要點を去ること遠いものである。故に質問の數は少くして、その質の深さをまづ兒童に訓練せねばならぬ。しかもこの訓練は同時に質問の重複を避ける上にも役立つ。不注意な兒童はとかく

學級訓練の着眼と實際

質問濟みの問題を二度も三度も質問する傾がある。教師の應接も容易でないが、何より教授の停滯することが烈しい。それで教師は一つの質問を受取つたならば、全兒童の注意を促し、兒童自身の中に答辯を求めさせる方法を採る。そして兒童に難解の場合初めて教師が答辯するといふ風にする。この方法によると、質問の徹底となり、期せずして質問の重複を避けることが出來る。たとひ兒童の質問についてその答辯を兒童中に求めることのない場合でも、常に他の質問には傾聽せしめ、知らぬ者は素より、知つた者でも他の兒童の答辯や、ごまかしの答辯を戒むべきである。判然とは知らぬが、兒童が答辯する場合には、言葉が第一に明瞭であらねばならぬ。指名されたならば、答辯が出來る出來ないに拘らず直ちに返事して起立せしむべきである。そして要領を逸した答辯や、ごまかしの答辯を戒むべきである。判然とは知らぬが、だらう位知つてゐる場合には、兒童の小さな虚榮心はこれを「知りません」とはつきり答へしめす、何とか色をつけてお茶を濁さうとする。その心情は寧ろ可憐ではあるが、學問にはごまかしや虚榮は禁物である。知らぬものを知らぬといふことは決して恥でなく、知らぬことを知つた振りすることこそ恥である。しかもそのために貴重な時間を空費することが少くない。この點を十分に教へて、知らぬ時は「知りません」と明白に返事する訓練を施すべきである。反對に、答辯し得る自信のある兒童には、最後まで全力を盡して答辯させる。兒童の自信を中途で投げ出させるやうな事なく、所信は所信として堂々と述べさすべきである。また中には知つてゐても億劫なといふ考へから、「知りません」といふ兒童もあるが、その場合にはその億劫がる考へを打破しもつと快活になるやうに訓練せねばならぬ。

學級訓練の着眼と實際

目次

一　學級訓練の根本思想……（一）
兒童生活本位學級訓練……（一）
學科生活本位學級訓練……（二）
個性尊重中心學級訓練……（四）
遊戯創化中心學級訓練……（五）
實業陶冶中心學級訓練……（七）
信仰信念中心學級訓練……（八）
德育中心主義學級訓練……（九）
體育中心主義學級訓練……（一〇）
自學自習中心學級訓練……（一三）
自力更生主義學級訓練……（一五）
實力養成主義學級訓練……（一六）
二　學級訓練の着眼……（二〇）
生活訓練の着眼……（二〇）
行事訓練の着眼……（二三）
養護訓練の着眼……（二四）
休暇訓練の着眼……（二五）

自治訓練の着眼……（四四）
保護訓練の着眼……（四六）

三　複式學級の兒童訓練……（四八）

複式教授の特性發揮……（四八）
聯帶責任の學習訓練……（四八）
積極的な學習態度……（四八）
自發自學で併決……（四八）
作業本位の學習……（四八）
協同學習の必要……（四八）
音讀と默讀の訓練……（四八）
音聲衝突の防止……（四八）
教師を獨占せぬ訓練……（四八）
先生々々と呼ばぬ訓練……（四八）
後ろに教師を待つ訓練……（四八）
無言の行に堕ちぬ訓練……（四八）

四　各教科獨特の學習訓練……（九二）

修身科獨特の學習訓練……（九二）
讀方科獨特の學習訓練……（九二）
綴方科獨特の學習訓練……（九四）

書方科獨特の學習訓練……（一〇〇）
算術科獨特の學習訓練……（一〇一）
地理科獨特の學習訓練……（一〇四）
國史科獨特の學習訓練……（一〇四）
理科科獨特の學習訓練……（一〇七）
圖畫科獨特の學習訓練……（一一一）
手工科獨特の學習訓練……（一一四）
唱歌科獨特の學習訓練……（一一五）
體操科獨特の學習訓練……（一一六）
家事科獨特の學習訓練……（一一八）
裁縫科獨特の學習訓練……（一一八）

五　各兒童獨特の學習訓練……（一二二）

性別の差異による學習訓練……（一二三）
性格の差異による學習訓練……（一二三）
性質の差異による學習訓練……（一二四）
氣質の差異による學習訓練……（一二七）
知覺典型の差異による學習訓練……（一三一）
知能程度の差異による學習訓練……（一三四）
階級程度の差異による學習訓練……（一三六）
環境の差異による學習訓練……（一三九）

學校訓練の着眼と實際

一　學級經營の根本思想

學級經營の要領

六

學習指導の根本精神……（一）
學習指導の方法……（一）
學習指導の過程……（一）
學習指導の形態……（一）
學習指導の種類……（一）
學習指導の單位……（一）
學習指導の時間……（一）
學習指導の場所……（一）
學習指導の施設……（一）
學習指導の用具……（一）
學習指導の計畫……（一）
學習指導の實施……（一）
學習指導の評價……（一）
學習指導の記錄……（一）
學習指導の統制……（一）
學習指導の改善……（一）
學習指導の研究……（一）
學習指導の實際……（一）
學習指導の實例……（一）
學習指導の實例……（一）
學習指導の實例

當然のことであらう。兒童の生活とその生長とは全く運動に俟つものであるのに、學校においてはこの運動本能、活動本能を無視して、靜的な學習を強制しようとする。尤も課業と課業との間には十分なり十五分なりの休憩時間があるが、これは次の時間の學習のために兒童を靜肅にさせるためのものであつて、またこの短い時間の間に十分に活動本能を滿足させることは出來ない。即ちこの短い時間において、一時限の學習に對する十分のエネルギーを攝取することはむづかしいのである。

しかし學級基調は一つの人爲的なものであるからして、兒童の生活本位の學級經營を行ふことは、不可能であらうと思ふ。ジョンソン夫人の有機學校は私立經營であり、兒童の數も少く、家庭的な圓樂において、兒童の自然生活を基とする經營を行ふことも出來ようが、人爲學級においては純然たる兒童生活本位の學級經營は不可能の事に關する。しかし乍らこの兒童の生活を重んじ、兒童生活本位の經營を行はんとする教育理想は大いにこれを參酌すべきだと思ふ。否、これを積極的に考慮することを、今後における學級經營の當事者に希求したいと思ふ。

それには先づ、教師の考へによるところの拘束と壓迫とをなるべくさけるやうにして、兒童自身の發動的な學習生活を尊重することである。もと〳〵兒童生活本位の教育は、教師中心の教育に反して提唱されたものであるから、教師は兒童の單なる援助者としての立場に立つことを肝要としなければならない。而してすべては學級自治會の發達に俟つやうにしてなるべく兒童の生活を學級の中心にそのまゝ生かしたいと思ふ。

學科生活化本位學級訓練

爲すことによつて學ぶ、換言すると、生活することによつて學ぶといふことは、勞作學習、或は生活化學習として一般

によく知られてゐる事柄である。兒童が學ばねばならぬ最もむづかしい方面は實地學習といふことであらう。いろ〳〵の學科、例へば算術とか地理とか理科とかいふものは、それ〴〵一つの經驗に立つてゐる。即ちこれらの教科の內容は、何れも人類の過去の經驗の蓄積されたものであり、永い間人間が努力して獲得して來たつたものである。然るに一般に教授に際しては、これを單に蓄積のそのまゝに提供する。教授においては、かくの如く單なる蓄積としてなさるべきものでもなく、また個々の雜然たる蓄積としてのみなさるべきものでもあるまいと思ふ。即ち抽象的に單にその結果の事實のみを注入することを排して、これを發生的に取扱ひ、學習させるところに生活化學習の意義が存すると思ふ。これを換言すると各學科の示す內容の經驗を生活化することである、生活の事實によつて教科の內容を把握することである。

すべての教科は、兒童の單なる日常の諸經驗における最高可能の發展をなすものである。學習における任務は、これらの粗雜ないろ〳〵の經驗をとり、それを課業にまで組織立つることにあらねばならぬ。兒童が學校に入るまでは、彼等の學ぶものが一として自己の生活と何等か直接關係のないものはないといふことは明白のことである。この間における兒童は、如何にして知識を收得するか、即ちこれは教師の單なる抽象的な說明によつて得たる知識ではなくして、自分の經驗によつて、生活の實相において收得した知識であらう。即ち仕事をすること、經驗すること、生活することによつて學んだものである。こゝに學校生活化の問題が生ずるものである。

如何なる教科書についてみても、その材料はすべて單純化され、且つその分量も非常に輕減されてゐる。ためにその材料は、兒童の思考力を喚起する力が弱く、兒童の經驗を組織立てる働きも弱くなる。兒童の推理力、即ち抽象と概括の能力は、そのために適當に發展しないうらみがある。したがつて今日の學習指導においては、その教科書のみに頼ることを排して、何より兒童自身の目、手、耳をはじめ身體全部が悉く學習の源泉となるやうにはかることが大切であらう。

これを要するに學校生活化の問題は、教科書を抽象的に、讀書學習させるやうな在來の方法をすて去つて、これを直接實生活の何等かの方法に訴へて、經驗的に學ばしめようとするものに外ならぬ。この學科生活の方法は、現在の制度においてはこれを十分に生かすことは出來ないが、特殊の材料、即ち勞作によるべき材料においてはこの方法を採ると効果が多い。尤もこの場合には、合科的な學習指導の方法をとる。

個性尊重中心學級訓練

眞に正確公當なる教育は、兒童を單に一クラスとして、集團として取扱ふ限りに於ては決して成立するものではない。從來はこの一齊的教授に終始し來たつたものであるが、この教育の方法の誤りなることは、玆に數々を要せぬところである。兒童は各自にそれ〳〵の個性を有してゐる。而して如何なる兒童も、その個性を十分に學習に發揮する機會を持たなければならぬ。教師はまた各兒童の個性を眞に明確に把握することによつて、はじめて兒童を理解したといふことが出來、また兒童を明確に理解することによつてはじめて眞の學級教育を徹底せしむることも出來る。これに反して教師が徹頭徹尾一齊的教育、劃一的教育を行ふとすれば、兒童の個性は了解されない。劃一的學級の下においては各兒童の個性の發揮といふこともなく、個性發揮のないところに、教師が兒童の個性を認知するといふことは不可能の事實である。

昭和二年文部省は、兒童個性の尊重及職業指導に關する件を發令してゐる。その中には、素より兒童の個性の調査を行ひ、その環境を考慮して、實際に適切なる教育を施し、各人の長所を發揮せしめ、職業の選擇等に關し、懇切周到の指導をすることを要す、と更に兒童の性行、知能、趣味、特徴、學習狀況、身體の狀況、家庭其の他の環境等を、精密に調査

し、教養指導の重要なる資料となすべきことを調へてゐるのである。

この訓令の趣旨は即ち個性尊重の教育を調へたものとみるべきである。何れにしても個性を尊重する教育は、兒童個人に相即さなければならぬ。個人の人格完成を目的としなければならぬ。しかしこの個人とは、四十人の組の一人、日本帝國の一人、全一の現れなる一個の個人であるからして、個人性を發揮すると共に、學級と何等の交渉なき獨立の存在となつてはならぬのである。更に云へば個人意識の把握は、集團意識、國家意識にあるので、その現はれが個人であり、個人性である。故に現はれたものは、知能、性質においてすべて差を生ずるのである。この個人差に對して、はじめて教へんとする意識の發動は、この個人、個人の特異性といふことに最も力强く働くのである。この個人差に對して、はじめて教へんとする意識が起るのである。

故に學級教育は、この現はれたる個人差、個性への特色を十二分に發揮せしめるにある。即ちこれを個性を尊重する教育といふことが出來る。しかし却々實際においては、兒童の個人差は、個性に立脚することは困難事である。容易のことではない。すべての兒童の個性を的確に發達せしむることは、教師の最も留意を拂はねばならぬ根柢的の事項である。要するに學級經營の任に當る教師は、各兒童の個性を十分に調査し、常にその個性を考慮することによつて、學級教育の實を擧げるやうに心すべきである。

遊戲と創化中心學級訓練

小學教育、殊に低學年の教育において、遊戲と創化の方法を尊重すべきことはいふまでもないところである。即ち低學年の兒童の生活は、その大部分が遊戲生活であり、彼等は遊ぶことによつて生長するからである。故に彼等の生長をはか

る學習そのものも、遊戯を根柢とすべきものである。幼學年の兒童が學校に入學すると、直に今までの遊戯生活を中斷せしめ、人爲的な、規則や命令の多い所謂器械的な一齊訓練を行はふとする事は、非常な無理でなければならぬと思ふ。學校に入學したからといつて、直ちにその生活を急激に變改せしむることは、却つて彼等の身心の發達を阻止するやうなものである。この事實は、各種の統計によつて立證せられてゐる。入學前の幼兒の身心發達の狀態は、入學と共にその一年間の間にぐつと低下し、後退するのである。尋常一年における心身發達は却つて停止するのである。これは即ち、彼等の本然の遊戯生活を破壞するところに主要なる原因の有するところを指摘しなければならぬ。

低學年の兒童生活に遊戯の必要なること、むしろ不可缺なることが一般に理解せられるに至つたことは、甚だよろこぶべき傾向である。この兒童の遊戯本能を利用することは、學校外における兒童の自然の生活としての遊戯を利用することは、中高學年における生活化學習とその軌を同一にするものである。兒童の彼等の家庭や社會における遊戯活動を、學校學級生活にとり入れることが、最も効果ある學習を生むものとすれば、遊戯を利用し低學年兒童の作業の大部分をこれに當てることが大切なる事項である。

遊戯は兒童の本能生活であると共に、その他に幾多の教育的價値を有してゐる。模倣的遊戯は兒童の習慣を養成し、またその注意力とか思考力を增ふことに力がある。兒童はたゞ漫然と無關心の態度でゐるときよりも、遊戯してゐるときの方が却つてその周圍の社會的生活の事象に注意し、これを模倣することを學び、かくして瞬裡に泌みこませ、これを習慣とするに至る。故にこの模倣的遊戯は、兒童に自己の環境と周圍の社會生活を維持するに必要な或る過程を注意することを敎へる點において敎育的價値を發揮するものである。また遊戯化及び劇化が、學習を興味化し、その間に作業勞作の精神を培養し、更に社會的訓練の初步の意義を體得せしむるに至ることは、敢にいふまでもないことである。

低學年においては合科學習をさせるのであるから、この遊戯化劇化の學習方法は適當に實行させることが出來る。手工にしても書方にしても、これを單獨々立の敎科として、器械的な分科的な學習をさせることは、兒童の心理に即しないことだと思ふ。すべては合科的に、彼等の遊戯本能に即して、極めて自然に學習させることを肝要としなければならぬ。讀方を中心として繪を描かせたり、唱歌を歌はせたり、體操をさせたり、或は簡單な數へ方の練習をしたり、話方をさせたりすることもよい。算術科を中心としても、かうした合科的の取扱が出來る、といふよりむしろその方が容易であらう。

兒童の自然の狀態における遊戯生活を扞げてまで、分科的な學習法をとる必要は更にないと思ふのである。尤もこの遊戯化劇化の方法をとると、いろ〳〵の學習方便物、即ち學習環境の物的條件を先づ以つて完備しておくの必要があらう。故に學級經營の任に當る者は、この點に留意することを忘れてはならぬ。かくて兒童の遊戯本能に即しながら、彼等の生活を發展せしめて行かねばならぬ。

實業陶冶中心學級訓練

從來の敎育においては、實業陶冶といふ方面に對しては全然無關心の狀態であつたと思ふ。即ち敎育は徹頭徹尾觀念世界のものであり、象牙の塔の中に敎育を神聖化し、實社會方面に敎育上の考慮を持つことを敎育の墮落と考へる者すら絶無とはいへなかつたのである。敎育とは實社會とは關係のないもの、生活と連絡するところなきもの、かういふ觀念が從來の敎育の全般であつたやうに考へられる。そのために、かゝる學校において敎育される兒童は、非實際的な人間として生長、觀念世界にのみ深められて生活力のない人間たるべく生長したのである。過去の敎育の功罪を檢討するには、必ずこの點に着眼しなければならぬと考へる。

即ち今日の時勢よりみるとしても、小學教育においては實業陶冶といふ方面を重んじなければならぬ。教育を生活化し兒童將來の實生活の發展をはかるためには、この實業陶冶といふ方面を重んじなければならぬのである。實業陶冶といふことは、尤も從來においても商業科なり農業科なりが高等小學において設けられてゐたが、この特定の施設だけでは十分ではない。小學校においても、各教科に附帶して、適宜に實業方面に關する陶冶を行ふやうにすべきだと思ふ。實業に關する知識を收得させること、實業に關する實際的訓練を行はせることなどは、この兩方面にわたつての適切なる指導を心がくべきでもらうと思ふ。

信仰信念中心學級訓練

近年上下を擧げて、信仰信念の生活が漸次に稀薄になりつゝあるやうに思はれる。政治界においては、嚴然たる國民思想に立つ毅然たる信念の人をみとめることが出來ない。多くは政黨屋であり、政治によつて利己心を滿足せしめんとする輩ばかりである。國家救濟の大信念に立つ、國民の意志の代表者としての、他に些少の不純を持たぬ政治家は稀である。教育界においても同樣である。教育者としての社會的位置が低下するにつれて、その教育理想も漸次に低下しつゝあるやうに考へる。國民教育の大信念に立つ教育者が今日果して幾人あるか、中には國家といふ教育の立場を忘れて徒らに外國教育思潮の讃美に走つたり、或は自己の職能を教育勞働者の如く思惟してゐるものもある。毅然たる信念に立つて國民教育の實を擧げてゐる人は極めて少い。一般人は、信念を持つてこそ社會國家に立ち、世道人心を教導して行く事も出來るのである。信念なきところに、力ある仕事は出來ない。信念なくして教育の事に當つても、その眞の効果を期待することは出來ない。

今日、各方面において信念なき人間の横行することは、たしかに過去の教育の罪であると斷ずることが出來よう。明治末から大正にかけての教育は、徒らに智育教育に流れて、人間を完成せしむる、即ち日本國民としての信念ある人間を養成するといふ方面には力が足りなかつた。少く共あまりにも智育を重要視せる結果、一方的となり偏頗なる教育に陷し去つた。そのために人智は發達したが、信念の厚き國民たらしめることには失敗したといふことが出來る。今日、道德教育宗教教育の力强く提唱される所以は、過去の教育のこの缺を補はんことを緊急の目的とするものであらう。

何れにしても在來の教育は、信仰信念の教育といふ方面に大きな缺陷があつた。自己の利に賢くして、國家大局を忘却するやうな國民を作り上げたことは、たしかに從來の教育の罪である。この弊を除去するためには、先づ教師自身が反省し、修養すべきだと考へる。即ち在來の智育偏重の教育を捨て去ると共に、自己の教育信念を深刻化し、確立することを忘れてはならぬのである。更に兒童自身に對しては、學級經營の基本として諸儀式の精神を復活せしめ、皇道精神を强く體認せしめる施設を重んずることを肝要としなければならぬ。

人心こゝに全く萎縮せんとし、物に對し、人に對し、蓋殷の氣漸くうすらがんとしつゝある。國家祭典の儀式も輕視さるる近時の風潮は、たしかに外來思想に影響された惡習である。かくては兒童の信仰信念の氣風を更に稀薄ならしめることになる。故に先づ手つ取り早い方法は、學級によつて諸儀式の精神を復活せしめ、國家祖先に對する嚴肅なる心情を抱懐せしめることに努めることである。

德育中心主義學級訓練

在來の教育はあまりに智育偏重にすぎるやうに思ふ。智育偏重の弊害が、現代の世相を惡化し、險惡化したことに原因し

てゐることは玆に云ふまでもない。所謂犯罪流行の中において、近代に智能犯の增加したことは、たしかに過去の教育の缺陷を雄辯に立證するものではあるまいか。要するに教育において、知識は最後のものでない、知識を收得せしむるといふことのみが、教育の全體の仕事ではないのである。しかし知識に關する方面は、その實績が比較的に器械的に觀取されるからして、この方面に主力點をおき、以て教育の實の擧がつたやうな自己滿足をなし來たつたものである。

今後の教育においては、この智育偏重の弊害を自覺し、その學級經營上に德育中心の方法を樹立しなければならぬと思ふ。兒童の全人格を完成するといふ教育の最後の希望は、この德育中心の教育に俟たなければならぬ。例へば算術科の如き數理的の教科においても、理科の如き理化的の學科においても、これに德育の衣をつけることを肝要とする。即ち單なる知識技能を附與するといふことを目的とするものではなく、算術科においては正確緻密なる人格を、理科においては推理、眞理を愛する人格と、更に自然を愛する人格を、これらの德の內容を培ふことを教科の目的とするのである。教師はこの點に着眼することを忘れてはならぬ。

德育中心の學級經營の實際としては、いろいろの施設を必要とする。その施設の方法は、その學級經營の方針に即して必然に派生するものである。しかし、これも亦要するに鄕土の事情に立脚し、その特殊事情を參酌することによつて、施設の方針を立てなければならぬ。道德生活方面に關する事柄は、環境事情に支配されることが多いものであるから、これに立脚すべきは贅言を要しない。

體育中心主義學級訓練

近來における體育の勃興がまことに驚くべきものあることは、何人もこれにうたがひを挾まないところであらう。オリ

ムピック派遣選手に對する國民的熱狂の如き、我が國の如く熱烈なるは他國にみることは出來ない。我が國民の一般が運動に對する趣味と自覺と、體位の向上とに目覺め來たつたことは洵によろこびに堪へないところである。即ち學級經營においてもこの點に自覺し、體位を中心とする訓練を肝要としなければならぬと考へる。しかし、玆に贅するまでもなく、運動とスポーツとは異るものである。運動といふことをスポーツと譯す辭典は、何處の國の辭典にもみ出せないことである。故にスポーツ、換言すると競技のみが體育中心の學級經營の根幹をなすものではない。またこの點よりみるとき、體育中心の學級經營は、單なる選手中心のものであつてもならぬのである。要は學級の兒童が、偏することなきすべての運動を熱愛し、普遍的にこれに對する理解と同感とを持つやうに指導訓練することを目的とするものである。

また體育中心の學級經營を行ふ目的は、兒童各自に若々しき朗快な精神を把持させるところにある。即ち運動そのものもつ朗快さを、兒童の精神に生かさしむるのである。學級は知識を積みこむところ、堅苦しい道德生活を行ふ場所といつた考へを持たせることは誤りである。學級文化の停滯は、兒童各自の朗快な元氣さの喪失するところに原因する。體育中心に常に朗かに、元氣に學習に對せしむるとすれば、勢ひ各兒童はその學級生活をたのしみ、學級を熱愛し、その共同生活の向上發展をはかるやうになるものである。

また體育中心の學級經營は、團體的訓練といふことをその目的の一つとしてゐるものである。體育中心の學級經營は、團體訓練にはよき機會を多く持つてゐる。元來我が國民は、團體的訓練といふ方面に缺くる所がある。これは今更數々を要するまでもなく、一般に認知されつくされてゐる事實である。この缺陷を補足する意味の上において、體育中心の學級經營は最も價値多きものと思ふ。即ち團體的な體育訓練によつて、常に團體訓練を行ひ、共同心を培ひ、協同奉仕の精神を發揮せしめて行くことが出來ると考へる。次には、體育中心の學級經營の施設事項の二三を擧げる。

(一)自由遊戯　正課の體操時間内に指導するものの外に、兒童はひまさへあれば、少しの時間をみ出して遊びにふけつてゐる。ボールを持つて遊ぶもの、鬼ごつこするもの、走りまはる者、組とび、ジヤンケン鬼、陣とりあそびなどやつてゐる。各學校で學校個有のあそびを行はせるやうにすれば面白い。更に遊戯的方法を、教師と兒童とで考案して、絶えず新らしい興味をもたして行くやうにするがよい。

(二)課外運動　野球、庭球、籠球、蹴球などのやうに、一般の間に廣く行はれてゐるもの、キツクボールやデツトボールのやうに體操時間のものをそのまゝ延長してやるものもある。これには勿論のこと指導者乃至は監督者がなければならぬから、擔任者がその任に當るのである。尤もその任に當るには、擔任者自身がそれらの遊技のルールを十分に心得ておかねばならぬ。また技術も一通りは習得してゐなければならぬ。

(三)遠足、登山　遠足はもと〳〵一般的のものであるが、近來の遠足は郊外教授を兼ねてゐるから、教師の目的からみれば、登山とか強行遠足を行はなければならぬ。夏季にいては、登山及びキヤンプ生活も教育上價値がある。強行遠足は、殊に都會の兒童の如く足力の退化しつゝある者にとつて必要なるものであらう。しかしこの場合においては、兒童の體質を仔細に考慮し、萬一の準備なども考へておかねばならぬ。

(四)鄉土的體育　鄉土には鄉土色のある體育、或は鄉土特有のものではなくとも、鄉土に盛んに行はれてゐるといふやうな體育があらう。これを學校經營に活用することを忘れてはならぬと考へる。水泳をやるとか、スキーを指導するとか或はまた蹴戰や雪合戰を行ふとか、所によつては角力を行はせることもよろしい。牧畜業の盛んな地方においては、乘馬などのスポーツも面白い。何れにしても體育の地方化をはかることである。

自學自習中心學級訓練

學習の根本原理は、兒童を中心とする自學自習でなければならぬ。未だに教師本位の注入教授の方法を採りつゝある人は、數においては大して多くはあるまいと思はれる。教師を中心とする所謂受動的の教授は、それ自身が如何によくまとまつたものであつても、效果は少い。結果主義に立つ教師は、この受動的の教授の形式を重んずるやうであるが、これでは眞實の學習效果、教育效果は擧げ得ることが出來ない。器械的に表面的にうまく行くかも知れぬが、それだけに兒童の實力となるものではない。

自學自習中心の學級經營を行ふことを、理想としなければならぬ。學習の效果を擧げ、その學習の結果を眞に自己のものとして確實に收得出來るのは、何といつてもこの自學自習に俟たなければならぬ。自學自習するところに學習の興味も湧き、繼續的な努力も出來る。學習を自己のものとなし、自己を伸展させ、自己を建設して行くものは、この自學自習より外にはないのである。但し、自學自習は單なる思ひつき、無考慮の學習であつてはならぬ。自學自習は必ず計劃的に行はれなければならない。即ち學習の目的を自覺し、學習の過程を考へ、計劃的に學習することを、大切としなければならぬ。尤も學年の程度や能力の差異や、學習訓練の如何などといふことによつて、學習の計劃の方法は變改することであり また變改しなければならないが、學習の計劃の自學自習に不可缺なることは勿論である。

更にいふと、自學自習においては學習の目的の自覺といふことが先決問題であらねばならぬ。即ち目的の決まらぬ學習ではなく、目的のない學習であつてはならぬ。目的的、有目的の學習活動を大切とする。學習問題を把捉し、學習の目標をはつきりと定めてから、學習の出發點とする。この學習の目的をはつきりさせることなくしては、自學自習を行ふこと

は出來ず、その効果を收つことも出來ない。したがつて自學自習の學級教育においては、先づ學習の目的をはつきり定めさせること、これが學習の出發點であり基礎となるところであり、この學習目的の如何によつて、學習の分岐點となるものである。尤も學習の目的は、はつきりと定めなければならぬが、この目的は一定不變のものといふわけではないのである。學習の目的は、必ずしも各兒童が同一のものでなければならぬといふわけではなく、また同一程度のものでなければならぬといふわけのものでもないのである。教師は兒童の相談相手となり、學習目的を定めさせてやるやうに心がけねばならぬ。學習能力の低い劣等兒の中には、却々に學習の目的の定まらぬ者が多い。こうした兒童に對しては、教師は特に個別指導を行つて、その學習の目的を定めてやり、自學自習への途を拓いてやるやうにする。

かくて學習の目的を全兒童が定めたならば、次にその目的を達成させるための學習方法も各自に工夫し計劃させるのである。尤もこの學習方法即ち手順の計劃においても、教師は能力の低い兒童に對して個別指導を行ふやうにしなければならぬ。しかし、はじめから教師の考へた方法を、多面に兒童にそのまま注入しようとするやうなことはつつしむべきことである。さうした注入的、器械的な一斉的方法に墮するやうなやり方はさけなければならぬ。最初の學習方法は不完全なものであつても、兒童各自の立てた方法や、或は兒童各自の相互に協議協定した方法をあくまでも尊重し、漸次に完全に近い學習方法にまで到達せしむるやうに心がけなければならぬと考へる。尤もこの相談協定には、兒童のみではなく、教師も之に加はつて差支ないことである。殊に自學自習の初歩においては、教師の參加が特に必要であらう。

このやうにして學習の目的を立て、その學習の目的を達成させるところの過程における工夫なり、計劃なりが樹立されると、次に實行に移るのである。學習實行を行ひながら、一面において、また方法の工夫、計劃をすゝめて行くやうにする。ここで注意しなければならぬことは、自學自習においては最後までやり通す意志を大切としなければならぬといふことである。自學自習は徹頭徹尾に努力的の學習である。自學自習において、僅かの失敗や困難のために、最初の學習目的を放棄したり、變更したりすることは寧ろないことである。一度やりかけたことは最後までやり通さねばならぬ。そこに自學自習の眞生命がおかれてゐる。

自學自習において、一つの問題を解決すると、そこに快感を覺える。努力に對する大きな滿足を覺える。この滿足感は教師中心の受動的教授において味ふことの出來ぬものである。かくてある目的に對して一通り自學自習を終つたならば、その過程を反省するといふことを忘れてはならぬ。學習のやりつばなしは、如何なる場合においてもよろしくない。十分に反省考察して、これでよいといふ自信のつくところまで行かしめなければならぬ。要するに自學自習としては、最後まで少しのゆるみもない學習をさせるといふことを肝要としなければならぬ。

自學自習中心の學校經營を行ふには、何より環境整理を行ふ事を忘れてはならぬ。教室（學習室）に各種の方便物を持ちこむ事は、この場合不可缺の事項である。學級文庫の如きも、十分にこれを完備することの必要を生ずる。尤も學級文庫その他の環境整理を行ふことは、一に經費の問題であり、今日の學校經濟としては到底この方面の充實を望むことは困難であるが、これを一般の學級に行はれなければならぬ。學級經營は、この方法は、これを經濟的ならしめる工夫を講ずることを忘れてはならぬと思ふのである。何れにしても自學自習の學習

自力更生主義學級訓練

今日一般財界の行詰まり、農村の不況、疲弊は、自力更生を俟たずしては救濟されうべくもない。政府の農村救濟費の如きは、饒石に水の狀態である。他人本願では、農村は救はれない。自ら自覺し、自ら緊褌一番の勇氣を奮ひ、自己自身

の困難の途を開拓して行くことを大切としなければならぬ。農村の疲弊からして、學校經營も必然に困難の極に達してゐる。俸給不拂、減俸、寄附強要などと學校經費は實際に慘憺たるものがある。熊本縣下の某小學校の如きは、三ケ月間も俸給不拂がつづいて、インフレ景氣で物價は暴騰するし教員の生活は全く無收入、困窮の極に達してゐるところもある。事態かくの如きであるから、學級經營に必要なる運用費の如きも一切支給されないといふやうな學校が多いのである。しかし學級に要るべきものは要る、これを無視するといふわけには行かない。模型や繪畫の如き一部の學習方便物は、これを教師兒童相互の勞作によつて製作するとしても、專門的な技術を要するものは、これをどうしても購入しなければならぬ。そこに切實なる學級經費の問題を生じてくるのである。この要求からして自力更生の學級經營といふことが提唱されることになつたのである。

自力更生の學級經營においては、先づ教師と兒童の協力勞作によつて可能なる事項は、これを勞作によつて補ひたいものと思ふ。例へば地圖の一部、模型の一部、理科實驗器具の一部、地理學習の直觀物の如きものは、これを勞作によつて補ひ、學級經費を輕減したいと思ふ。これはその勞作自身にも教育的價値がある。日常の學級の一切の經費は、生活團體において補充して行くといふところに、獨立獨歩の勞作的精神が確立され、共同社會的訓練が可能となり、經濟思想を確立することも出來るのである。その實際においては、これを單なる方便的な意味のものにとらしめることなく、矢張り教育上の價値ある仕事として、勞作的精神に立つて行はしめねばならぬと考へる。

兒童と教師との勞作によつて、學級經費を補充すると共に、またどうしても實際上の經費を要する方面に關しては、これを別の方途に訴へなければならぬ。缺食兒童に對する給食費、學用品を持たぬ貧困兒童に與へる書鯖文房具などの費用各種の諸寫刷の費用、その他の學級經費は、これを生産教育によつて補充するより外に途はない。卽ち兒童に各種の實習

をなさしめて、その收獲物を市場に販賣し、その利益を以て學級經費を補充して行くのである。この方法を小學校としては不適當の方法、やゝ穩當を缺く方法のやうに非難する人もあるが、決して非難に値する方法ではないと信ずる。むしろ從來の教育が、その生産的方面、生活に直面する實際的方面を蔑視した反動として、これを非難することはあやまつた考へであらう。この生産教育によつて、何より兒童に實際的な生活教育を施すといふ長所を見逃すことは出來ぬ。また期せずして職業教育の實を擧ぐることも出來る。卒業後の社會生活の準備を行ふことも出來るのである。もと〳〵自力更生の學級經營は、必要に迫つて提唱された方法であるが、これは教育的にみても、純粹な教育的立場からみても、大いに價値あるものたることは疑ふところがない。學級經營費に餘裕あるところにおいても、この考への留意を持つことは無駄ではあるまいと考へる。

では生産教育を行ふには、如何なる點に留意すべきであるか。これは尤も各地方の事情によつて、それ〳〵變改をみるべきことはいふまでもない。各地方の事情によらなければならぬが、その何れも產業組合と連絡をとつて、販賣方面を委託することを大切とする。時には兒童自身にも、その販賣の方法を實際に經驗せしむることを要する。次に留意すべき稍一般的の事項を擧げてみる。

(一)木竹細工　木の細工物はとにかくとして、竹材による細工物としては近來種々趣向の新らしきものが市場に出てゐる。竹材による人形製作などは、兒童の手工科と連絡する上において興味も多い。教師の工夫を加へれば、いろ〳〵變つた鄕土藝術品を創作することも出來るであらう。

(二)養鷄　學級附屬の鷄舍を建てさせるがよい。養鷄當番を設け、養鷄日誌をつけさせるやうにする。その日產んだ卵の數、販賣個數、飼料費などを日誌につけさせるやうにする。各兒童の家庭においても、養鷄を勵行させるがよろしい。

養鶏は副業としては却々利益を擧ぐることはむづかしいが、學級の仕事としては適切のものである。

(三)トマトの栽培　トマトは年々その需要高が增加しつゝある。需要に對してその供給高が少い。故に割合に高價である。しかもトマト栽培は特別の技術と知識とを有するといふものではないから、大いにトマトを栽培して、これを販賣するやうにしたい。更にトマトソース、トマトケチャップの製造をも出來るならばやらしたい。

(四)養兎　養兎は今後において益々發展すべき事業だと思ふ。農村の副業としては、好適のものであらう。養兎は毛皮として米國方面に輸出され、その肉は食用に供せられてゐる。

(五)鄕土玩具の製作　鄕土の特色ある玩具を、農村藝術品として製作させるやうにしたい。工夫創作によつては可なり面白い、味のある藝術的なものも製作されることと思ふ。實際において、小學校で製作した鄕土玩具を市場に廣く販賣してゐるところもある。學級經營の自力救濟、延いては農村の自力更生のために、學校がその先導者となり、開拓者となつて活動することがこの際望ましいことである。

實力養成主義學級訓練

兒童の實力養成といふことを學級經營の主眼とすべきことはいふまでもない。學級教育の究極の目的は、つまり兒童の實力を養成するといふ點にあらう。尤もこの實力は、單に知識技能といふ方面、卽ちその內抱するものが形式上に表はれ易いもののみを指さすものではないのである。兒童相應の道德生活の充實をはかるといふことも、この實力養成の內容でなければならぬ。そこで實力養成といふことは、これを近視眼的に考へる人は誤謬である。實力養成の學級經營は、その理想は高く、過程は困難なるものたることを知らねばならぬ。

實力養成の學級經營といふと、とかく誤り考へられ易い。學級經營の敎師は、先づ實力そのものの意義を正當に佛解してみることが大切であらう。實力とは何か、近視眼的な敎師は、單に授ける敎材をよく理解し、記憶すればそれで實力がついたものと考へ易いのであるが、これは少く共あやまりである。單なる敎材の記憶が十分であるからといつて、それで兒童の實力が十分についたとは考へられないのである。敎師中心の注入敎授、受動的敎授を信奉した人は、この點の實力で滿足したものであるが、これは大きな誤謬である。

兒童の實力は、決して注入敎授では求められない。單なる敎材の記憶や理解のみでは滿足のものではない。それだけでは、發展的な應用力ある知識內容とはならぬのである。一から十まで敎師の手引を必要とするやうであつては、その實力はつかない。どうしても兒童の實力をつけるには、その自學自習によらしめなければならぬ。例へ學習過程は遲々たるものであつても、困難であつても、その困難を打開して、自己の學習を完成して行くところに、眞に自己のものとする知識を收得することが出來るのである。敎師が與へてやる知識と、兒童が自ら學習して收得する知識と、その何れが眞の實力となるかは、玆に贅するまでもあるまいと思ふ。

學級經營の擔任者は、先づこの點に着眼することを忘れてはならぬと考へる。徒らに結果主義に眩惑することをつゝしまなければならぬ。學習の安易な結果のみをみて、兒童の實力の如何を肯定することはあやまりである。眼前の結果にのみ着眼して、眞に兒童の實力を養成するといふ方面を忘却してはならぬ。兒童の實力は決して早急に求められないこと、漸次に自發自學の學習訓練によつて求めるべきことを牢記することである。

二　學級訓練の着眼

前章に於て學級訓練の根本思想を述べて置いたが、本章に於てはその根本思想を根柢として、更に學級訓練の着眼を述ぶることにする。凡そ學級訓練は、學級經營の根幹をなすものであるが故に、その成否は學級成績を左右するものである從つて學級擔任たる學級經營者はその徹底に全精力を傾注するものである。

近來、學級訓練研究の機運が動いて來たが、これが指導たるべき良參考書は寥々たるものである。本書に述ぶるところは、理論の精髓を極め、實際の徹底を期したるものである。本書によりて學級訓練はその着眼を明確に把握し、その實際を誤ることがない。

生活訓練の着眼

學校學級の社會化家庭化をはかるといふ意味において、この生活經營を重んじたい。この經營において學級生活を趣味的ならしめ、學校學級といふやうな冷たい特殊の雰圍氣を除去し、和氣に充てる環境たらしめようと思ふのである。生活經營事項は次の行事生活と大同小異のものであるから、玆では僅かにその二三のものに就いて擧げてみよう。

（一）雛祭　三月三日、女兒のために行ふ祭典である。近來社會生活の複雜と共に、かうした我が國特有の優雅な美風がすたれ行く傾がある。情操陶冶のために雛祭を行ふことは、洵に教育上有意義なことである。三月三日には、女兒學級では、手工で製作した雛人形や各自家庭から持參した雛人形を、教室の前面に設けた雛壇に祭り、餅や菓子を供へ、手工勞作による清楚なる裝飾を施し、雛祭に因んだ書方圖畫等の小作品を陳列し、學級展覽會や學藝會を開くやうにするがよい。學藝會においては綴方の朗讀もあり、教師のお働噺や幼き頃の思ひ出話、唱歌や童謡などもあつて、賑やかに愉快に家庭的團欒をたのしむやうにしたい。番茶を啜り、饅頭やおせんべいに打ちくつろぐことも面白い。なほ雛祭の日には、父兄母姉の參觀も乞ひ、男兒童や職員をも招待するやうにする。而してこれらの來賓の餘興などあつてよい。しかし雛祭の日の兒童の服裝は華美ならざるやう注意しなければならぬ。制服の學校であれば、別にその日に限つて美麗なる振袖の和服を着せしむるやうなことは排すべきである。

（二）端午節句　五月五日、男兒のために行ふ祭典である。端午節句には、女兒の雛祭ほど教室裝飾その他に手間どることはない。この日は學校として、運動場に鯉のぼりを立てるやうにする。而して校門には大國旗を掲げる。學級施設としては花菖蒲を飾り、武者人形の二三を飾るがよい。端午節句に因める兒童の綴方、書方、圖畫及び手工作品を展覽し、學藝會を開くやうにする。また勇壯活潑なる模擬戰などを行はせ、學藝會においては偉人英雄の歷史物語を發表し、兒童の前途を祝福してやるやうにしなければならぬ。

（三）七夕祭　七月七日に各學級に行ふ祭典である。その方法は大體雛祭に準ずればよい。教壇に祭壇を作り、笹竹を立てゝ、それに短冊を下げるやうにする。短冊には兒童の繪や綴方、俳句や歌を書き、教師もこれを書かなければならぬ祭壇には學級園で作つた野菜を供へ、番茶を啜りお饅頭を頰ばる。學藝會を開いて教師は、七夕祭の由來や、七夕祭及び星に關する美しい傳說や童話を話してやる。而して七夕祭に關する兒童の優美な情操を陶冶することに努める。

（四）父母の日　適宜の時にこの會を開く。この日には父母を學校に招待し、教への親と生みの親とが家族的に暮すのである。而して、父母の恩に關するお話を聞かせ、兩親に對する鴻恩をふかく內省せしめ、感謝の念を起させ、報恩の實を擧げさせるのである。父兄會の場合に開催するがよい。

（五）　皇室誕生說　誕生說は月一回にまとめて行ふ。この兒童誕生說の順序は、大體次の形式順序によらしむる。

(1)　御守宮參拜　その日の誕生者は正面に立ち、學友はその後方に橫隊に整列し、校長が誕生者の前途を祝福する說辭をさゝげ、一同しばし默禱をさゝげ、敬禮を行ふ。校長の說辭は簡單に「今日は××君と××君の誕生日であります。その御誕生をお祝ひし、幸福と健康とをお祈りいたします。」位にとどめてよろしい。

(2)　祝賀會　敬意に歸つてから祝賀會を行ふ。唱歌、お話、說明、餘興などに打ちくつろぎ、家庭的團欒のたのしみを滿喫せしむるのである。

(3)　答辭　祝はれた者は答辭を行ふ。

（六）　慶弔慰問　人生諸相の悲哀を敎へたら敎育がない。慶事に對しては、學校全兒童が心から慶意を表すると共に悲哀事に對しては、また心からの弔意をさゝぐることを心がけねばならぬ。これは單に形式に流れてはならぬ。心からの誠意による慰藉のあらはれでなければならぬ。

行事訓練の着眼

（一）　儀式

(1)　方針　近來は一般に溫故知新の精神がすたれてゐる。徒らに新を追ふことにのみ汲々として、古き傳統の美を探ることを知らぬ。人心やゝもすれば姑息して、物に對し、人に對して嚴肅の氣がうすらぐ。茲に小學敎育においては、儀式の精神を說話し、緊張の感にひたしむることを緊要とする。先年、東京市大において、三大節の日に國旗を立てず、世の非難をあびたことは、世人の記憶に未だ新たなるところであらう。專門學校においてはともかくとして、小學國民敎育

においては、十分儀式の精神を振起しなければならぬ。

(2)　儀式の種類　儀式の種類としては、四大節、證書授與式、始業式及び終業式、入學式、職員送迎式、對面式、役員任命式、記念式などがある。

(3)　四大節　四大節の儀式の順序は大體次の如くである。一同着席、敬禮、開扉、唱歌（君ケ代）、職員一同拜賀（最敬禮）、來賓一同拜賀、勅語捧讀、閉扉、學校長謹告、唱歌（式歌）、敬禮、順次に退場。——御眞影を拜し奉る時は、宮中において拜賀を仰付けられて拜禮し奉る時と、同一の手つゞきで實行さるのが正式である。しかし學校ではこれは不可能であるから、校長だけがその手續をとり、他は校長の後方に整列し、略式にて拜禮するのである。全兒童もまた一人々々拜禮するの精神を以て、嚴肅に儀式に參列することを旨としなければならぬ。

(4)　始業式　學年始の大切なる式である。前年度の反省を行ひ、當該學年の主なる行事や、努力すべき諸點などを明示することを大切とする。

(5)　入學式　式の順序は次の如くである。一同着席、君ケ代（奏樂）、町村長の挨拶、校長の訓話、受持訓導の披露、兒童を各敎室に導引。——兒童が最初の學校學級生活をはじめる儀式であるから、愼重に取扱はなければならぬ。その印象を不純ならしめざるやうに留意しなければならぬ。訓話は極めて簡單にはつきりと分り易く、兒童によく了解されることを旨としなければならぬ。あまりに長たらしい訓話は兒童を退屈させる以外の何者でもない。

(6)　卒業式　訓話は具體的に、卒業兒童に印銘ふかく感銘強いやうに留意しなければならぬ。式後御守宮に一同參拜して、報告を兼ねて謝恩の精神を表はさしめねばならぬ。

(7)　職員送迎式　送別式には感謝の意を十分に表白させなければならぬ。また歡迎式には誠心誠意これを迎へしめ、

師に對する德性を涵養せしめなければならぬ。送迎式はすべて嚴肅に、師弟の情誼をふかめることを旨としたい。

(3) 諸儀式と準備　儀式に當るには次の如き準備はこれを徹底しなければならぬ。

(イ)案内狀の發送　文書係の仕事である。學校の慣例により發送する。

(ロ)儀式の趣旨の徹底　儀式の由來、沿革、國民の覺悟、奉公の念、日常生活との關係など、その趣旨の徹底を期することを肝要とする。儀式における訓話は、全學年を對象とするものであり、然も簡單明瞭なることを期するものであるから、その準備を怠らず愛當なる訓話を行はなければならぬ。

(ハ)式場準備

(ニ)唱歌練習　立唱ということを留意すること。速度を正しく保たしめること。咳拂ひをなさしめざること。咳拂ひは不自然なものでなくとも、式場の氣分を紊亂せしむる原因となる。

(ホ)來賓の接待　清掃して接待用品を備へておくこと。兒童の成績物、教授上の參考品、教具類などを陳列しておくこと。

(二) 宮城遙拜

(1) 方針　皇室に對する尊崇の念を涵養せしむるため、日本國民としての自覺を深むるために、この式を行ふ。宮城遙拜ということは、我が國情に照らし、また近來の我が國際情勢よりして緊要不可缺の行事であらう。

(2) 時期　毎月一日及び十五日の朝禮の時において行ふのである。兒童は服裝を整へ、手を洗ひ口をそゝぎ、遙拜式に臨む。

(3) 順序　學式の挨拶(校長)、君ケ代(奏樂)、宮城遙拜(全部宮城に向つて最敬禮)、訓話(皇室及び國家に關する事項を話す)

(三) 記念日

(1) 社會國家に關するいろ〳〵の記念日　を永久に忘れることなく、この日を有意義に送り迎へることは、よき修養の機會を作ることである。殊に國家に關する記念日は、國民精神作興の上から、これを愼重に取扱ふやうにしたい。

(2) 記念日の種類　記念日として次の如きものがある。憲法發布記念日、陸軍記念日、海軍記念日、時の記念日、學校創立記念日、戊申詔書御下賜記念日、教育勅語御下賜記念日、國民精神作興詔書御下賜記念日。

(3) 方法

(イ)記念日の由來を具體的に明らかにしなければならぬ。

(ロ)記念日に因みたる學校の會合を催すこともよろしい。例へば三月十日には、學級において「陸軍記念日の會」といふやうなものを催すのである。

(ハ)勅語、詔書の奉讀を行ふ。

(ニ)訓話を行ふこと。實生活への關連の下に訓話を行ふのである。學校長の訓話はどうしても徹底しないから、學級においてこれを補充し、具體的ならしめることを大切としなければならぬ。或は社會的に有意義な活動をなさしめることもよい。例へば時の記念日に、時の宣傳を街頭において行はしむるが如きである。

(四) 墓參

(1) 方針　鄕土のためにつくせし先賢の遺德を偲び、崇敬の念を確立せしめ、鄕土觀念をたかむるためにこれを行ふのである。

(2) 方法　大體次のやうな順序方法で行へばよろしい。

(イ)等三以上の兒童を參加せしむる。

(ロ)春秋の彼岸において、適當の時期において實施する。當日は先賢の墓所の清掃を行ふ。新しき香華をさゝげる

(ハ)朝會の際において、先賢の行蹟につき具體的に講話を行ふ。更に學級において、各教師において詳細なる講話を行ふ。

(ニ)體拜は嚴肅に行はしむる。

(五)　朝會

(1) 方針　從來の朝會はむしろ朝禮の觀があつたやうである。講堂の入り方がおそいとか、どこ〳〵の掃除が惡いとか、物置がみだれてゐるとか、朝の小言の陳列會が朝會であつた。今後においてはかくの如き朝會を排し、明るい情操陶冶を目標とする方案を加味して行きたいと思ふ。

(2) 指導者　朝會進行の指揮者は誰が一番よいか。教師がよいか。高學年の兒童がよいか。教師の中でも體操專任がよいか、首席の訓導がよいか、些細の事項であるが、一應考慮しておくことも肝要であらう。何れにしても指揮者の固定することは器械的な調子になつてよろしくない。

(3) 訓話　訓話の內容としては、訓練上奬勵すべき事項、禁止すべき事項、實行に訴ふべき事項、偶發事項など、いろ〳〵のものがあらう。訓話は前以て訓話簿に記入しておき、職員全部の了解を求めておくことを忘れてはならぬ。訓話は出來るだけ平易なることを期し、具體的に、各學年の年齡を考へることを必要とする。訓話はその徹底をはからなければならぬから、獨りよがりの抽象的な內容は排すべきである。またその訓話の千篇一律的となり、器械的となり、類型的

となることもつゝしまなければならぬ。

(4) 實行事項　朝會における主なる實行事項は次のやうなものである。體操、校歌の齊唱、校訓、誓詞の朗讀、歌想、宮城遙拜、服裝檢査、運動場の整理、團體競技など。尤も每朝この通りの事項を實行せしむるといふのではない。適宜の時期において適宜の事項を實行せしむるのである。

(六)　修學旅行

(1) 方針　修學旅行は殊更に長距離のところを選び、宿泊日數を多くし、經費を多くすることを以て虛榮の具となつてゐる。修學旅行は、必ずしも遠距離にこれを選ばねばならぬといふことはない。近距離の地點に旅行見學の教育的要素が備つてゐるならば、わざ〳〵遠距離の地點を選ぶ必要はないのである。要するに修學旅行は、これを經濟的に能率的に企劃することを肝要とする。月並的な徒らに經費の嵩む修學旅行を排して、經濟的に能率的なる修學旅行を行はしむることが大切である。

(2) 實地踏査　修學旅行に先立つて、敎師は該地方の研究を詳細に行ふことを忘れてはならぬ。この踏査は各方面にふれて十分注意ぶかく綿密に行はなければならぬ。旅行の時間豫定はもとよりのこと、實地に關する地理的、歷史的、產業的各方面からの踏査研究を果さなければならぬ。また危險と思はれる事項につき、特に留意してみる必要がある。團體旅行、殊に旅行訓練の出來てゐない兒童の修學旅行であるから、危險事項に對する注意を十分に持つ必要がある。

(3) パンフレツトの作製　旅行地に關して國史、地理、文學、產業、民情などのあらゆる點より考察し、具體的なるパンフレツトを作製する。これを一は家庭に配布させ、一はこれを中心に課外研究を行はしむる。更に各教科、殊に地理歷史の時間において、旅行地の地歷事項につき復習整理を行ひ、十分旅行の豫備知識を與へるやうにしなければならぬ。

更に算術において、旅行費用の計算など旅行學習を行はしむることも意義ある方法であらうと思ふ。

(4) 說明　放課後一堂に兒童を集合せしめ、パンフレットを示しつゝ說明を加へる。修學旅行の目的、みるべきところ、觀察の要點、その外の諸注意を與へる。卽ち道路步行時の注意、汽車汽船乘降時の注意、乘物中の注意、病氣の場合などの注意事項を徹底させる。東京大阪の省線電車に乘る場合は、自動式扉のことを附加しておかなければならぬ。總じてパンフレット說明の場合は、兒童にも質問させて、十分徹底的の了解を與へておくことを期さなければならぬ。

(5) 家庭通告　パンフレットと共に、左の如き事項を示した謄寫刷物を各家庭へ配布しなければならぬ。(イ)出發の日時、(ロ)集合の場所、(ハ)旅行の經過地名、(ニ)費用、(ホ)引率者、(ヘ)携帶せしむべき物品、携帶せしむべからざる物品、(ト)歸校の時刻、(チ)その他。

(6) 費用

(イ)町村費、父兄後援會、保護者會などより補助金をうけ、一人當の負擔金を多少減ぜしめるやうにする。

(ロ)兒童各自の負擔すべき旅行費用は、學年始めにおいて、家庭の了解を得て貯金といふ名目の下に積立てゝおかせる。學級でまとめて積立てゝもよい。

(ハ)參加人員の多少によつて、割引の關係などから金額の上に多少のゆとりや不足を生ずることもある。これが父兄の耳には異樣にひゞき、敎師が不正のことでもしてゐるやうに思はれることもある。これほど痴ざめの惡いものはないから、旅行經費についてはこれを正確に父兄に發表することを忘れてはならぬ。

(7) 引率者　擔任者は引率の義務があるが、その外役場側よりも、學校看護婦の如きも附添ふやうにすれば萬全を期することが出來る。しかし、これも經費の問題である。他の附添者はなくとも、敎師と兒童さへ緊張して居るならば、決

して支障は起らない。

(8) 自治訓練の機會　この機會において、平素の自治訓練の實踐を事實の上にあらはさせるやうにして行く。兒童相互に制裁しあひ、協同精神によつて、集合解散、乘物の乘降など相戒めあつて行はしめる。

(9) 旅行と不參加兒童　修學旅行は小學校時代の樂しい思ひ出として永久に忘れることの出來ぬものであるから、出來るならば、すべての兒童が旅行を樂しむやうにしたい。しかし家庭の事情や身體の都合などによつて、幾分不參加兒童の生ずることは止むを得ない。親の情として兒童を旅行に出したいが、經濟上の都合で兒童に因果を含めなければならぬ家庭もあらう。その兒童の心情には、敎師は十分の同情を分つやうにしてやりたい。不參加兒童は少數だといふ理由からこれを厄介視し、雜子扱ひするのは可哀相だ。不參加兒童に對しては、それが病氣事故でないならば、二三日の自習等を立て、これが材料を用意してやり、敎育者としての責任を果たすやうに心得べきだと思ふ。

(10) 旅行後の處置　修學旅行はその後の處置を十分必要に行はなければならぬ。何でもやり放しでは敎育的効果は擧がらない。

(イ)旅行感想の表現　親方として發表させる。風景などを詩として發表させるのもよろしい。或は繪畫としてスケッチを表現させるのも面白い。それから旅行地の先々で買つてきた繪葉書を整理させ、これを西洋紙にはらせる。また共同勞作として、旅行地の地圖を描かせるもよい。而してその地圖を壁にはつて、繪葉書をテープで結び、展覽會を行ふと有意義である。各地方の名產の包裝紙の如きも、これを展覽すると面白いであらう。

(ロ)反省會　旅行後に樂しい話し合ひを行ひ、反省をやる。例へば敎師が說明をするときに、コソ〳〵話をした者があつたが、あれはよくないことだとか、何處ではずるよん押賣りがやつてきた、あんな時にはぐづ〳〵してゐ

るのがいけない。強くはつきりと断らねばならぬ、押賣りの茹卵とアイスクリームなどは品の悪いのが多いからちやんとした店のものでなければ買つてはならぬ、といふやうなことを話してやる。或は又動物園の象の檻で手を出したり、顔を近づけたりしたものがあつたが、象が鼻を突き出したらあぶない。東京には外國人が澤山歩いてゐた、君たちはぢろ〳〵みてゐたが、あれは人に對して失禮になる、船で何處を立つとき、宿屋の番頭さんや女中さんたちが見送りにきた、君たちは默つてそつぽを向いて知らん顔をしてゐたが、折角見送りにきてくれたのだから「さよなら」をいふべきだといふやうなことを話しあふのである。その他、旅行中氣のついたことを反省することとする。

（ハ）決算報告　會計は明細に謄寫して、父兄に配布することを忘れてはならぬ。この點は明白を旨としなければ、とんでもない疑惑の誤を向けられることがある。

（ニ）茶話會　反省を旨として、お茶を喫みながら、旅行を主題とした茶話會を催すやうにする。

（七）學藝會

(1)　學藝會の教育的價値　學藝會の教育上の是非論は今更檢討するの餘地はないが、教師のタイプによつて、これを嫌惡する者と、歡迎する者とに分けられるやうである。若い明るい文學愛好家肌の教師はこれを愛好し、同じ文學愛好家肌でも暗い性格の者や生眞面目な教師はこれを厄介視するやうである。而して後者にいはしむれば「學藝會は教育的なものでない」と非難し、前者にいはしむると「兒童がはめを外づして興がるところに個性の發揮をはかることが出來るではないか。いつも冷たい固い學習ばかりでは、兒童の本性を殺してしまふ。」と反ばくする。しかし要は、單に學藝會の教育的價値は、教師の嗜好によりて左右さるべきものではない。學藝會の教育的價値は嚴として存在する。これを具體的に詳

述することは出來ぬが、左に要項的に示してみよう。

（イ）個人的教育價値

○眞劍な氣持を以て事に當らしめること。眞劍な心持を以て事に當ることによつて、その體驗生活を深め、その體驗によつて更に自己を深めることが出來る。

○自己を反省々察せしめる機會となること。はつきりと自己の力を知ることが出來る。

○自己の長短を知ることが出來る。

○自己を深めると共に發展せしむること。

（ロ）社會的教育價値

○他と共に笑ひ怒る社會性を練ることが出來る。

○他によつて自己をみとめることが出來る。つまりこの機會において、自分自身の力を發見することが出來るのである。

○社會性があらはれてくる。

○演出に對する心持を背景として、反省する機會を作ることが出來る。

(2)　定期式學藝會の長短

長所

（イ）兒童の期待心を喚起することが出來ること。

（ロ）學藝會に對する用意を自發的ならしめ、自治的に行はしめうること。

(ハ)充分用意の時期があるから、各自の獨創味を出さしめることが出來ること。
(ニ)學藝會の演出もよく出來ること。

短所

(イ)學藝會のための學藝會となり易い。
(ロ)學校行事と衝突し、その期を確守出來ず、その何れを選ぶべきかを迷ふこともあること。

(3) 不定期學藝會の長短

長所

(イ)期待心を更に强めることが出來る。
(ロ)不斷の練習の程度を率直に、何等の特殊用意なくしてみることが出來る。
(ハ)機械的に流れず、拙ければ拙いなりで、自由に演出することが出來る。

短所

(イ)熱中するの結果、他教科の學習を犧牲にするやうなおそれがある。
(ロ)出演を廣く一般の兒童に及ぼすことが不可能である。
(ハ)この種の不定期學藝會は、他の學校行事に附帶して景物的に行はれるものであるから、學藝會としての獨立的存在、意義をみとめられない。

(4) 學藝學藝會の長短

學藝としての學藝會の長短としては、次の如き事項を擧げることが出來る。

長所

(イ)學校學藝會のやうに兒童の年齢や學年の異ることがないから、相互に了解出來る內容のものを演出して共に樂しむことが出來るといふ長所がある。
(ロ)これを管理する上においても都合がよろしい。大規模でないから。
(ハ)實演する兒童も、觀衆とぴつたりと呼吸を合せることが出來る。
(ニ)實演練習するの機會を多く持つことが出來る。

短所

(イ)他學年の實演をみる機會が少いので、自然にその比較が出來ぬといふ憾みがある。
(ロ)いつもきまりきつた者の演出となつて型式的となり、新鮮味を缺き、興味がなくなつて來る。卽ち指導上の注意を怠ると、實演種目が固定してしまつて生氣を失ふやうになる。
(ハ)特殊の傾向にのみ流れ易いやうになつてしまふ。例へば理科趣味の教師の組では理科實驗とか自然界の不思議といふやうなことが、學藝會のプログラムを飾るやうに固定してしまふのである。

要するに學級學藝會においては以上述べたやうな長短があるから、この點を十分考察吟味して、その眞全なる發達をはかるやうに留意しなければならぬ。

(5) 教師の主催する學藝會と長短

長所

(イ)學藝會の持つ各種の教育的價値を吟味し、これらの教育的價値を計劃的に組織立て、具備するやうに立案する

ことが出來る。これは兒童主催の學藝會には求むることの出來ないものである。

(ロ)指導をなすための方便とすることが出來る。

短所

(イ)兒童が自發的に、學藝會を樂しむことが出來ない。兒童は他律的となり、機械的に出演しなければならぬこととなる。

(ロ)プログラムの進行も機械的となり易く、自由な雰圍氣を作り出すことが出來ない。兒童は只教師から教へこまれた事項を誤まらざらんことにのみ汲々とし、氣苦勞するやうなことになる。

(6) **兒童の主催する學藝會と長短**

長所

(イ)自發的に行はせることが出來る。自分たちの學藝會といふ自覺を與へ、自發的の熱意を傾注せしむることが出來る。少く共教師の學藝會ではなくして、兒童の自發的自覺的な學藝會であるべきことはいふまでもない。

(ロ)自覺することによつて、兒童は大なる責任を以て努力的にこれに當るやうになる。この自覺と自律と期待心のないところに、本當の教育的意義ある學藝會を行ふことは出來ないと思ふのである。

(ハ)相互に研究し合ふ機會を作ることが出來る。こゝに兒童相互の協同生活が深化され、そこに社會的生活の訓練が徹底されることとなる。

短所

(イ)兒童主催の學藝會は、結果本位、興味本位のものとなつて教育的價値といふ點からみると遺憾な點が多いもの

となり易い。兒童は高學年と雖も教育に關する知識と經驗に乏しいから、どうしてもその體系上に不定のものが多いのである。

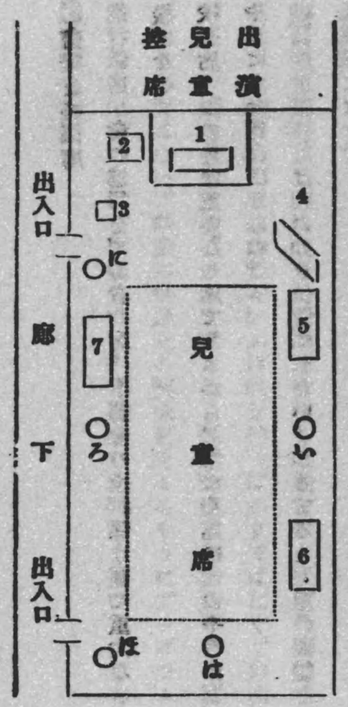
(ロ)獨創を缺いて、模倣的のものとなり易い。これはよくある現象である。

(ハ)兒童は附和雷同し易い性質を持つものであるから、一部の勢力ある兒童のみが學藝會の機能を左右するやうな結果に陷り易い。この點大いに留意を要することだと思ふ。

(7) **學藝會の實際**

(イ)プログラムの作製　學藝會のプログラムには、學藝の種目、所用時間、休憩、演出の兒童氏名などを記入し、謄寫刷としておく。なるべく變化あらしめるやうに按配し、藝術的なプロたるやう工夫することを必要とする。

(ロ)會場の準備及訓練、會場の準備の拙劣であり不妥當であると、整理がつかず、出演者が如何に苦心し、努力し演出者たる教師が如何に統率しても、その所期の効果を果たすことが出來ないやうなことになる。故に先づその會場の作り方に考慮を拂ふことは、學藝會の成果にとつて重大なる關係を有するものである。會場の作り方としては、大體次の圖の形式によることを理想とするやうである。



會場圖の說明　1、演壇及卓　2、進行係席　3、校長席　4、講師席　5、來賓席　6、職員席　7、空席或は控席　いろは、會場係席、にほ、案內係席。

（ハ）會場と各係席

進行係席　會の進行を司る者の席。學藝會の進行係は實に重大なる責任を有するものである。その手腕を存分に振はせる。

校長席　この席は重要なる席であるから、常に空席にせぬやうにしなければならぬ。而して校長は會を總覽するやうにしなければならぬ。

職員席　職員席は圖の如き位置にしたい。かくすると兒童の視線を妨げることなく、且つ全兒童を監督することも出來てよい。

會場係席　少く共三ケ所、會場の廣い場合は五六ケ所に設ける樣にしたい。而して會場の整理に當らしむる。兒童席　なるべく演壇との間を接近させる。なるべく、ゆとりのあるやうに設備することを大切とする。

（ニ）會場の裝飾　學藝會氣分を出すために正面に紅白の幕を張り、天井や側面には適當の飾付をする。卓かけは、あまりけばけばしくないものを用ひる。浪花節の卓かけのやうな下品なものはよくない。花瓶、植木鉢の如きものも、相當のものを備へつける。すべてに俗惡氣分のないやうに、すつきりした裝飾をなすことが肝要である。

次に卓であるが、これは人によつてない方がよいといふ人と、ある方がよいといふ人がある。演壇に慣れてゐる人は無い方がよいかもしれぬが、然らざる者には演壇の卓がないと手持ち無沙汰で仕方がない。卓の高さは兒童の背に格好のものであらねばならぬ。あまりに高きにすぎると滑稽の感を與へる。水さし、コップなども忘れてならぬものである。なほ廊下には「靜かにしませう」「姿勢を正しくしませう」などのビラを貼り、來賓のためには「帽子をお取り下さい」「煙草は控へ室でおあがり下さい」などのビラを貼るがよい。

（ホ）觀衆整備の徹底　各自は規律を守つて靜肅に、演者に顏を向けて聞くやうにしなければならぬ。しかし規律正しくといつても、自由な愉快な氣持を喪失せざるやうにしなければならぬ。中には口を歪めたり、滑稽なおどけた面をしてみせて、演者を困らせようとする不屆の兒童もある。かうした兒童に對しては嚴に取締ることを大切とする。

（ヘ）案內狀を發送する　案內狀を謄寫印刷し、プログラムに添へて發送する。

(3)　學藝會の處理

（イ）學藝會がすんだ後に、職員兒童共にその反省を行ふことを忘れてはならない。或は當日のことを綴方として發表せしむる。又は印象畫として發表せしむる。學級新聞に記事として書かせるといふやうな取扱を怠つてはならぬ。

（ロ）來賓よりの來觀者を調査しておくことも大切である。

（八）　運動會

(1)　方針　毎年春秋二季に、或は一回行はれる運動會は、學校行事の主要なるものとして、兒童の最もよろこぶものである。運動會は體育向上をはかるといふ目的を持つばかりではなく、自治協同、公正、堅忍持久、剛毅果斷などの諸德を練磨訓練するの機會でもある。いふまでもなく運動會は、平常の體育の實績を發表するのが主眼であるから、觀衆の興味を主體とする必要はない。觀衆の俗惡なる興味をそゝるやうにプログラムを編制し、お祭氣分を盛ることは愼まなければならぬ。しかし兒童に自由なる氣分で、一日を樂しく面白く遊びくらさせるといふことを要としたい。

(イ)運動競技の選抜　運動會における運動競技は、兒童本位の清鮮なるものを多く加へたいと思ふ。即ち次の諸點に留意することを肝要とする。

○兒童心身並に男女の性別に適應するもの。

○兒童各自の體力氣力を遺憾なく發揮することの出來るもの。

○練習の發揮に十分の効あるもの。

○個人活動と團體活動との調和の適良なるもの。

○僅少の時間において勝敗を決めることの出來るもの、然も運動量の比較的に多きもの。

○平常兒童が練成したるものとその應用によるもの。」

(ロ)プログラムの作製　運動種目の選定排列がすんだならば、プログラムの作製をしなければならぬ。次には各學級よりプログラム係に提出する運動順序明細書の一般形式を示してみる。

例	學年	運動種別	人員	同數	時間	準備器具及その員數	團	整列係	指揮係	審判係
	等五男	體操	團	六五	一	一五分	飛繩、平均臺全部	內	某	某	ナシ

(ハ)役員及任務分擔表　運動會の進行を滯滯なく圓滑に行ふには、この役員及任務分擔表を作つて、各自の責任を十分負擔せしむることを肝要とする。次にはその實際例を示してみる。

運動會役員及任務

種別	役員	任務
		前日ヨリ當日
總務係	會長タル校長、主事	總テノ會務ノ統理
庶務記錄係	堀、河田	案內狀印刷發送、メタル交涉、配置圖作成、賞狀印刷、賞狀記入 當日一切ノ記錄、競技ノ採點、賞狀記入
賞品會計係	灰山、楠本	賞狀賞品ヲ授與スベキ運動種類ノ調査並ニ賞品ノ品數調査購入、賞品授場ノ設置 一般會計、賞狀賞品ノ授與
接待係	佐山	來賓名簿ノ調製、來賓徽章作成、接待用具準備、來賓席設置 徽章ノ頒布、案內
衛生係	佐藤、夫馬	救急手當ニ要スル器具及藥品ソノ他ノ準備 救急手當、湯呑所、便所ノ衛生
運動準備係	大下、福田	プログラムノ製作印刷、運動器具準備、運動順序明細書、運動圖解書ノ作製印刷、競技者ノ心得ノ制定、運動準備進行豫定表ノ作製、運動場ノ準備 器具ノ準備ト整理
進行係	三原、佐伯	出發準備、出發合圖、開始合圖
揭示係	若山	揭示用具ノ準備、揭示場ノ設置、立札ノ作製設置 揭示
出發合圖係	田所、岡田	出發準備、出發合圖、開始合圖
審判係	若林、倉	審判用具ノ準備、運動場ノ準備 審判、レコード測定、受賞者引率

風紀看護係	磯山	兒童席ノ準備
タイムス係	菊谷	タイムス用具ノ準備、ポスター作製

會場内ノ取締、兒童ノ監護
タイムス印刷配布

(ニ)案内狀　案内係は案内狀の發送をしなければならぬ。案内狀には當日のプログラムを挿入しておくがよい。出來得るならば、運動競技の教育的解説を施して、父兄の認識を正確にしておくのである。この用意があれば、父兄も單なるお祭氣分で運動會をみるといふ弊害も幾分除去されるであらう。

(ホ)會計　運動會の準備一切に伴ふところのその經費、運動會費の整理、寄附募集などの一切の仕事に當らなければならぬ。

(ヘ)競技の練習　體育主任並部員などが主となつて、運動の要領實施方法などについて協議指導を行はなければならぬ。當日になつてまごつかぬやう、競技を演ぜぬやう、その順序をはつきり定めておくことを忘れてはならぬ

(ト)運動會の注意事項

○午前　時刻までに集合すること。

○前日に必ず用意すべきもの。——辨當包、履物、帽子、手拭などに姓名を記入すること。

○よく熟睡すること。朝食をあわてゝ食べないこと。小食せぬこと。

○服裝は出來るだけ輕裝とし、質素にすること。

○競技の心得。

公明正大に卑怯ならざること。

自己のベストをつくすこと。

係員の指揮に服從すること。

友誼を重んずること。

○觀覽の心得。

所定の場所にゐること。

聲援拍手は妨げなきも、競技の妨害をなさざること。

競技者を嘲笑罵言すべからざること。

運動の時期近づけば各自に用意すること。

買食をせぬこと。

(3)　運動會の處理　運動會の處理は、大體において、修學旅行或は學藝會の場合のそれと同樣である。

(イ)學校會を開催して反省をこころみること。次回の參考とすること。

(ロ)運動會當日の感想を、綴方として發表せしめ、或はスケツチとして發表せしむること。

(ハ)會計は明細なる發表を怠つてはならない。

(ニ)器具機械などは所定の場所にきちんと整理することを忘れてはならぬ。

(九)展覽會

(1)　方針　展覽會の教育的價値は、次のやうな事項を擧げることが出來る。卽ち(一)兒童に更に奮勵の機會を與へること、(二)父兄に對しては子女の教育に對し反省奬勵の機會たらしめること、(三)教師の反省機會たらしめること、など

である。然るに近來の展覽會は、兒童の偽らざる成績品の展覽ではなくして、教師の虚榮と阿諛と虚飾にみちた唾棄すべき展覽會に墮落し終つてゐる。兒童の純なる作品に加筆代筆し、世を僞瞞し、人を詐謀せんとして汲々たるが、現今の展覽會である。一體展覽會とは、何のために誰のために行はれるものであるか、教師の虚榮心をみたすためのものであらうか。教師の加筆したもの、或は大膽にも代筆したものが、識者の眼にはどう映るか、實に大膽なる欺瞞行爲である。展覽會はかくの如き、咀ふべき虚飾のものであつてはならぬと思ふ。例へ兒童の成績品は拙劣であつても、その結果のみを重んずべきではない。學習は結果主義を標榜するものではないから、展覽會においてもその努力の過程こそ尊重すれ、結果のみをみるべきではない。要するに眞の展覽會を開催し、眞の展覽會のみ方を馴致する事が大切だと思ふ。なほ展覽會に關しては特に次の三點に留意したいと思ふ。

(イ)成績品はその結果にまで到達したところの過程の説明、指導經過を參考品とし展覽することが大切だと信ずる

(ロ)横の成績のみをみることなく、各個人の縱の成績に對してもこれをみる必要があらう。特に個人として進歩の著しい兒童の成績品に對しては、その發達過程を展覽することが大切である。

(ハ)觀覽者の批判鑑賞の態度並にその方法について暗示し、又は説明するの必要があらう。鑑賞を具體的に徹底せしむるためには、この程度の用意を忘れてはならぬ。

(2) 展覽會の種類　展覽物の種類としては、いろ〳〵の場合において方向があり、これを一概に述べることは出來ないが、大體次のものを、展覽するやうにしなければならぬ。(イ)技能科の作品、(ロ)各科の學習帳、(ハ)各種の製作品、(ニ)各種の作品、(ホ)ある種の目的設定のための作品など。

(3) 展覽會と各係分擔

(イ)會場係　會場の準備裝置の一切を司るものである。朝間中會場係は會場を巡視して萬全を期するやうにしなければならぬ。

(ロ)準備係　展覽品の運搬、陳列の方法などを司るものである。準備係は却々忙しいものであるから、この係を多人數にふり當て、出來るだけ元氣な少壯教師にこの役を與へるがよろしい。

(ハ)記錄係　展覽會に對する一切の記錄の任務に當る。

(ニ)接待係　案内狀を發送する。茶器、茶菓、草履などの準備を徹底させる。

(十)唱歌會

(1) 方針　唱歌會としては、一校内の唱歌會即ち全校唱歌會と、學級唱歌會、更に部落唱歌會などの別がある。何れにしても唱歌會の目的とするところは、次の三點にあらうと思ふ。

(イ)唱歌學習の實績を發表し、更にその發達をはかること。

(ロ)教師としての反省機會たらしめること。更にその反省によつて、指導法をリファインせしめうること。

(ハ)學校教育の狀況を社會、父兄に紹介し、唱歌の價値を知らしむること。

(2) 唱歌會の準備

(イ)裝飾　唱歌會は多分に藝術的な催であるから、會場の裝飾方面に留意することを忘れてはならぬ。天井は小萬國旗で飾る樣にし、唱歌會らしき雰圍氣を作り出すやうに努力しなければならぬ。またピアノの上には、草花を挿入した花瓶をおくやうにする。

(ロ)プログラム　曲目を選定して排列し、プログラムを編制しなければならぬ。次には曲目排列上の留意點を示し

(十一) 映画論

(1) 方針 映画の社会的、教育的価値については今更喋々を要しないであろう。ソビエット・ロシヤの映画は、国家政策の一つとして利用されるの外、芸術手段としての効用を取り上げられてゐるその一例である。

(2) 年中行事と映画

(イ) 正月は全国民に関係ある正月は全国民に関係するまたは正月気分にふさはしい映画を上映すること。

(ロ) 国旗の一日を活ちそうと言う意味

(ハ) 学校的に国旗に関する映画を上映すること。

(ニ) 国旗掲揚の方法、国旗に対する敬礼の仕方等を知らせること。

(ホ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ヘ) 国民精神を作興すること。

(ト) 国語を標準化することが出来る。

(チ) 方言を統一することが出来る。

(リ) 国語を多く使用することが出来る。

(ヌ) 国民的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ル) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ヲ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ワ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(カ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ヨ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(タ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(レ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ソ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ツ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ネ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ナ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ラ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ム) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ウ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ヰ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ノ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(オ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ク) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ヤ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(マ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ケ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(フ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(コ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(エ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(テ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ア) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(サ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(キ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ユ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(メ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ミ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(シ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ヒ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(モ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(セ) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ス) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(ン) 国家的に生き甲斐を感ずるやうにすること。

(3) 国歌奏楽の実際

(イ) 批評会を開く。

(ロ) 次の話題について感想を発表し合う。（話題）

(ハ) 教材について児童の心理、能力及び興味

(ニ) 次の話題について感想を発表し合う。（話題）

(ホ) 児童、青年と校歌との関係

(ヘ) 校歌と児童、青年との結び付き

(ト) 校歌と児童、青年との関係

(チ) 校歌と児童、青年との関係

(リ) 校歌と児童、青年との関係

(ヌ) 校歌と児童、青年との関係

(ル) 校歌と児童、青年との関係

(ヲ) 校歌と児童、青年との関係

(ワ) 校歌と児童、青年との関係

(カ) 校歌と児童、青年との関係

(ヨ) 校歌と児童、青年との関係

(タ) 校歌と児童、青年との関係

(レ) 校歌と児童、青年との関係

(ソ) 校歌と児童、青年との関係

(ツ) 校歌と児童、青年との関係

(ネ) 校歌と児童、青年との関係

(ナ) 校歌と児童、青年との関係

(ラ) 校歌と児童、青年との関係

(ム) 校歌と児童、青年との関係

(ウ) 校歌と児童、青年との関係

(ヰ) 校歌と児童、青年との関係

(ノ) 校歌と児童、青年との関係

(オ) 校歌と児童、青年との関係

(ク) 校歌と児童、青年との関係

(ヤ) 校歌と児童、青年との関係

(マ) 校歌と児童、青年との関係

(ケ) 校歌と児童、青年との関係

(フ) 校歌と児童、青年との関係

(コ) 校歌と児童、青年との関係

(エ) 校歌と児童、青年との関係

(テ) 校歌と児童、青年との関係

(ア) 校歌と児童、青年との関係

(サ) 校歌と児童、青年との関係

(キ) 校歌と児童、青年との関係

(ユ) 校歌と児童、青年との関係

(メ) 校歌と児童、青年との関係

(ミ) 校歌と児童、青年との関係

(シ) 校歌と児童、青年との関係

(ヒ) 校歌と児童、青年との関係

(モ) 校歌と児童、青年との関係

(セ) 校歌と児童、青年との関係

(ス) 校歌と児童、青年との関係

(ン) 校歌と児童、青年との関係

いことである。

(ヰ)記元節　史劇映畫及び國家的な映畫を上映する。教育映畫の中には、この種の催に適合する歷史ものが可なり多いやうであるから、選擇に困難を感ずることはなからう。

(ノ)推祭　女兒學級において、女子向の文藝的娛樂的映畫を上映し、桃の節句の一日を更に感銘ふかからしむる。

(ニ)陸海軍記念日　陸軍記念日には、滿洲事變に關する戰爭實寫映畫、親兵式實寫映畫、兵營生活の實寫映畫等を上映する。海軍記念日には、海軍演習實寫映畫、軍艦の映畫、軍艦生活映畫、海軍飛行機映畫、海戰映畫等を映し、兒童の士氣を鼓舞するやうに努める。この種の教育映畫には相當すぐれた參考となるものが多い。

(ホ)卒業式　卒業式の日は小學校にとつて可なり重要な儀式である。卒業式の日を永く印象的ならしめるために、式後高尙なる文藝映畫を上映して、樂しく世の中に送り出す心がけが肝要だと思ふ。

(ヘ)入學式　新入兒童はこの日のすべての事項が珍らしく映る。學校生活、學級生活のスタートを面白く愉快にするために、式後において輕い漫畫映畫、實寫の類を上映して、學校とは面白いところといふ印象を强く植ゑつけることが肝要であらう。

(ト)天長節　皇室に關する、國家に關する映畫を上映する。脫帽させて、靜肅に觀覽せしむる。

(チ)學校創立記念日　式後において、娛樂的映畫を上映し、愉快に一日を送らせる。

(リ)明治節　明治大帝の大業を仰き奉り、國民の自覺と奮起を促すに足る映畫を上映する。乃木大將に關する映畫などは格好のものであらう。

(ヌ)諸會合　その他父兄會、學藝會、敬老會、部落會などの諸會合の場合に、娛樂的なる映畫を上映し、圖

深味のある會合たらしむることを肝要とする。その他四月八日の釋迦降誕祭、十二月二十五日のクリスマス等には宗教映畫を上映し、偉人の德行に關する尊崇の念を高める。然し小學校のことであるから、宗派的臭味にはふれないやうにしなければならぬ。

(3)　季節と映畫

(イ)四月　陽春四月の花の候には、天下の櫻の名所の實寫映畫を觀覽せしむるがよい。吉野山の櫻であれば如意輪堂も出てくるし、方々歷史趣味を深めることも出來よう。

(ロ)六月　六月の梅雨期においては、衛生映畫を上映する。梅雨時の衛生上の注意を口を酸ツぱくして說明するよりも、映畫による直觀の方が効果的である。

(ハ)七月　夏の澁滯たる光線は、山へ海への慕心をそゝるものである。暑苦しい學習ばかりではなく、時には風景實寫映畫を上映して、暑熱を忘れしめるがよろしい。

(ニ)九月　初秋の候には傳染病が流行する。そこで衛生映畫を上映して、傳染病に關する注意と警戒を與へるやうにする。

(ホ)十月　秋、運動の時期である。運動映畫によつて、運動に對する趣味と興味を深化せしむるやうにしたい。殊にオリムピック映畫などは格好のものである。

(ヘ)十二月　スキー、スケートの運動映畫を上映する。

(4)　映畫と設備

(イ)暗室設備　暗室設備は講堂と理科室に施すだけで宜しい。講堂、理科室において室外の光線を遮斷するために

は、暗幕として黒色縞子を二重張とし、最も輕便に幕の開閉の出來る樣レール式にするがよろしい。この經費約四百圓位はかゝる。尤もその廣さによつて異るが、なるべく設備は完全にした方がよい。

(ロ)照明設備　講堂の場合には中央に照明用電燈六箇、映寫中の照明用（これは兒童を識別出來る程度のもの）四個を講堂の片すみに半球狀のカバーに包んで裝置すればよい。

(ハ)スクリーン　スクリーンは幅十五尺、長さ十二尺のもの、英國製の布スクリーンで三十圓內外、金屬性のスクリーンは狹い場所なら結構であるが、普通の講堂では視角度の大きい布スクリーンの方がよい。視角度は金屬性スクリーン七十度、白布スクリーンは九十度である。

(ニ)映寫機　映寫機としてはアクメF十二號型、この機械は七百五十圓內外で手に入り、携帶用に出來てゐるし、火災の心配もない。その外には佛國製のジャッキー、アメリカ製のデヴライ、ローヤルベビーなどもよい。最高級品では何といつてもシンプレックスで、これは二千圓から四千圓は出さなければならぬ。教室用としてなら、バテーベビー、十六ミリなど何れもよろしい。

(ホ)映寫機室　これは出來るだけ堅牢質のものを選ぶがよい。普通の机を利用して差支はない。

(ヘ)非常口と通風裝置　非常出口はなるべく多い方がよろしい。災難の起らぬ機械であつても、地震その他の不測の天變が映寫中に起らぬとも限らぬ。映寫中ではとかくまごつき易く、負傷者も多く出る。故に、非常出口は可及的に多いことを要す。通風裝置は、多額の豫算を必要とするので、これを施設することは困難であらう。したがつて通風裝置を行ふ代りに、二三十分毎に一回窓をあけて、新鮮な空氣を流入するやうにしなければならぬ。夏は扇風機を使用して、暑熱を和らげるやうにする。

榮養調査の意義

(一)學校給食　學校給食とは、學校において兒童の辨當を廢し、一齊に學校から給食しようとするもので、これが衞生上極めて有價値なることは申すまでもない。この學校給食の問題は、近來の缺食兒童の激增と營養不良兒の輩出から、緊要なる實際問題とされるに至つたものである。尤もこの學校給食は古くから我が國の一部の小學校に於ては實施され來たつたものであるが、これは第一に父兄の了解と學校當の熱心がなければ、到底實施機關されるものではない。何より父兄の了解を得なければ先決問題としての經費に支障を招來するのである。

何はともあれ、この學校給食によつて、缺食兒童をその悲慘な境地から救ひ出し、先づ身體を作り上げてやることが、教育者として、また國家の負ふべき實務でもある。社會連帶の意企の下に、學校給食を開始して缺食兒童を救濟することが目下の急務ではあるまいかと考へる。また普通の家庭にしても、毎朝の辨當には、その副食物に困却する。毎朝梅干に澤庵だけでも、兒童は嫌氣をさすだらう。これを學校の方で榮養辨當を安價に供給するとなれば、誰しも贊成するのが本當である。尤もこの學校給食を行ふには、新たに學校に食堂を設けなければならぬから、當面の經費問題が頭痛の種である。佛國のやうに政府で命令すればわけはないのである。第二國民の身體を作る上から、更に缺食兒童を救濟するといふ上から、政府當局はこの際學校給食に對して積極的の計劃をすゝむべきだと思ふ。しかし學校全體の給食でなくとも、この際缺食兒童だけにでも、給食を行ふやうにしたい。これは人道上の問題で、一日も放任することの出來ぬことである。

(二)衞生室の設備

(1)　衞生室　學校によつては、これを醫務室とも休養室とも呼んでゐる。その名稱は何れでもよろしい。衞生室とは

學校醫の平素出校して執務する場所、及び傷病兒童の手當靜養に當てる場所を選ぶべきことはいふまでもない。通風採光の良好なることを條件とする。衛生室には寢臺を備へ、疊二三枚を敷いておくことも大切である。なほこの衛生室には、一切の衛生備品を備へつけるやうにしなければならぬ。

(2) 衛生備品　衛生室に備ふべき衛生備品は、少く共左記のものはこれを用意したいと思ふ。尤も經費の都合でその全部を備へることの不可能なる場合は仕方がない。

品目	數量
身長計	一ケ
體重計	一ケ
肺活量計	一ケ
卷尺	一ケ
萬國式試視力表	一枚
色盲檢査表	一冊
檢眼レンズ	一箱
外科手術器械	一箱
止血ゴム管	一箱
雜用鋏	一ケ
氷嚢	二ケ
手洗鉢	二ケ
耳用鏡子	二ケ
檢溫器	二ケ
膏藥壺	五ケ
煮沸消毒器	一ケ
コップ	二ケ
膏藥練板、ヘラ	各一ケ
秤手	一ケ
秤天	一ケ
乳鉢及乳棒	各一ケ
ジサ	一ケ
液量器	一ケ

イルリガードル	一ケ
洗眼受器	三ケ
洗眼瓶	二ケ
點眼瓶箱	一ケ
舌押	一ケ
アルコールランプ	一ケ
キルク抜	一ケ
耳鏡	一ケ
ガーゼ貯槽鑵	一ケ
鍍鑵並灰	一ケ
反射鏡	一ケ
皮下注射器	一ケ
硝酸銀	一オンス
クロールナトリウム	一ポンド
硫酸亞鉛	一オンス
鹽酸コカイン	一オンス
アルコール	五ポンド
昇汞錠	一本
クレゾール	一ポンド
石炭酸	二ポンド
甘汞	一オンス
重炭酸ナトリウム	一ポンド
サントニン	一オンス
硫黄華	三オンス
硼酸末	一ポンド
單軟膏	一ポンド
水銀軟膏	一ポンド
沃度丁幾	一ポンド
アンモニヤ水	一ポンド
アスピリン	二オンス
ブランデー	一本
カンフル注射液	一箱
オリーブ油	一ポンド
デルコトール	半ポンド
ビスミツト	半ポンド
ワセリン	一ポンド

イヒチオール	半ポンド
過酸化水素水	百瓦
歩硫青	一ポンド
ヒマシ油	一ポンド
グリセリン	一ポンド
乳糖	半ポンド

カンフル丁幾	一ポンド
硼酸軟膏	一ポンド
サルチル酸	半ポンド
ピウク軟膏	一本
ゴム絆創膏	

右の薬品の中劇毒薬は、硝酸銀、硫酸亜鉛、塩酸コカイン、昇汞水、甘汞、サントニン、沃度丁幾、石炭酸である。この中には素人の絶對に用ひてならぬものもあるから注意を要する。

(三)最後における清潔及び衛生上の注意點

(1) 履物　近來は洋服を大半の兒童がつけてくるから、したがつて靴をはく。女兒にしてもハイヒールの靴をはく者はあるまいが、とにかく踵の高い靴は衛生上害がある。これは扁平足になる原因を作るものであるから、なるべく高からざることを肝要とする。ゾウク製の靴は空氣の流通といふ點によろしいが、ゴム靴は足がむれて足部の皮膚病にかゝり易い。ゴム靴は値は安いが、足の衛生にはよくない。

(2) 掃除　掃除は大體等三以上から行はせるやうである。教室掃除は大切であるが、これを虚弱な兒童に強いることはよろしくない。殊に眼の悪い兒童に對しては、掃除は禁物である。掃除させるときは、窓はこれを開放せねばならぬ。窓を密閉して、換氣させることなく掃除しても何の効果もない。塵が室々の隅々に溜まつてゐると、寄虫が巣を作ることになつて、傳染病を媒介するから、十分念入りに掃除させることを大切とする。

(3) 便所　先づ便所の位置を考慮したい。南側の日當りよきところに便所をおき、且つそこが風上であつたりするとメタンガスが發生し、得もいはれぬ臭氣が教室に流れこんで、兒童の健康に影響を及ぼす。便所の清潔として注意すべきは、便溜である。これが常に充滿してゐては、臭氣も立ち、ウヂもわく。故に吸取を盛んにしなければならぬ。小便所の吸ひ込みは完全にして、汚ない紙片などが吸ひ込み口をふさがぬやうに注意させねばならぬ。防臭劑を注ぐことはいふまでもない。由來日本人ほど便所を汚す國民はないといはれてゐる。甚だ有難くない言葉である。殊に小學校の便所は、一すみても電吐を催すやうなところが多い。足の踏み場もないやうなことでは困る。次に扉の引手であるが、これは最も注意させねばならぬ。無關心に、兒童は全く平氣で非衛生的な危險を敢てしてゐる。汚ない手で、汚ない引手を開けしめる。そして手もろくゝ洗はない。その手で晝食のお辨當を食べる。實に怖るべき非衛生である。故に一日に二三回は、うすいリゾール水で引手を拭きとるやうにしなければならぬ。と同時に兒童に對しては、常に手を洗ふことをやかましくいふやうにしたい。人間の手は、あらゆる寄生の飛行根據地みたいなものであることを悟らせる。

(4) 清潔檢査　月三回位の程度において、衛生デーを定め、兒童の身體清潔檢査を行ふ。或は衛生週間として行つてもよろしい。檢査項目は次の如きものである。

爪——よく剪いてゐるかどうか。

爪——短かく切つてゐるかどうか。

頭髪—よく整理してゐるかどうか。殊に女兒に對しては頭虱の有無、その洗髪の如何などをしらべる。臭氣鼻をつくが如きものは洗髪せしむる。

手拭—持つてゐるかどうか。またそれが清潔であるかどうか。

被服―清潔であるかどうか。帯、袴の結び方などについても注意する。

(5) 教室塗油　教室塗油は、兒童の衛生上重大なる問題である。一教室内に配置した六個の培養皿内に落下した細菌落數は、塗油教室では平均七百個であつたとハイゼ氏は發表してゐる。教室塗油は、單に防塵の目的ばかりではない。教室の衛生上、また美感からいつても必要のことである。床面木目の辨別の出來ない、ドス暗い感じを與へるものよりも、艶々した塗油教室の方が、どれぐらゐ兒童の情操陶冶に役立つか分らない。殊にこの塗油は、呼吸器疾患のもの、トラホーム患者に對して健康上必要なるものであるから、可及的に塗油するやうにしたい。油は新規に塗る際は吸收される度がつよいから少し多く要するが、一坪平均三四勺位で可である。

(四)保健十則　兒童に平素保健衛生上の關心を持たしめるために、保健十則を教室に掲げるやうにする。而してこれを暗誦せしむるやうに心がける。次に保健十則を示す。この辭句は各學年の程度によつて、平易に分り易いやうに改める。

(1) 被服はゆるやかに着ませう。
(2) 日光や新鮮な空氣に親しみませう。
(3) 偏食しないやうにしませう。
(4) 食ひすぎをつゝしみませう。
(5) 毎日一回は通じをつけませう。
(6) 姿勢を正しく、明るい心でおさらひをしませう。
(7) からだや着物は、いつもきれいにしませう。
(8) 年に一度は健康診斷をうけませう。

(9) よく遊び、よく學び、よくねむることにしませう。
(10) いつも平靜な明るい心で一日を送ることにしませう。

(五)學習時の衛生

(1) 讀書、唱歌の衛生　讀書の際における讀本と眼の距離は、これを斜にもつて少く共一尺以上を距てる樣にしなければならぬ。また黒板の字は反射しないやうに、採光上に留意することを要す。唱歌教室は常に埃の立たぬやう床には塗油し、清淨を保たなくてはならぬ。洋服の場合は、襟やカラーで咽喉部をしめつけるやうなことなく、巢に聲の出るやうに留意させねばならぬ。特に唱歌教育において吃音兒童に整音教育を施すことも忘れてならぬ事項である。

(2) 書方、圖畫の衛生　書方においては姿勢を正しくする事、手本、紙等をまつすぐにおく事を訓練する。不正なる姿勢は、呼吸、血行、消化などにいろ〳〵の惡影響を與へるものである。圖畫においては、色盲檢査を行ひ、色盲患者の成績は特別に注意することを忘れてはならぬ。幼兒は色彩のために眼の疲勞することも早いから、あまり圖畫のみに没頭せしむることは一考を要する。

(3) 裁縫の衛生　日本全の婦の上に生つて裁縫學習する學校における近視者數は八五・七%であり、机腰掛による裁縫學習を行ふ學校における近視者は五〇%乃至六〇%であることが、統計によつて明らかにされてゐる。また一般に裁縫をする女兒には肺活量の少いことも分明になつてゐる。姿勢が惡はないから、その吸氣の量が減ずるのであらう。その結果は肺結核に罹り易いこととなる。したがつて、裁縫學習においては、その正しい姿勢に留意させることを大切としなければならぬ。また頭を前に垂れると近視になり易く、胸部を壓することによつて脊柱彎曲を招來するに至るものである。また裁縫をあまりに長時間に亘つて課すると、運動が不十分となり、消化機能が減じ食慾も減少して、抵抗力を少くする

やうになる。教養學習の後においては、出來るだけ明るい元氣な遊戯を課するやうにしたい。戸外で活動させることを大切とする。

（六）體育奬勵

(1) 水泳　清淨な小川に、或は海水浴場に兒童を遊ばせ、日光浴をさせることは、いやでも應でも身體保健の上に好影響のあることは否むことが出來ない。水泳は危險が伴ふからといつて制止することは、兒童にとつて極めて無理解な話であるといはなければならぬ。只その施設さへ遺憾なきを期するならば、何等の危險も伴ない。次には水泳指導上の二三の留意點を述べてみよう。

（イ）游泳地　游泳地は、水底及び水流の危險なる所はよくない。即ち水底に岩石や藻類のあるところ、深い泥土のあるところ、急流、濁流、渦を卷いてゐるやうなところはよくない。また傳染病流行地はこれをさけなければならぬ。

（ロ）水溫氣溫　水溫は二十度以上を可とする。氣溫が水溫より低い場合は、上陸後注意させないと感冒にかゝる。

（ハ）游泳と疾患　豫め健康診斷をうけさせ、次の疾患ある兒童に對しては、游泳することを禁ずる。即ち心臟病、動脈硬化症、肺病、肋膜腹膜病、鼻炎、中耳炎、鼓膜穿孔、レウマチス、脚氣、テンカン、病後衰弱者、有熱者、痙攣習癖者など。

（ニ）入水前の注意　耳を綿でふさぐ、又は唾液で潤すこと。準備運動として徒手體操を行ひ、身體を柔軟ならしめる。先づ水にて顏面、腋窩、心臟部などを徐々に侵すこと。急激に水にとびこむと、痙攣を起し易い。

（ホ）入水中の注意　游泳中浪をかぶるとすぐ顏を拭ふくせを持ち易いが、これは危險である。疲勞を促進する原因

となる。腓腸筋痙攣などの危險にあつた時は、直ぐ仰けとなり深呼吸をして、救ひを求めるやうに留意させる。游泳中寒冷のため口唇又は指先に暗紫色を呈するときは、游泳を中止し、上陸後すぐ着物をきせる。すべて游泳中危險にあつたときは、あはてず、おちつくことが大切である。

（ヘ）游泳後の注意　游泳後は全身を十分に拭ひ乾すやうにしなければならぬ。ぬれたまゝ冷風に吹かれてゐると感冒にかゝり易い。

(2) 運動會、遠足

（イ）運動會　運動會についてはすでに述べたが、これは無理に流れることをつゝしむべきである。兒童は興味につられて、また刺戟にのつてつい無理をしてしまふ傾がある。要するに文部省の標準によつて行ふやうにしたい。障碍物競走などは、身體の弱い者や、足の畸形のものなどには特に注意して止めさせたがよい。心臟疾患兒の駈歩競走などは止めさせるべきである。この點に注意が足りないと、卒倒させたりして樂しかるべき運動會に暗影を投げることとなる。

（ロ）遠足　ハルト氏は遠足は肺結核を防禦する力ありといひ、遠足による身長體重の增加は統計によつて分明である。遠足において衛生上注意すべきことは、先づ副食物の持參といふことである。あまり多くの食物を持たせると、食傷の遠足を行ふやうなことになる。また明日は遠足といふ昂奮のために睡眠不足となり、當日となつて疲勞を早める者が多い。その上朝食の攝り方が少いと、精神上の變動がくるから、中途で腦貧血を起したり、日射病にかゝつたりして卒倒することもある。また疲勞から注意力が不足して、思ひがけぬ變事を起すこともある。それで遠足の場合は、十分睡眠をとらせること、朝食を平常の如くとらせること、而して副食物を少くすること

この點に留意させたい。

(3) 體育週間　適當の時期において體育週間を設け、次の表に示す行事を行ふて、體育気分を濃厚にすることを大切とする。この體育週間は春秋二季の運動季節を以て行ふが最も効果的であらう。次にはその行事表の一例を示す。

月	日	曜	行事
月	日	月	衛生講話、清潔檢査
月	日	火	體育講話、運動日（男）
月	日	水	體育講話、運動日（女）
月	日	木	××校へ選手派遣
月	日	金	體育講話、運動會豫行演習
月	日	土	運動會の諸準備
月	日	日	大運動會

(4) 少年野球　一般野球熱の勃興から、近來小學校においても少年野球が非常にさかんである。而して對校野球戰ではやかましいが、その弊よりも教育的價値の方が高い。第一兒童の體育向上をはかり、運動趣味を深め、運動精神を高め、社會的訓練も出來る。次に少年野球指導上の留意點を示す。

(イ)選手選拔　本人の希望を徴するやうにしたい。強制はいかぬ。家庭の同意を求むるやうにしたい。學校醫の身

體檢査を行ひ、無理をさせぬやうにする。野球部員が擔任訓導と協議の上選拔するやうに心がけねばならぬ。兒童の體力と頭腦とを調査する。落第生等の德行上面白くないものは選拔すべきではない。

(ロ)指導上の留意點

○學業と家業との狀況を考慮して指導の準定案を作ること。家庭の手傳を放棄せしむるやうなことのないやうに
○人格、技術の秀れたコーチヤーに依頼して指導を仰ぐこと。
○沈着にして機敏なる行動を重視すること。
○粗暴下劣なる言動を愼ましむること。特に試合時の罵言は嗤棄すべきである。
○暴飲暴食を愼ませること。
○反省の機會を多くし、技術を理論によつて深化せしむること。
○野球部の經費は有志の寄附による。

(七)衛生通信

(1) 方針　兒童の養護衛生は學校だけの留意だけでは滿足の効果を得ることは出來ない。必ず家庭と連絡して相互の協力に俟たなければならぬ。その家庭連絡を有機的ならしめるために、衛生通信を行ふのである。

(2) 衛生通信の實施例

(イ)身體檢査の結果通信

先般本校に於て兒童身體檢査を行ひましたる處御子樣が××病に罹つておられる事を發見しました。就ては至急醫師の治療をうけ、學習上支障なきやう致度く、右御知らせまで。

年　月　日

担任者名

（ロ）夏季通信

炎熱の夏となりました。この際、特に御家庭におかれても御子様のため、夏季の衛生に御配慮あるやう特に左の事項につき御含み置き願ひます。

飲食物に注意して下さい。

早寝早起の習慣をつけさせて下さい。

衣冷えさせぬやう腹巻をさして下さい。

屋外の遊びを特にお氣づけ下さい。

許可なくして水泳をなさせぬやうお氣づけ下さい。

未熟の果物、腐敗物を與へぬやう氣をつけて下さい。

年　月　日

担任者名

（ハ）衛生講話會の通信

今般本校に於て、左記豫定の下に衛生思想普及の講話會及び映畫會開催致すことになりました。就いては萬障御繰合せ、振つて御參會相成様此段御案内申上げます。

記

一、月　日　時

二、本校講堂

三、講演者氏名

四、講演内容

五、映寫内容

年　月　日

被名

（八）衛生週間

衛生週間は一學期少く共二三回は開くやうにするがよろしい。而してその結果を反省し、次の衛生週間の指導の資料とすることが大切である。次に衛生週間の實行事項の一例を示してみよう。

月日	實行事項
×月×日	（一）身體をきれいにすること。
	（二）顔、手足をきれいに洗ふこと。
	（三）手拭、手布を忘れてこぬこと。
	（四）爪を常に切つておくこと。
	（五）齒をきれいにみがくこと。
	（六）鉛筆や筆をなめぬこと。
	（七）指をなめて、本をあけぬこと。
×月×日	（一）シャツをせんたくすること。
	（二）手布や手拭をせんたくすること。
	（三）着物や帽子を破らぬこと。
	（四）帶は後ろできちんとしめること。
	（五）衣具類を陽にほすこと。
×月×日	（一）机の中をきれいにすること。
	（二）排泄風呂敷、手拭のせんたく。
	（一）お掃除をしつかりすること。
	（二）便所をよごさぬこと。
	（三）便所から出たら手を洗ふこと。
	（四）便所の下駄をきちんとすること。
	（五）頭髪をいつも洗ふこと。
×月×日	（一）校庭の草を抜くこと。
	（二）校庭の小石を拾ふこと。
	（三）紙屑、木片を拾ふこと。
	（四）運動場をきれいに掃くこと。
	（一）道路の邪魔物を除くこと。
	（二）たんつばを地にはかぬこと。

(九)醫療經營

(1) **トラホーム** トラホームは猛烈な傳染力を有してゐる。殊にうす暗い室内、多人數の雜居生活、風塵の飛散などによつて、その傳染力が增加する。トラホームに關しては、養護上次の點に留意したい。

(イ)初期の中に治療をうけしむること。

(ロ)戸の引手を消毒し、患者使用の便所を定むること。

(ハ)患者の座席排列に留意すること。

(ニ)手拭、學用品の貸與を嚴禁すること。

(ホ)家庭と連絡し、その治療を促し、それを徹底化すること。

(ヘ)衛生係が點眼を勵行すること。

(ト)身體、衣服の清潔檢査を行ふこと。不潔のために傳染する率が多い。

(チ)手洗は流水裝置とすること。

(リ)夏季冬季の休暇中を利用して、みつちりと治療せしむること。

(ヌ)治療費の補助をなすこと。

(2) **近視眼** 都會兒童の中には近視の者が多く、眼鏡をかけた者を多くみる。都會は街巷の建築の關係上、屈折度が多いために近視の原因となる。時には遠方を眺めしめる機會も作つてやることが大切である。近視眼に對しては、次の點に留意する。

(イ)教室の採光に留意すること。

(ロ)直射光線を防ぐやうにすること。そのため引窓の使用を加減すること。

(ハ)眼と紙面との距離を適當にすること。

(ニ)細活字本の讀書を禁ずること。

(ホ)黑板の位置、黑板の面の色に留意すること。

(ヘ)兒童の座席に留意すること。

(ト)校醫の指導により、眼鏡を使用せしむること。

(チ)視力增進の榮養劑を服用せしむること。

(3) **感冒** 感冒は流行性を有するものなる故に、その處置には關心を拂はなければならぬ。

(イ)夏季において海水浴、水泳を奬勵し、皮膚を鍛錬せしめておくこと。

(ロ)噴嚏の際には、ハンカチ、手拭などにて口鼻を拭かせること。

(ハ)對話の際ははなれて、飛沫傳染を防ぐこと。

(ニ)「マスク」を使用せしむること。

(ホ)「マスク」は時々消毒し、煮沸し、洗濯すること。

(ヘ)室内の採光、換氣保溫などに留意すること。

(ト 胃腸を健全にし、適度の運動を行はむしること。

(チ)睡眠を十分にとらむしること。

(リ)早朝、深夜の外出を禁ずること。

(4) 齲歯豫防　齒は健康の基である。健全なる齒に健全なる健康は宿るものである。文明の進展と共に齲齒は激増する傾向があるから、これが豫防を十分にする。

(イ)食後には含嗽させ、齒間の食物細片を除去せしむること。

(ロ)朝晩、齒みがきを勵行せしむること。

(ハ)年に二三回は齒科醫に診療を乞はしむること。

(ニ)齒刷子の使用法を知らしむること。

(ホ)それがためには、教師が學級において實演をせしめること。

(ヘ)口腔衛生の講話會を開くこと。

(ト)口腔檢査の結果を各家庭に通告して、父兄の留意を促すこと。

休暇調練の指導

(一)休暇生活指導方針　夏季冬季の休暇においては、兒童を自由に解放することを主眼とすべきであつて、この期に必要以上の重荷を兒童に與へることは醉であり、また休暇の本旨に反するものだと思ふ。しかしその身體發育、身體活動を妨害せぬ程度においての教育上の考慮は必須のことである。次に冬季夏季休暇指導の根本方針ともいふべきことを考へると、次のやうな事項が擧げ得られる。

(1) 健康保持增進と鍛錬に留意し、活動力の源泉を涵養せしむること。

(2) 朋友、親戚などを訪ねて情誼をふかめ、社會生活の意味を體得せしむること。

(3) 知識の收得に努めしめ、常識を廣め、生活の擴充をはからしむること。

(二)休暇前の訓誡

(1) 夏休或は冬休などを如何に過すべきかといふことを兒童に考へさせ、綴方などにおいてその樂しい豫想計劃を發表させ、更にこの問題を學級自治會において協議檢討させるやうにする。

(2) 校外風紀役員に對し、休暇中における役員としての活動事項、心得について訓話を徹底させる。

(3) 身體檢査を行ひ、休暇中において十分身體を練り、頑健なる身體たらしめるやうに留意させることとする。

(4) 各學級において、休暇中の方針方法につき、その實際的具體案の作製に努力する。

(5) 兒童心得を印刷配布し、その事項につき、一々具體的の說明を與へてその徹底をはかる。次に印刷物の記載事項の一例を示す。

A　カラダヲヂヤウブニスル

1　寢ルコト、オキルコト、食事ヲキマリヨクシナサイ。

2　オ友達ト山ヘノボツタリ、遠足ヤ旅行ヲスルコトモヨイコトデス。

3　早起シテ、深呼吸、冷水摩擦、冷水浴ヲスルコトモヨイコトデス。

4　早起シテベンキヤウシマショウ。

5　水泳ハオ友達カニイサント行クコト。水ノフカイトコロニハ行カナイコトデス。

6　夏ハ胃ガ弱リ易ク、食物ハクサリヤスク、カラダハヨゴレヤスク、水ヤ氷ハノミタイトキデス。カラダヲワルクシナイヤウ、ヨクヨクキヲツケナサイ。

1 暑カノチオヨギヲオボエマシタ。オトモダチヲサソイマシタ。

2 人カラオボエガミラモラッタラ、スグニオヘンジヲ出シマセウ。

(6) 休暇中家庭と連絡するために、休暇に對する學校の方針や施設事項を印刷して各家庭に配布する。夫に各手休暇における保護者の告知文を示してみる。

明日から休みとなり、今日は學校で學ぶことはありません。今日は家で學ぶことになりました。

始まりましては、休暇中保護者の方におかれまして、次の各項を含めの上、家庭教育につとめられますやう願ひます。

一、早起きを、洗面は必ず冷水でをさせて下さい。冷水摩擦や深呼吸も實行させて下さい。

二、朝への體操を勵行させて下さい。

三、午前中に一時間外の自習をさせて下さい。

四、相當の家事手傳をさせて下さい。家事手傳ひなどいふものには、適當の運動をさせて下さい。

五、なるべく海水の習慣をつけさせて下さい。

六、出來るなら夜入浴をさせ、よく洗はせて下さい。特に身體をよく拭きとるやうに注意をつけて下さい。

七、金錢を自由に無駄に使はせないやうにお氣づけ下さい。

八、マッチを持ち出したり、火遊びをしたりすることは、絶對に禁止して下さい。

(7) 夏休の衛生

(一) 手と足を清潔にせよ　活動性の甚だしい兒童の手は、常に汚んでゐるものである。手の清潔は、常に汚れをふきとるやうにしなければならない。

出來るなら夜入浴をさせて下さい。特に身體をよく拭きとるやうに注意をつけて下さい。

七、金錢を自由に無駄に使はせないやうにお氣づけ下さい。

八、マッチを持ち出したり、火遊びをしたりすることは、絶對に禁止して下さい。

(7) 夏休の衛生

(一) 手と足を清潔にせよ　活動性の甚だしい兒童の手は、常に汚んでゐるものである。手の清潔は、常に汚れをふきとるやうにしなければならない。

B

一 オデカケヤンシヤオベンキヤウヲシマシタ。クツヲヌイデ。

二 ソモソモハカマヲキリヲシナサイ。

三 オトモダチヲサソヒアハセテ。

四 久シクアハナイ人ヲタヅネナサイ。

C

一 旅行シタラ、神社ヤオ寺ノコトヲ人ニキキナサイ。知リタイコトハ、ナンデモキキナサイ。

二 近所ニスンデヰル、赤ガアレバ、ソコデオ友達トオサラヒスルノモタノシイデセウ。

三 手工デイロイロノモノヲ作ツテミルコトモ面白イデセウ。

四 動物ヤ鑛物ノイロイロノ標本ヲ作ルコトモタノシイコトデス。

D

一 テンランクヤ、イヲヒラクコト

二 九月ニナツタラ、オヤスミ中ニアツタ面白イモノヤ、自分ノ作ツタモノデ、テンランクヤ、イヲヒラキマス。

二 ミンナデ、メスラシイモノヲアツメルヤウニシテタノシイ。

三 ソシテテンランク、イガスンダラ、ナルベクキフシテタノシイ。

E

オデカケノヤリトリ

てゐる。殊に夏は土いぢり水いぢりをやるから、手の汚れがひどい。しかもその汚ない手を着物で拭いたりするから、油光りしてゐる着物をきてゐる者も多い。何れにしても手を汚くするといふことは、傳染病の媒介に役立つものである。夏季に疫痢やチブスになるのは、その多くは子供の汚れから細菌を運んできて、食物と共にこれが體内に這りこむからである。故に食前には、必ず手を洗はせるやうに父兄に注意する。それも只ジヤブ〳〵と水をかけるだけではなく、石鹸できれいに洗はせるやうにしなければならぬ。次に夏は汗まみれとなつて、皮膚が汚れ易い。故に度々入浴するやうにしなければならぬ。要するに夏においては、皮膚の鍛錬に留意せしむべきである。

(ロ)飲食物に注意せよ　夏の飲食物は全部腐敗してゐるとみて、一度煮沸して食べることを肝要とする。特にバナナや櫻桃の古いのや、不良の氷やラムネ、うであづきの類は食べさせぬことである。

(ハ)早起させよ　夏休になると朝寝をする。夜更しするとろくな物は食べない。寝る前に水をのむとか、菓子を食べるとか、そして寝冷をして胃腸をこはしてしまふ。昔から早起は三文の得といはれてゐるが、三文どころではない。朝の新鮮な空氣を呼吸するだけでも、どれほど健康上有益か分らぬ。夏休の夜更かしを十分禁止すべきである。

(ニ)寒冷えさせるな　腹巻させることである。口でいつただけでは仕方がない。晝間の運動に疲れてゐるから、腹巻をしないでやすむと、寝くせがわるく、つひ寝冷してしまふやうになる。腹巻をしつかりさせれば、何の心配もいらぬ。

(ホ)夏休と治療　虚弱兒童はこの期を利用して、その體質の改善をはかるやうに努めさせねばならぬ。トラホームの如く慢性で治療に暇のかゝるものは、この夏休に是非治療するやうにしたい。その他扁桃腺肥大の切除とか、ヘルニヤの手術とか、齲齒の治療とか、吃音矯正、扁平足、脊柱彎曲矯正などはこの夏休に行はせるやうにしたい。

(ト)冬休の衛生

(イ)冷水摩擦　これは寒い朝に突然にはじめると風邪をひくから、最初はあたたかな室で、乾いた手拭でこすることからはじめるやうにする。漸次に慣れたところで、戸外に出て行ふやうにする。

(ロ)凍傷　寒さにさらされ易い部分の血行をよくするために、兩手の摩擦からはじめ、耳翼から頬、兩足などを摩擦することの習慣をつけさせることである。凍傷豫防として大切なことは、ぬれ手を火にあぶつたり、風にあてたりしないことである。

(ハ)呼吸器保護　冬は密閉された室内生活をすることが多いから、炭火から有害瓦斯又は煙草の煙のために呼吸器の粘膜を刺戟される。故に兒童を室内にのみ閉ぢこめておくことはよくない。十分空氣浴を行はせるやうにしなければならぬ。

(ニ)含嗽　冬は乾風が吹き塵埃が立つ。それを吸ふて家に歸り、そのまゝにしておくと、咽喉や扁桃腺が腫れたり熱が出たりする。故に外出後はうがひをさせるやうに氣をつけることが大切である。うがひは食鹽水、硼酸末、重曹水、又はお茶でもよろしい。

(ホ)正月の衛生　正月を睦月といふが、世態問答によると「しる人なるはたがひに行きかよひていよいよしたしみむつぶるわざをしけるによりてこの月をむつびづきと名づけそれを略してむつきといふなり」と出てゐる。かく

の如く正月では友達同志の睦み遊ぶことが多い。その遊びにも衛生上忌はしくないものが多い。歌留多や手まりつきなどはそれである。これらは身體を下に向けて遊ぶものであるから、目のためにも胸のためにもわるい。殊に歌留多遊びは、一室に多勢とぢこもつて行ふから炭酸瓦斯が發生し、その上炭火をカンカンに起すと中毒狀態となる。また歌留多を打つたり叩いたりするから、塵や埃がとびちる。また歌留多の夜更しは、睡眠不足の原因となる。故にかうした有害な遊びは、なるべくさけるやうにしたい。

次に正月の食物であるが、第一餅が衛生上あまりよくない。消化にわるい。この不消化の餅を子供に競爭で食べさせるところもあるが、これは禁物である。正月につきものは屠蘇であり、これは藥になるといつて子供にものましたものだが、何の藥になるといふことはない。却つて毒である。少年飲酒法も出てゐる以上、正月だからといつて子供に酒をすゝめることはよろしくない。とかく正月には食べ物にすぎて食傷を起し易いから十分に注意しなければならぬ。

(三)休暇中の經營

(1) 兒童招集は學校として一齊に行ふ外に、學級においても適當の日を選び兒童を招集する。

(2) 招集日においてなすべき事項

(イ)出席者の健康狀態、缺席者の理由の調査、その他。

(ロ)兒童の日常生活を發表せしめて、適宜の指導を行ふ。

(ハ)教室内の掃除、先賢墓碑、神社境内の清掃を行ふ。

(ニ)兒童校外風紀等との打合せ。

(3) 擔任部落の巡視を行ふ。

(四)休暇後の經營

(1) 休暇中の兒童の成績品、蒐集物などの展覽會を開く。

(2) 休暇中の日常生活を反省せしめ、級方にその感想を發表せしめ、自己生活の總くゝりをなさしむる。

(3) 休暇前の體格と比較せしむるために、身體檢査を行ふ。

(4) 教師は休暇經營の經過並に反省を記述し、次年度の參考とする。

(五)休暇經營實表の例

昭和　年度夏休經營

在籍		擔任
男　女　四十五名	召集日　八月十五日 八月二十一日	

休暇前

身體方面	學習方面
(一)休暇中の衛生についての指導（印刷物の配布） (二)トラホームの治療施行。 (三)水泳に關する注意を與へる。 (四)身體檢査。	(一)休暇中の學習法を指導する。 (二)學習法を記した印刷物の配布と使用法の注意を與へる。 (三)兒童の自由研究上の指導。鄉土のあらゆる方面に亘つて、旅行などの場合。

操行方面	家庭連絡	身體方面	學習方面	操行
（一）休暇中の實行事項指導。（印刷物） （二）不規律に流れざることの注意。 （三）親戚知人への訪問の心得を知らせる。 （四）社會性養成のための通信。	（一）通信簿による通知。 （二）學校より印刷物配布。 （イ）兒童の衛生　（ロ）學習　（ハ）操行方面 （三）家庭訪問。	休暇中		
		（一）海水浴（水泳）登山、遠足などを努めて行ふこと。 （二）衛生に各自注意すること。 （三）毎朝早起をし、深呼吸、簡單なる體操を行ふこと。冷水摩擦もよし。 （四）召集日に健康狀態を調査する。 （五）トラホームの治療を十分にやること。	（一）學習帳、日記、その他印刷物をもれなく行はしむる。 （二）兒童各自の自由研究を奬勵すること。 （三）召集日に兒童各自の學習狀態を調査する。	（一）家の手傳を十分に自發的にすること。 （二）自律的に、社會のためになる事をする。

方面	家庭連絡	身體方面	學習方面	操行方面	家庭連絡
（三）お盆には祖先のお墓參りをする。 （四）毎朝神社禮拜。		休暇後			
	（一）虚弱兒童に對して、矯正保養せしむる。 （二）その他、兒童の家庭生活全般にわたつて、看守すること。 （三）召集日の缺席理由を調査する。	（一）身體檢査を行ひ、休暇前の身體檢査と比較對照する。その理由を調査する。 （二）病氣にかゝつた兒童の調査。 （三）トラホーム患者治療表の提出。	（一）休中における兒童の成績品、蒐集物などの學習展覽會を開く。 （二）休中の樂しかつた生活發表會を開く。 （三）級方として發表せしむる。	（一）休中の兒童生活の行爲を反省せしむる。 （二）善行黑行など、直接間接の經驗を發表せしめて、學級において協議せしむる。 （三）日記の朗讀。	（一）休暇中、兒童の出來事に關する報告調査。 （二）休暇後における學習態度養成に學校と共に努めること。

その他	備考

自治訓練の着眼

(一)自治精神の發揚　學級社會における兒童の生活を向上發展せしむるためには、自治的訓練を必要とする。つまり學級自治會を組織することによつて、自治的立憲的に學級經營をすゝめて行くことが肝要である。

(二)學級自治の施設　學級自治としての施設はいろ〳〵の事項を擧げることが出來ようが、その中から特に效果多いものを二三摘出してみる。

(1) 優中劣の兒童を組合して、數人を一團とする分團を組織し、相互扶助による團體の讃進をはかり、學級を發展せしむる。

(2) 學級の清潔整頓につき、兒童に分擔的に責任役割を持たしめること。

(3) 輪番によつて學級當番に當らせ、學習準備その他學級の仕事に當らせる。この當番は數人を以て組織する。

(4) 學級自治會には、次の如き部署を定める。衛生部、整理部、風紀部、圖書部、學藝部、實驗實測部、學習新聞部

裝飾部、運動部、出席奬勵部、學級雜誌部、會計部。これらの部員たる兒童は、選材適所により、全部の兒童をその何れかの部署に編入せしむることを肝要とする。

(5) 學級自治會を開く。この學級自治會は、普通月に何回、何曜日の放課後といふやうに定期的に開かれるところが多いやうであるが、これでは本當に自治會の機能を滿足に發展せしむることは出來ないであらう。自治會において討議する問題を、期定の日限などに十分繰り上げさせるといふことはよいが、それがために却つて自治會のための自治會のやうな風に形式化し、器械化し、自治會の自由な情神を拘束するやうなことはないであらうか。何れかといふと自治會は、不定時主義をとる方がよろしい。隨意隨所において、その場に卽して自治會を開いて行くやうにすべきだと思ふ。何か兒童の間に解決すべき問題が起つたなら、その必要に應じてその場において、すぐさま自治會を開催するやうにしたがよい。學習の間においてでもよい、遊戲の時間においてでもよい。十分でも五分でも、一切形式的なことははなれたい。徒らに形式主義にして、討議のための討議に陷るやうな惡い意味の議會臭味は脫却したい。

(6) 學級雜誌を發行したい。

(7) 學級展覽會を開くこと。

(8) 役員選擧及び訓練。

(イ)役員選擧　級長その他の役員を選擧するに當つては、公平無私、適材を推す、私情や無思慮に陷らぬといふことから、豫め下訓練を行ふことを肝要とする。

(ロ)役員の心得

低學年の者の面倒をみること。

日誌は正確に綿密に記すこと。
各先生方とよく連絡をとること。
自ら進んでよい仕事をすること。
各役員は共同してその任に當り、連絡をとること。
先生から示されたことを實行する。
叱ると怒るとの別を明らかにすること。
親切第一を旨とすること。
他の行爲に對しては、善惡を綿密に考察し判斷すること。

保護訓練の着眼

(一)父兄會

(1) 三大節、開校記念日等を兼ねて、學校教育精神を了解せしむる場合
(イ)開會の趣旨を印刷に致しおくこと。氣どらぬ、至極平易な文章たること。
(ロ)講話は具體的たるべきこと。
(ハ)引例には、兒童の實際問題を採るべきこと。
(ニ)要するに父兄會における教師の講話は通俗的に、大衆的なること。
(2) 學年、學期初において、教育計劃を了解せしむる場合

(イ)講話要項を父兄に渡しておくことを便宜とすること。
(ロ)講話は簡單であり、然も抽象に流れず、要點を摑むこと。
(3) 學年、學期末において父兄に反省を求むる場合
イ)兒童の成績通知を以て、講話内容の主材とすること。
(ロ)兒童の成績を細部に亘つて説明し、成績不振又は進展の原因を附加してやること。
(ハ)父兄の質問の機會を多からしむること。
(4) 突發的事項の發生した場合
(イ)誠意を以てその實際を逃べ、努めて了解を求めること。
(ロ)父兄の忌憚なき意見をきくことに努めること。

(二)家庭訪問

家庭訪問は教育上必要なる事はいふまでもないところである。兒童は學校における生活よりも、家庭における生活をより多く有つものであるから、如何に學校にあつて教育に努めても、これが片つぱしから家庭において打破されてゐる事も稀ではない。こゝに家庭教育と學校教育との歩調を合せねばならぬ必要を感ずる。また眞に兒童を知り兒童の生活を知悉し、それに即したる教育を施すためには、先づ家庭の事情と實際につき調査する事を大切としなければならぬのである。

(三)校外風紀係

(1) 方針　兒童の校外における生活を保護監督するために、校外風紀係を設くることとする。これは一つの校外自治訓練である。

(2) 記錄

(イ)校外風紀係の特に留意すべき事項は次の如きものである。

各區兒童の學校往復狀況。買食をする者はないか、喧嘩をする者はないか、落書をする者はないかなど。

教師より特に注意された事項。

校外における自由遊戲の狀態。どんな遊びをしてゐるか、危險な遊び、卑猥なる遊び、交通妨害の遊びなど。

事故を發生した兒童の學年氏名と、その內容の調査。

善行をなした兒童の學年氏名と、その內容の調査。

その他の事項

(ロ)校外風紀日誌は、放課後必ず提出して擔任訓導の檢閱をうける。

(ハ)日誌の一例

九月十三日　月曜當番　A生

一、小さな子供（三年生）が、卒業した大きな人の仲間にはいつて夜おそくまで遊んだり、小唄などを大聲で叫び歩きます。

二、小さい人たちが、近ごろは私たちの命令をよくきいてくれるやうになりました。

三、この頃仲間はづれをつくらないで、合同遊戲をするやうになりました。

九月十六日　木曜當番　D生

一、當谷さんは、よその人に道をきかれたとき、よく親切に敎へてやりました。

二、當谷さんの妹のまつさんは、家の手傳ひをします。

三、この頃汽車道を通る人のなくなつたのは、まことにうれしいことだと思ひます。

四、お宮にけいれいする人が多くなりました。よいことだと思ひます。

九月十七日　金曜當番　H生

一、栗のいがを道にむいてあつて、あぶないから注意したいものです。もつとも生徒がやつたとは限りませんが。

二、島に入つてとんぼをとつてゐる人がありました。

三、電信柱に落書がありましたので、消しておきました。

(四)活動寫眞

映畫は兒童娛樂の十中の八九を占めるものであるが、これは學校衛生の上からみると悲しむべき傾向である。映畫の及ぼす影響は、

(1) 靜坐するために運動不足となること。

(2) 館內の空氣が汚れてゐるためによろしくない。

(3) チラ〳〵するのが眼にわるい。

(4) 映畫の精神への影響がわるい。

(5) 成人の惡い風習を早く見做ふやうになるからいけない。

などの點である。映畫も敎育映畫として文部省の推薦にかゝはるものは敷多くあるが、かうしたものは肝腎の兒童が好まぬ。お涙頂戴の孝行映畫や、からつぽの飯櫃の出る貧乏映畫等は、兒童は好まぬのである。矢張り、ドタバタ喜劇やチヤ

ンバラの如きものを歡迎する。この俗惡な映畫が、兒童の情操に忌はしからぬ影響を與へることはいふまでもない。そこで父兄と連絡し、映畫はなるべく觀覽せしめない樣に。觀覽させるならば、風紀上ある程度まで安心の行くものを觀させるやうにしたいものである。なほ館内における間食は、これを一切禁ずるやうにしたい。汚れた空氣の中で、腐敗しかけたラムネをのみ、菓子を食べることは、この上もなく危險極りなきことである。

（五）紙芝居

大震災以後東京には、急激に紙芝居が流行してきた。紙芝居の起原は古いが、これが地方にまで流行し初めたのは極めて最近のことである。何はともあれ、紙芝居の教育上の考慮は、識者の批判に訴ふべき多くのものがある。紙芝居に對する教育上の考慮は、第一にその内容である。これはどうも遺憾な點が多い。徒らに子供の俗性に媚びた卑俗なるものが多い。次に紙芝居をやる人間の問題である。下司ツぽい活辯もどきのダミ聲をはり上げて、速口調でしやべつてゐるのを聞くと、虫ずが走りさうになる。然もこれが子供にはよろこび迎へられる。最後に考へたいことは、紙芝居と小遣錢の問題である。紙芝居が日に三四回もやつてくるところがある。この度に各兒童が、競爭のやうになつて、幾分は父兄の見榮も手傳つて、小遣錢がわたされる。ここに不知不識兒童教育上に面白くない傾向を作るのである。子供の事だから、紙芝居をみることを全然禁ずることは出來ないが、何とかしてこの紙芝居に對する兒童の興味を、自然に外の方面に轉換させて行かねばならぬと思ふ。

三　複式學級の兒童訓練

複式教授の特性發揮

複式の兒童訓練としては、先づその特性を十二分に發揮せしむることを肝要とする。複式の特性としては、それ〴〵年齡の差異ある兒童、學年の異る兒童、能力差のある兒童の混合せることである。これは複式の統制に困難を招來するものやうにも思はれるが、この點が複式の訓練上に大きな好結果を與へるものである。單式の學級にもさうであるが、複式の學級のそれは純然たる社會そのまゝの觀を呈してゐる。故に兒童の社會的訓練として、複式學級は非常に有効なるものである。兒童は學級において一つの社會的生活をなす、その社會的訓練に該當するところがこの複式學級である。

この意味よりして、教師は複式としての特性を十二分に生かして、兒童訓練に當ることに心がけねばならぬ。上學年兒童と下學年の兒童との接觸、そこに愛他と服從の精神が涵養されるであらう。上學年の兒童には教師の助手としての資格と責任を與へ、下學年の兒童の學習に援助を與へるやうに仕向けねばならぬ。そこに上學年の兒童は、社會的な名譽と誇とを感じ、それに相當する責任感とを覺え來るであらう。また下學年の兒童は、上學年の兒童を信頼し、長上を敬ふ美風を體得するに至るであらう。かく複式の學級そのものが一つの社會的環境をなすものであるから、學習上の訓練事項は、直ちに實際的にその學級生活の中に生活化されることとなる。友達を愛せよといふ德目にしても、思ひやりを强くせよといふ德目にしても、すべて學級生活の中に生活化されるものである。教師は複式のこの特性を正しく確認し、その特性に卽して訓練づけ、その訓練の實を擧げ、その特性を十分に發揮するやうに、常に心がけねばならぬ。

聯帶責任の學習訓練

複式學級は一社會、一家庭のやうなものである。複式學級の兒童は、離るることの出來ない家族の如きものである。その相互關係は、單式學級それよりも親密であり、且つ有機的でなければならぬ。從來の複式においては、各學年の兒童相互の有機性を切りはなして、分團的差別を顯著にして、單獨的なる學習を、行はせ來たつたがために、その教授効果が一向に擧らなかつたばかりではなく、複式そのものの價値をうたがはれるにも至つたのである。これは複式の特性を、長所をあまりにも無視したあやまつた方針であつたといはなければならぬであらう。複式は幾つかの分團の集合したものであるが、それは決して無緣の衆の集合であるべき筈はない。複式はこれを一つの家族の集合とみるべきことを忘れてはならぬ。この家族的集合の親密さといふ上に、學習訓練の方針をとることを忘つてはならぬのである。

複式の學習訓練においては、學級を一つの家庭とみて、聯帶責任を各自に持たしめることが肝要である。從來の複式學級においては、第一に教師自身が複式教授を自ら放棄し、これが學習發展に對する積極的意氣を持たず、全くその教師としての責任を回避してゐた。したがつて、兒童の學習も消極的のものとなり、各自は各々その學習に精勵して學級の發展をはからうとする責任感の發露をみることが出來なかつた。これではならぬ。先づ第一に教師自身が複式學級の指導者としての十分なる責任を感じ、兒童にも聯帶責任の觀念を強く植えつけるやうにしなければならぬ。相互に勵ましあひ、戒めあふやうにして學習に努めさせることが大切である。この聯帶責任の感を常に强く持さしめるためには、他の學級と競爭的に、各兒童のその學級に對する名譽心、自負心を刺戟して行くやうにするのである。自己の學級を愛する、この名譽心を刺戟することによつて、聯帶責任の觀念を確立せしめることが出來よう。また學級の調和を紊亂せしむるやうな兒童

に對しては、自治會において適當の懲戒處分に附するやうな方法をとるがよろしい。

積極的な學習態度

兒角に複式教授といふと、教師も兒童もこれを最初からみすてて、氣乘りのしない學習を續けたものである。そのために複式はいよいよ困難なるもの、効果の擧らざるものと評言されるやうな結果となつたのである。つまり複式をして、効果の擧らざるものとするも否も、これは一に教師の考慮の如何に關する事と斷じても差支ないものである。教師さへ複式教授の熱に燃え、その効果を擧げずんば止まずの意氣に燃えてゐるならば、兒童も教師の熱に伴ひ、その學習に發奮し、困難を容易に突破して、複式の學習効果を擧げることが出來るのである。これを要するに複式の効果の擧らざると否とは一に教師の責任であつて、複式そのものゝ制度の責任ではないのである。

そこで複式においては、從來においてみるが如き消極主義、諦觀主義の學習をこゝに排し去り、積極主義、徹底主義の學習を旨としなければならない。いゝ加減な學習で滿足する、法令で示された一通りの教科を、一通りの教材を、兒童が理解しようがしまいがおかまひなしに、只義理として通過させる、後は野となれ山となれ、さうした消極的なる、無責任な考へが、教師の頭にこびりついてゐてはならぬ。學習はどこ〳〵までも徹底させるといふ、徹底第一主義をとらなければならぬ。少々位進度がおくれても、決定が變更されても、さうした形式的のことにこだはることは、愚の骨頂である。教授の體裁よりも、兒童の學習の徹底を主旨とすべきである。

複式では教材の間口を廣くすることを排し、奥行を狹くし學習の徹底を期することを旨とするものであるが、積極的方針としては、決してこれでばかりに滿足してはならぬ。兒童が自學的に間口を廣

く學習するならば、敎師はこれを大いに奬勵し援助しなければならぬ。發問によつて應用的學習の啓發もやらなければならぬ。何も小さく縮こませる必要はない。どし〳〵積極的に學習分野をあくまで擴充させて行くことが肝要であらう。要するに複式の困難の打開は、その消極的方針にあるものでなく、積極的方針にある事を悟るべきである。

自發自學て解決

複式敎授では敎師が多忙であるために、どうしても經濟的な方法をとらうとする。複式において注入的方法をとることも、この敎授の經濟といふことに要因する。兒童に自學させると、時間ばかり多くとつて差支が生ずる、そこでこれを手ツ取り早く注入してしまふ。無意識的にこの注入の方法をとる人も多いが、中には注入のよろしくないことを知りながら自學させることを、その過程の困難さを嫌つて意識的に注入してしまふやうな人もみうけられる。何れにしても注入敎授といふことはよくない。注入すれば兒童は一通りはよく了解するであらう。しかしそれは機械的なる了解であつて、眞に兒童自身に體得された力ではないから、すぐに箔がはげてしまふ。應用力が利かない。兒童の眞の學習を力づけるものとはならぬ。眞の學習は、どうしても自學である。自發的學習である。

複式敎授において肝要なることは、先づ自發自學によつて解決させるといふことである。注入の習慣を與へることの危險なることを、敎師自身悟れなければならない。學習上には表面は不經濟であつても、眞に兒童の實力を涵養するといふことを考へるならば、自發自學によつて解決させることを旨としなければならぬ。先づ敎師に問ふ前に、自ら自學し、自發的にこれを研究し、解決するといふ自學的態度を確立させなければならぬ。兒童の質問にしても敎師が直ちにこれに解答を與へるが如きことはよろしくない。一つの暗示を與へて、更に自發的に自學的に解決に向つて努力させるやうに奬勵

することが大切であらう。この自學の困難を打開して解決し得た知識こそ、眞に兒童の實力となるものである。何れにしても兒童に積極的學習の慣習を與へ、注入の容易さに慣れしめるやうなことなく、あくまで自發自學によつて學習するやう、努力させねばならぬ。

作業本位の學習

學習上の作業方面を輕んずること、これも確かに複式の有つ缺點の一つであらうと思ふ。作業を輕んじ、これを無視することは、複式の敎師が多忙にして、その取扱に困難を感ずることに原因する。尤も手工、圖畫の如き敎科そのものが作業を主體とするものは別問題であるが、地理、歷史、讀方、算術の如き敎科においては、著しく作業を輕んずることになるのである。作業せしむべき、直觀せしむべき、體驗せしむべき必要ある場合にも、これを無視するといふ傾がある。そのために複式においては、所謂讀書學習の弊が甚だしく、觀念學習の傾を有するのである。地理の學習においても、只單に敎科書を讀ませただけで、すまして行く、一つの記憶として詰めこむといふ方法に陷るものである。これではならぬ。複式においても、十分にその學習に作業を重んじねばならぬ。

地理の學習において地圖を描かしめたり、距離の測定をなさしめたり、各種のグラフを描かしめたりすることはいふまでもないが、算術、讀方、歷史の如き、これまで作業をさほど必要としなかつた敎科においても、なほ作業を重んじなければならぬ。卽ち歷史でいふと、鄕土化の關係から、兒童にも鄕土調査の作業方面が分擔されねばならぬ。讀方でいへばいろ〳〵の直觀物の蒐集など、かなり作業方面の仕事も多い。殊に算術科に至つては、何より作業を重んじねばならぬ。時間の學習にしても、併目の學習にしても、歩合の學習にしても、作業を無視してはその効果を期

することは出來ないであらう。要するに複式においては從來の缺點を排除し、十分に作業學習を重んじねばならない。他の分團との交渉上に不都合はあらうとも、さうした小さな支障のために、作業を無視することは、大きな誤謬たることを牢記しなければならぬ。

協同學習の必要

複式における學習の形式としては、大體において、(一)兒童自身に行はれる場合と、(二)兒童相互に行はれる場合と、(三)兒童教師の間に行はれる場合との三つがあるといつてよろしい。何れもこれは大切な學習であるが、そのうち(二)の所謂協同學習は特に複式において重んすべき學習法である。この協同學習に、相互問答式、分團式、討論式などの方法のあることは既に前述したところであるから、こゝには省略する。何れにしても複式においては、教師の勞力を輕減せしむる上からみて、その教授の進捗を圓滑ならしむる上からみて、また兒童自身の學習發展をはかる上からみて、協同學習は重大なる關係を持つものであるから、教師はこの協同學習に對する訓練を怠つてはならぬと思ふ。

では協同學習は獨自學習の先に行くものか、或は後に來るものか、これは教師として一應考察しておく必要があらう。尤も協同學習が獨自學習の先きに行くか、後に來るかといふことは、器械的に一定される問題ではない。時と場合によつては、先づ獨自學習をさせ、その發展として協同學習に移らせる場合もあらうし、或はまた反對に、先づ協同學習させ、然る後に更に深く獨自學習をさせて、學習問題を解決させるやうな場合もあらうと考へる。要するに何れが最後のものかといふことはいへぬのである。教師は時と場合に應じて、また教材の性質に即して、その順序を決定することを肝要とする。しかし何れかといふと、先づ獨自學習をさせ、その學習發展として協同學習を行はせることが、一般の順序といふこ

とが出來る。獨自學習が最後に來ることは、特殊の場合といふことも出來よう。

音讀と默讀の訓練

音讀は文字理解の上から非常に不經濟なものである。一度音聲にうつすと、記號から意に到達する間に音勢といふ一つの餘計な手續きを辿らなければならないのであるから、それだけ障害があつて、速度がおくれるのである。速度がおそいと理解力の率が低いであらうといふことが當然想察される。グレーは、速度の早い方が却つて理解力のたしかな場合が多いといつてゐる。またスターチも、讀方速度とその理解力との關係について研究調査の結果を發表してゐるが、それによると、今まで多くの人々の考へてゐた、讀むことの早いものは、おそく讀む者より內容の理解が少いといふことが完全に裏切られてゐる。その結果を次に示す。

50秒間によんだ語の數	書いた語數	1秒間の速度	讀んだ語を覺えてゐた百分率
80	16	1.2	40%
51	22	1.7	43
99	24	2.3	35
90	33	3.0	37
105	33	3.5	31
149	54	4.9	41

何れにしても音讀よりも默讀を重んずることを一般とする。殊に複式においては、音讀を命ずると、教室をけん騒に導き、他の兒童の學習の妨害をなすことが甚だしい。學習氣分が紊亂される。讀方と綴方といふ教科の組合せの場合においても、讀方の組で音讀されると、綴方の記述が澁滯してしまふ。その方に注意をうばはれてしまふのである。したがつてどうしても靜肅に默讀するの習慣をつけることが肝要であることを感ずるものであるから、自然にその默讀化をはかるべきである。しかし最初から默讀を授くると、兒童は却つてこれに苦痛なほ音讀も、時には音讀として必要なるものであるから、音讀の訓練を行ふことも忘つてはならぬ。要するに複式においては、殊に默讀を重んじなければならぬ。而して音讀より默讀への過程としては、微音讀によらしめることを大切とする。

音聲衝突の防止

複式の教授においては、音聲の衝突が生ずる。二三箇學年の混合であるから、同時に朗讀したり、同時に質問を發したりするやうな音聲の衝突が生じてくる。この衝突を防ぐために、全く朗讀を禁じたり、質問を禁じたりする教師もあるがこれでは唯の學習に外ならぬやうなものになるであらう。學習である以上、朗讀もさせねばならぬ、質問もさせねばならぬ、問答もして内容を吟味せねばならぬ。只この場合に教師の注意さへあれば、音聲の衝突を防止することも不可能ではないと思ふのである。

では音聲の衝突を防止するには、如何なる考慮を必要とするのであるか。これに對しては、先づ教授案を立つるに當つて、十分に仔細に音聲衝突の防止をなすべく、留意することである。如何なる機會に發問するか、その答を要求するか、

また朗讀させるか、質問させるかといふやうなことを、仔細に豫定しておくことを大切としなければならない。而して平素において、質問訓練に當り、下らぬ質問を多くせぬやう、質問の質を向上せしむることを忘れてはならぬ。音聲の衝突防止のために、兒童の質問を全然禁じて、唯の學習たらしめるやうなことは、複式學級の教師としての能なきことを證左するやうなものであり、且つ兒童の學習を無視する無責任の教師といはねばならぬ。

教師を獨占せめ訓練

複式における教師の教授力は、出來るだけ平等に普遍に行き亙らなければならぬ。教師の教授力が單に一部の兒童にのみ偏するやうではいかぬ。これでは片よつた教授となつて、爾餘のものは教授の圈外におき去られるやうなことになつてしまふのである。複式教授で劣等生を多く作るといふことの原因は、かういふところにもありはしないかと思ふ。意識的に無意識に教師が一部の兒童から獨占され、爾餘の兒童を無視するところに禍根があるやうにも思はれるのである。そこで教師はこの點を自覺し、教授力の普遍化について、十分考慮することを怠つてはならぬ。

教師の獨占といふことは、教師自身に責任があるのか、或は兒童の方に責任を有つものか。これは兩者に責任があらうが、先づ兒童を訓練する立場にある教師の責任にありといはなければならぬ。教師にこの留意さへあれば、十分に獨占されることを防止することも出來る。優秀な兒童、質問をよく發する兒童、かうした兒童に教師の教授力の必要以上に向けられることは人情である。而して質問を發せぬ兒童、劣等生に對して、教師が關心を持ち得ぬことも、或は人情であらう。しかし教師は個人としての趣味嗜好で教授に當つてゐるものではないから、これらの偏見に陷ることも愼まなければならない。自己の好む兒童のみに偏するやうな事なく、すべての兒童

に平等に教授力を向けるやうに努むべきである。教育家の立場を忘れ、公平の立場を忘れて、個人的偏見に陥ることを排すべきである。

教師の側にこの智慮さへあれば、兒童は必然的に教師を獨占せぬやうになる。要するに教師を獨占せしむるものは教師自身である。しかし教師も一應兒童に對しての訓練を忘れてはならぬ。即ち質問訓練の如きはその最たるものである。質問を常に一部の兒童にのみ求めるが如きことはよろしくない。質問の圈外におくやうなことを慎まなければならぬ。また劣等生などが、教師を特にわづらはすが如きことも、ある意味において教師の獨占といふことが出來よう。したがつて劣等生が教師を獨占せぬやうに、十分學習に努めさせることを忘れてはならぬと思ふ。

先生々々と呼ばぬ訓練

「先生々々」と呼ぶのは、高學年の兒童、女兒にはこの弊害が多い。單式學級においては「先生々々」と呼んでも弊害といふまでのことはないのであるが、複式ではかなりに因る問題である。「先生々々」と呼ぶ聲は如何にも子供らしく元氣で朗快で、にぎやかで、活潑な學習氣分に充ちるものであるが、何よりうるさい感じをもつ、雀の學校のやうな有樣となる。また他の分團に對し學習妨害をなすことも大きいものである。單式學級の場合のやうに、教室の隣りあつてゐる場合にはさほどにも響かないものであるが、一つの教室内において、すぐ隣の席で大聲で「先生々々」と呼ばれると、その影響な學習氣分を紊亂されるに至るものである。そこで複式においては、この「先生々々」と呼ばせぬ訓練を行ふことも忽にしてはならぬと思ふ。

しかし幼年兒童や女兒に、急に「先生々々」と呼ぶことを嚴禁すると、習慣になつてゐるものであるから、却つて學習の空氣を減削するやうである。何ぞか物足りなさを感ずるものである。で、急速に改めさせるやうなことなく、漸次に訓練の實を擧げしめて行くやうにするがよろしい。尤も「先生々々」と呼ばせぬといつても、擧手だけは元氣にやらせなければならぬ。また「先生」と呼ぶことの禁じられてゐることを知りつつ、元氣にかられてうつかり發語した場合、これを咎めてはならぬと思ふ。要はこの訓練も形式的に流れてはならぬのである。

徒らに教師を待つ訓練

複式教授に當る教師は、いふまでもなく幾つかの分團を受持ち、直接教授の機會を極めて僅少にしか持ち合せないものである。したがつて複式學級の兒童は、單式學級の兒童のやうに隨意隨所に教師を捉へることは出來ない。教師に訊きたいと思ふことがあつても、教師が他の分團に指導を行つてゐる場合は、これを待たなければならぬ。すべてその順序を靜かに待つといふ學習訓練を行ふことが大切である。これは複式として、學習の統合上、整理上、秩序を正しくする上において、是非とも重んずべき訓練事項であらうと思ふ。

靜かに教師を待つといつても、只單に待つてゐるだけではいけない。待つ間の時間を利用して、更にその學習を繼續することに努めなければならない。この繼續的學習において、不明の事項が解決される場合もあらうと思ふ。何れにしても教師を待つといつても、只單に手をこまねいて待たせるだけでは意味がないのである。十分の獨自學習を必要とする。かくてこそ、複式教授の長所が十分に發揮されるといふことになるのである。なほ教師を待つ間に、不明の箇所を摘記して質問事項を整理しておくことを忘れてはならぬ。要するに教師を待たせるといふことは、複式の缺點であるやうにも思は

れるが、これはまた長所ともなるものである。この待つ間を無駄に空費せしめるやうなことなく、充實した獨自學習、獨自研究をなさしめ、解決への道を通らしめ、學習能度の訓致に努めさすべきものである。

無言の行に墮ちぬ訓練

複式教授において進度のおくれることを怖れる教師は、兎角に暗の學習化すものである。兒童を暗の如く沈默せしめ、發言の機會を與へず、教師のみが獨斷的に、形式的に教授を進めるものである。これでは全く何のための學習か、教師のための學習か、その意味が分らないこととなつてしまふ。教師がその教授の複雜化を怖れて、兒童の發言を厳禁することはよろしくない。讀方の學習の場合に、内容吟味に對する問答をするやうなこともなく、勝手にこれを注入して、形式的に教授を進行せしめるが如きは、教師として扱ひ難き邪道に陷つたものといはなければならぬ。複式教授は注入的に通り一片に片づけられてよいといふものではないから、かくの如き暗の學習たらしめることはよろしくない。十分に兒童の意見も發表させ、これを檢討させるやうな事を必要としなければならぬ。

例へば讀方には先づ朗讀を重んじねばならぬ。複式ではとかくこの朗讀が言語の衝突から敬遠され易いこととなるが、朗讀は讀方學習の重要部面のものであるから、必要の程度にこれを課さなければならぬ。内容吟味に對する兒童の意見も十分に發表させねばならぬ。近來の讀方においては、單に文字語句が概念的に了得されればそれでよいといふわけのものではないから、卽ち文の生命の味讀を重んずるものであるから、内容探究の意見發表を重んずべきものである。讀方における暗の學習といふことは全く不可能のことである。

四　各教科獨特の學習訓練

修身科獨特の學習訓練

修身科の本質は、兒童の德性を涵養し、道德の實踐を指導することにあり、その德性の涵養には道德的識見・情操及び意志の陶冶が含まれ、そして道德の實踐は道德を實行し得る品性の確立に俟たねばならぬ。道德心は知・情・意の三方面の陶冶によつて發達するものであるから、修身科の教授はこの三方面の陶冶を圖らねばならぬ。卽ち知的方面では何が善であるか、また惡であるか、そしてそれは爲すべきものであるか、爲すべからざるものであるかといふ識別を十分になさしめねばならず、情的方面では正と知り善と知つたものは直ちにこれを爲さうとする情操を涵らしめねばならず、そして意的方面では善を爲し惡を避けしめる意志を養はしめねばならぬ。つまり修身科はこの知情意の圓滿なる發達をその目的とするものである。從つて修身の學習は兒童自らがそれの道德的行爲の經驗を反省し批判して行くことを根本とする。人の良心は素より先天的能力であるが、後天的に經驗によつて發達するもので、修身教育も可能となるのである。もしこれが超經驗的のものであるならば、修身教育は行はるべき筈なく、よし行つても効果がないことになる。そして眞の修身の學習態度に立たしめるには、己れの思想と融合し、感情と迎合するまで徹底的にやらせなければならぬ、例へば先生のいふことだから正しいだらうとか、自分としては滿足出來ぬが實際に行はれてゐるから正しいだらうとかいふやうな態度はいけない。修身學習の出發點は、善惡を知り正邪を知ることを欲するに在る。この欲求のないものは眞の學習に達せぬものと云ふべきである。しかも單に知るといふことに止まらず、更に進んでこれを行はんとせしめねばならぬ。そして己れの

思想・感情・行爲が何等の束縛を感ぜず、自然的で愉快である域にまで到達せしめねばならぬ。

今日一般に修身教科書はどんな順序で取扱はれてゐるかといふに、機械的に修身教科書の編纂順に從つて平凡に取扱ふものと、教材の總て本位に從つて內容の類似せるものを選擇して取扱ふものとの二種がある。第一の場合は固定的取扱ひであるから、兒童の生活とは少しも交涉を有せず、そして第二の場合は前の場合よりは學習の深化を圖ることは出來るが、兒童の道德生活を刺戟して實踐への指導力を與へることが出來ない。從つて第三の場合が修身科の本旨を達成する最もよい方法となる。要するに教科書の範圍內で限定された教授であつてはならぬ。また低學年に於ては、主としてその道德生活の基礎となる良心の助成を目的とするから、教科書を離れて掛繪或は童話・實話・假話などを自由に活用するの要がある。いふまでもなく教科書の教材もこれらの掛繪や童話その他と結合することによつて効果を大にせねばならぬ。而して高學年に於ては問題の解決と實行とを主とするから、思推・探究・實踐指導を主とする教材に重きを置かねばならぬ。

前にも云つたやうに、修身教授に於ては、單に道德觀念の養成につとめるばかりでなく、進んで道德生活に參與し進展せしめることが主眼の問題であつて、獨り學校內や教室內に於ての修身教授ではない。例へば校門を一歩出ると、教室內では虫も殺さぬやうに大人しい兒童が直ちに手におへぬ惡太郎になつてしまふやうでは、折角の修身教授も形なしである。修身教授の窮極の目的は、即ち「知識から實踐へ」である。そこでどうして兒童にこれを實行せしむべきであらうか。强制的にこれを行はしめたり、受動的になさしめたりしてはならぬ。即ち自然的に自發的にそして愉快にこれを行はしめるやうに導かねばならぬ。それには修身箱の私用などは確かに効果がある。即ち教室の一隅に修身箱を設備して置いて、最初は毎日教師が登閒をなし、臨意にその箱に回答を投入せしめる。これを初めて行ふ場合には、まづ「面白いと思つたこ

と　いやだと思つたことを書いて入れなさい」と兒童に問題を與へ、そして兒童に自由評價の訓練をなさしめ、それがある程度まで向上した時には、「惡いと思つたこと、良いと思つたことを書いて入れなさい」と自由評價から道德的評價へと誘導し、かくて漸次に兒童の道德生活を最も自然にそして自發的に向上せしめて行く。この方法によると、第一に兒童の道德的關心が深められ、同時に反省力が養成され、延いては道德に關する協力學習をなすと共に、社會生活の練習の一端ともなるのである。

讀方科獨特の學習訓練

讀方科の本旨とする所は、世界文化の殿堂に入つて文化の記錄を讀むべく、兒童に言語・文字・文章の正當なる知識を授けるにある。而してその言語なり文字なり文章なりは、國民性の保持者であり傳達者なのであるから、これによつて國民性が養はれ、國民共同の精神的血液も與へられ、そして國民的思想・感情に一致せしめられる。現代文化の諸相に接せしめ、また社會の過去並に現在の實狀を知らしめ、國民として同時に世界人（よい意味のコスモポリタン）として責任を負ひ義務を知つて人生を忠實にしかも正しく送り、個仰に生きる人間を養成することは、實に讀方の使命である。換言せば、經驗により思索によりまた感激によつて言語・文字・文章を授け、眞・善・美・聖の渾然たるものを體驗せしめ、個人の自我を徹底的に實現せしめることが、讀方教授の第一目的である。從つて讀方科の學習態度として、兒童自ら文章を研究しまた理解しようとする動機が內心に燃えさせねばならぬが、かうした內的要求を起さしめるのには、もとより教師の感化に俟たねばならぬ。しかも教師の內に充ち滿ちてゐる思想は知らず識らずのうちに兒童の心に反映するものである。讀方學習の根本的態度は、文を讀むといふことにある。即ち文章を客觀的に眺めて、文字なり語句なりの表現してゐる思想を探

るといふ心持ではなくして、自身をその文の作者の立場に置いて主觀的に讀み、感じ、察するといふ域に到達させねばならぬ。ところで、文の表はす思想は、その氣分を實際に味はねば眞に理解出來るものではない。從つて、讀方は事實の體驗に出發しなくてはならぬ。しかし實際に體驗のない文を讀む時は、想像と類推との力に俟つより外はないが、想像は心理の働きで、それは何處までも過去の實際經驗に基礎を置くものであり、そして類推は論理の働きで、それは思考の必然性に基くものであるから、結局は自己の眞生命に徹せねば文章は讀み得ないのである。

昔と今とで讀方學習の背景は非常に違つてゐる。今日の文化生活に於ては讀方の材料が著しく豐富になり、しかも綴方が人々の精神生活に於て益々重要なる役目を演ずるやうになつて來たのであるから、讀む速度の訓練は讀方教育の頗る重要なる一部面である。實際に於て低等兒と劣等兒との讀みの速度は甚だしい差異がある。而してヒュエーの實驗によれば音讀は默讀よりも六割六分遲く、最も急速度で讀んでも音の方が五割六分も遲いといふことである。讀書態度として默讀の優れてゐる點は、既に疑ふ餘地もなく、讀みの理想は默讀に置くべきではあるが、小學校に於ては文字を普及に發する讀方は是非とも必要である。卽ちそれによつて正しい讀書法を教へねばならぬ。そして反覆練習する事によつて正確に且つ迅速に訓練する。尙牧授の實際に當つては、一つ一つの部分を精密確實に教ふべきで、例へば漢字を教へるにも一畫一々を正しく判然と教へ、その字形の混亂を來さぬやう記憶せしめるの要がある。そして確實綿密に讀ませ、誤つた讀方はその都度訂正せねばならぬ。同時に文字と讀方との結合せぬ、卽ち內容を持たぬ讀方は極力これを排斥すべきである。

次に文章の解釋であるが、從來は單に語句の解釋や大體の意味の把捉といふ頗る狹い範圍の主知的、外面的方面の分析的解釋に限られてゐたが、解釋はもつと廣汎に亘るべきで、卽ち文の本質に卽する鑑賞、批判の範圍にまで到達すべきである。つまり文章の解釋とは文の本質を了解會得することである。從つて兒童に學習せしめる場合には、文章を全體的に

眺めさせ、必要以上の蛇足な文學、語句文章乃至內容等の除去に努め、純粹な第一印象を得せしむべきである。かくして第一印象を得れば更に一段と深い解釋を進め、然る後に又一步を進めて、遂に全的印象を深めしめる。かくしてこそ始めて文意を十分に把捉して個々の語句も單一的にではなく、文に卽して眞に了得することが出來るのである。

最後に課外讀本について一言するが、それは第一に課外讀本の選擇方法である。教師が已れの趣味からこれを選擇することなく、須らく兒童の全部に亘つて着眼すべきである。從つてそれは勢ひ主として文學的なものになるが、別に科學的なものをも添へねばならぬ。課外讀本を與へるについては、その利益ばかりを考へやに弊害をも併せ考へねばならぬ。卽ち讀書力及び讀書の興味は旺盛になるが、その反面に讀書の散漫になる點、興味にのみ終始して眞面目な學習態度が破壞され易い點、徒らに感傷的になつて、思想的や科學的なものを喜ばぬ傾向がある。卽ち文學的な影響によつて情緖の陶冶される點は是とするも、その反面に意力の沈滯を來たす虞れがある。これらを十分に考慮に入れると共に、成績劣等の兒童が却て課外讀本に親しみ易いことをも考へねばならぬ。故に課外讀本を與へるに際しては、これに耽溺して教科の復習を怠らしめぬやう注意すべきで、それには適當な時間と場所とを教師が與へるやうにしたい。そして濫讀の弊をさけ、讀書の散漫を妨ぐために、讀了した課外讀本の大要、感想を書かしめる。それには備忘帳を持たせ、書名と讀了の日と讀書後の感想とを記せしめる。要するに、課外讀本は兒童各自に選擇せしめるよりも、學校によつて購入し、成るべく教室に於て讀ましめ、教師は必要に應じて指導して行くべきである。

綴方科獨特の學習訓練

綴方教授には兒童の思想と熱情とを養ふといふ實質的方面が含まれてゐる。卽ち觀察を精密にし思考を正確に美的情操

を擾乱し、延いて思想を善導し感情を純化せしめるを本領とする。兒童が綴方に於て或は境遇に於ける煩悶や公平を訴へ或は不道徳な行爲をしたことを無反省に平氣で述べてゐることもあるが、かゝる場合には教師はその惱んでゐる兒童には慰藉を與ふべく、無反省な兒童には正しき道を示して惡行爲を誡しむべきである。かくこの科は訓育的方面にも大なる交渉を有するのである。そして綴方教授に於ては兒童の思想感情を文字・文章によつて明白に表現せしめる能力を養成すべきで、つまりこれは綴方の直接積極的目的である。世間では綴方は實用的文章を學ばしめるを目的とするものと考へる傾があるが、そして學校を卒業しても葉書一枚碌々書けないではないかといふやうなことをよく口にするが、綴方は日用文を書くことのみを目的とするものではなく、それはつまり綴方の一部分に過ぎぬのである。しかも表現能力を養成するを目的とする綴方が十分にその職能を發揮するならば、日用文を苦もなく書きこなせる筈である。

綴方の本質は以上の如くであるから、その學習に當つては、綴方はまづ兒童をして自身の内部に横溢してゐる思想を表現するものであるといふ態度を樹立せしめねばならぬ。決して筆の先から思想が湧きそれが文章となつて流れ出るものではなく、内心の思想感情が迸つて筆の先に流れ出るものであつて、それでこそ紙上にあらはれた文章に眞々たる生命があるのである。しかし内心に排へきれぬまで思想感情が滿ちてゐても、これを表現する力がなければ、その思想感情が發表されぺくもない。この表現する力を養ふものが、つまり綴方なのである。しかもこの表現力は他から授けられるものでなくして、兒童自身に備す力を自身で發達させて行くより外はない。即ちその力を自身で發達させるには、その力を運用して自身の思想なり感情なりを表現することを學ばしめねばならぬ。自ら苦んでその表現に努力すればする程、その力は發達する。これを兒童に十分に會得させねばならぬ。

一體に兒童は好んで綴方をなすものではあるが、低學年では綴方の基礎を確立しなければならぬ。即ち綴方は自分のも

つてゐる思想感情を文字に綜合して眞實感を書くものであることを會得させ、一方綴方は決して困難なものでないといふ信念をもたせると同時に、綴方に對する興味を起させる。また一方では實地・實物・繪畫等を精密に觀察する習慣を養ひこれを自身の思想として表現する態度を養はしめ、經驗單項で印象の深いものはいつでも綴つて見るといふ態度をも養ふそして話方を奬勵する。何故といふに、話方は直ちに綴方になるからである。尤も言語と文字との結合を確實にし、文字語句の運用記述になさせねばならぬ。尚内容も形式もすべて解放的にすることを忘れてはならぬ。教師が規制を與へて綴方の指導をなすことは大禁物である。須らく自由選題によつて自由に綴らすべきである。自由選題によつて自身の生活を自由に表現するやうに奬勵して行けば、一、二年でも十分に綴ることが出來る。もし自由選題の出來ぬ兒童があれば、それに對しては教師は適當な指導をする。その際には直觀描寫法によるがよい。この方法に於ては、まづ思想構成の指導をなし、事物を分解的・順序的・印象的に觀察する習慣を養ひ、そして具體的に思想の對象物を借りて發表することから、次第に對象物を離れて發表するに至る練習をする。しかしこの場合と雖も、成るべく教師に一々指導を受けず、自身で觀察し思想を纒めて發表させるやうにする。第一の頃から觀察の態度を養つて置くと、次第に能力で觀察し表現するやうになりしかもそれは個性的創作的の表現である。

尚作品については出來る限り學習時間中又は學習時間外に、個人的に朗讀させて批評させ、鑑賞をさせ、或は板書し或は謄寫刷にして補充讀物として取扱ふべきである。そして缺點の指摘よりも美點の賞讃を多くし、精想構想等の指導をもして行くべきである。要するに綴方の世界は全く兒童の自由の國としたい。從つて自身の經驗のみではなく、お伽噺でも童謡でも和歌でも俳句でも好きなものを書かせ作らせ、文書文體には何等の束縛も拘束もせず、のび〳〵と兒童の創造力を伸展せしむべきである。

書方教授の主要目的は、文字を正確に書寫せしめることである。文字を正確に記すといふことは、つまり談話を正確になすと同樣に人間生活には必要であるからである。また文字を美しくかくことも生活上必要な要求であり、且つそれによつて美的陶冶をもなすことが出來る。但し美しい文字を好むといふことと、文字を美しく書くいふことの間には、幾許の擔程上大いに徑庭があるから、最初から美しく書くといふことは要求し難いであらう。この美しく書くといふことと共に早く書くといふことも大切である。現代に於ては殊に速書の要がある。實用上從つて書は正しく美しくそして早くなければならぬ。

そこで書方の學習に當つては、盲目的に模倣することなく、常に意識的に模倣せしむべきである。それには文字を分解的に一部分づつ模寫し、又は綜合的に全體を模寫せしめる。そして單に手先だけの模倣ではなく、頭の中で模倣するといふ態度に出でしめねばならぬ。尙書は心身の影響を受けることが多いものだから、氣分を爽快にし、心情を平靜にし、且つ姿勢を正しくし、意識を一點に集中して滿身の力を文字の上に注がしむべきである。

「書は以て姓名を記すれば足る」といふ豪傑風の人もあるが、書は日常生活上吾々には必要缺くべからざるもので、それも早く正しく、そしてわかり易く書くを要する。現に試驗の答案を書くに際しては、このことが如何に痛切に感ぜられるか。まづこの點を兒童に反省せしめて指導するが、書上達の捷徑ではあるまいか。また履歷書などを書く場合には、その上に美しいといふことも一條件となる。同じ程度の境遇や學歷であるならば、描いものよりも美しいものの方に誰しも好感を持ち、從つて就職の場合などは美しい筆蹟の者が有利な地位に置かれる。

近時毛筆大字廢止論の聲を聞くが、既に毛筆を採用してゐる以上、大字から入つて練習せしめるが至當である。しかし大字の練習は一般の取りては、細字に達するの方便であり基礎であることを忘れてはならぬ。また硬筆採用論も大いにやかましいが、これは時勢の推遷に伴ひ生活の發展につれて硬筆の必要が益々多くなつて來てゐるから、當然に小學校では採用せらるべきものである。しかし、鉛筆とペンとで書くことは、書方の本體とすることは、早計の譏りを脫れない。尤も兒童の能力の發達上から考へて初步の書方では鉛筆を用ひしめ、毛筆は尋三頃から始むべきである。

「弘法は筆を選ばず」といふこともあるが、筆の良否は兒童の成績に大なる影響を與へるものであるから、筆の選擇は兒童に任せや敎師に於てなすべきである。そしてその使用法、使用後の處置等指導も一々せねばならぬ。範書は滿筆の順序乃至力の入れ方等の諸點を敎へるためのもので、範書書體をそのまま兒童に模倣せしめてはならぬ。それは出來るだけ手本によらしむべきである。何故かといふに、範書にはとかく敎師の難が出るもので、しかも敎師に絕對の信賴を置く低學年の兒童はその敎師の難までも見習ふからである。文字の大さを定めることは書方學習の第一步である。全體との關係を十分に考へさせ、最初を大きく書きすぎて後の方が詰つて書けなかつたり、又小さく書きすぎて明きが出來、一字と一字との聯絡が取れなかつたりせぬやうに指導する。卽ち敎師は先づ字の大さを十分に考察せしめてから筆を執らしめる。一字の大さがきまり全體の字配りが明瞭に浮んで來るやうにならねば、眞の書方學習は出來るものではない。而してこの態度を練らしめるには、兒童の使用する紙數を限定するもよい。紙數が限定されると、勢ひ兒童は工夫を練つて書くやうになるからである。文字は緋のない伸び〳〵した字でありたい。そこで緋のあるちぢこまつた字を書く兒童には、手本全體よりも一字々々の取扱に要點を授くべきである。また文字は元氣に充ちた筆勢のある字でありたい。それには何より文字に對する十分の理解を與へることが必要である。一筆書いては手本を見、一筆書いては手本を眺めるといつた具合では

到底元氣のある字を書き得ない。一氣に不安氣なく書く、調子に乘つて書く。これが筆勢のある字を書くの秘訣である。後つて教師は十分に運筆を理解せしめ、そして反覆練習によつて文字に親しみを覺えさせ、一旦筆を握れば文字即我の境に至るまで指導せねばならぬ。

算術科獨特の學習訓練

算術は兒童の思考を精確ならしめるための論理學である。而して思考陶冶の形式的方面を忘れては、算術教授はおのづから遲滯となる。且つその効果を特殊的ならしめず、一般化せしめねばならぬ。かくして始めて算術科は教育上獨特の地歩を占めることとなる。算術はまた兒童の生活上必要な日常計算の習熟を圖るにあるもので、それに關する知識技能によつてその目的は達せられる。一般に算術は實利的、客觀的に解釋され、尊たい理知の滿足のみを目的とするが如く考へられてるが、眞の算術は科學に立脚し、道德・藝術を通じ、以て宗教の眞髓にまで歸着すべきものである。換言すれば、算術は眞・善・美・聖の渾然たる理想化を目的とするものである。その學習に於ては、事實關係及び數量關係を精確に理解せしめねばならぬ。尤も精確といふことは、算術特有の要素ではないが、その本質が數量的であるから、當然に精確なることを求めねばならぬ。また數の眞理は絶對的であり普遍的であるから、當然に絶對・普遍的なる原理・原則を探求し、これを一般に應用することを本質とする。一方算術に於ける事實關係、數量關係の考察は、確證的の論據に基づいて、一歩々々合理的な指導を進め、遂に確實な結論に達すべきもので、その過程には一毫の不精確曖昧を許さない。かく算術は秩序的・系統的進展を經けるものであるから、その基礎なるべきものはこれを徹底的に理解し、既に得た知識は器械的乃至固定的たらしめず、廣くこれを應用せしめるの態度を取らしむべきである。算術をして非實際的・非現實的に陷せしめ

るのは、その本質による結果ではなくして、これを教へる者乃至學ぶ者の罪である。そこで算術の事實はこれを實際的乃至現實的の軌道を脫せしめず、常に生きた事實と照合して行かしめねばならぬ。

もし從來のやうに算術を形式的・器械的に取扱ふならば、兒童は算術に對する興味を覺えることなく、算術は只ひつかしいもの繰ひなものとして賻みぬに至るであらう。すべて出發點は大切なもので、算術學習の初歩に於て既にこのやうな考へを持つならば、それが先入主となつて、いつまでも算術を嫌惡し、算術による日常生活の利便と幸福とを享けずに一生を終るであらう。故に算術學習の出發に於てはまづ算術に對する興味をもたせねばならぬ。而して興味をもたしめるには兒童の數量生活を指導し、兒童の生活に觸れて算術學習をせしむべきである。それには算術を算術の時間のみのものと限定せず、所謂合科學習の精神で指導して行くべきである。故に注意すべきは、數量生活の方面は數量生活の出來る環境を整理し、常に數量生活の指導をしないと、合科學習もうまく行かない。そこで各兒童に例へばメートル法の繩尺を持たせるとか、計算カードを持たせるとかして、あらゆる方面から數量生活の出來るやうに、環境を多樣にすることを忘れてはならぬ。

次に大切なことは、兒童に數觀念を確立せしめることである。教師はまづ算術の教科書には拘泥せず、兒童が數量生活をしてゐるその具體的事實を基礎として算術學習を指導して行かねばならぬ。即ち事實に出發して計算の指導をやる。この要領を以て算術學習を指導しつつある間に、初學年の算術學習の最大任務である所の數觀念の確立を圖つて行かねばならぬ。これが確立を期するには、事實を理解させると共に數へること、直觀させること、數系列・數系統の理解、分解・綜合の四要素に留意せねばならぬ。即ち數へるといふことについては、數量と數詞との密接なる結合を圖り、更にそれらと數字との結合を圖つて行く。直觀に於ては實物直觀を始め兒童用の計數器・數圖等の直觀物を提供する。また數系列・數系統

の理解に於ては敢の連續的發表及び二位數の成立を十分に理解納得せしめる。最後に分解・綜合即ち計算の指導であるが前記四要素中これは特に必要なことで、しかもこの計算は必ずしも教科書を一頁一頁順序を追はなくとも、自由に臨機に行はしめる。もしこの自由に解放的に行ふ結果、學習が調まらぬといふ慮れがあるならば、中心點をきめて置く。例へば今日加法が中心であるとか、乃至は減法が中心であるとか、中心點を定めてもよい。しかも中心點をかくきめても、常に加減乘除のすべてに亘つて行くべきである。かくすることは兒童の經驗生活を基調として算術學習を指導する上からも、數觀念の確立といふ點からも實に得策である。

能力に應ずる指導は、算術學習に於て最も必要で、しかも最も實行し易いのである。それは算術は兒童に能力の差が最も現はれるといふこと、自働的に學習させるのに最も適してゐる性質を有してゐることによる。從つて成るべく自働的に學習させ、個別的分團的の指導をして、優等兒を發展させると同時に、劣等兒をも救濟して行く。優等兒を發展させるには、質を深くし進度を進めるべく、劣等兒の方は餘り複雜にせず、且つ直觀的・具體的の指導を原則として救濟して行くべきである。

地理科獨特の學習訓練

正當なる世界觀を養成するのが地理科の目的である。從つて自然及び人類の地理的事象即ち地球表面及び人類生活の狀態を正當に確實に知らしめねばならぬ。そして本邦の國勢を理解し、延いて我が國の世界的地位を自覺せしめ、以て愛國の精神を振作し、同時に國家存立の自衞上國力を充實せしめる事の大切さ緊急さを知らしむべきである。かく國民的精神を涵養すると共に一方世界的識見を樹立して國際的精神を喚起し、以て世界人類が相互に協同協力し、世界文化の

建設に貢獻する所あらしめねばならぬ。また經濟的思想を養つては、我が國の產業の獨立發展及び海外貿易の振興に思を致さすべきである。要するに地理科は文化生活の指導を本領とするもので、從つてこの科では單に科學的地理思想を附與するに止まらず、消德的術を通じて宗教的信念にまで導かねばならぬ。

そこで地理學習の態度であるが、その學習の本領は實地について地理的現象を直觀するにあるから、鄉土地理は地理學習の模範的學習態度を樹立するに最も好都合である。鄉土地理の研究やその他の學科によつて基礎觀念を得たならば、これを土臺として、未知未見の土地や事實現象に關して、これを實際的に想像し或は類推して行かしめる。想像による學習には談話・記錄・寫眞・繪畫・模型等が補助物となり、類推による學習には既知の地理的理法・法則及び具體的事實が大いに役立つ。地理の學習では地圖が有力なる基礎である。兒童の眼前に宇宙を展開し、世界を一眸中に收めしめるのは、地圖の力である。しかもかくして宇宙を展開した地圖は、無言の裡に世界の外部的活動的狀態を親しく物語り、そして內部的意識的狀態をも囁くのである。その地圖の無聲の物語を聞く力を養ふのは地理學習のスタートポイントである。而してその力は地圖を見るのではなく、これを讀む力に外ならぬ。そこでこの讀圖力を十分に涵養せしめるには如何に指導すべきかといふに、まづ繪圖を實習せしめて地圖と實地との比較對照を研究せしむべきである。卽ち最も手近な最も兒童に密接な教室の繪圖を實習せしめる。教室の繪圖と實際とについて十分に觀念を得たならば、次は校舍校地と繪圖の對象を廣めて行くべきである。かく繪圖の觀念が確實になれば、今度は模型を作らせて見るがよい。粘土又はボール紙で作らせる。最近は砂地圖製作の方法もあるからこの方法によるもよい。まづ鄉土地圖から始める。そしてこの際には符號を敎へて實地を地圖によつて想像實感を誘ふまで指導せねばならぬ。かうすることによつて兒童は一通り讀圖力を得るが、次には地圖を內面的に讀み得るまでに導かねばならぬ。例へば高地が急に低地になつてゐるから、そこに流れてゐる川は急流でな

けゝばならぬとか、海濱と山岳との距離からその近海の海底の深淺を推測するとか、山脈の方向、風の方向或は水陸の分布から氣候の如何を推測するとか、尙進んでは地勢その他から都府の發達狀態の如何を推究して行くまでに觀圖力の徹底を圖るべきである。

地理の學習は單に地理的事實・現象を具體的に實際的に知らしめるに止まらず、進んで自然界・人類界に於ける一般法則を發見せしめねばならぬ。かくまでに至つてこそ始めて文化教育へ價値ある貢獻をなし得るのである。そしてこの目的を達するがためには、事實の理解上單に想像的・類推的判斷をなすばかりでなく、廣く事實を蒐集・分類・解釋し、以て正確なる一般的の理法・法則を理解せしむべきである。

次に兒童の一般に好まぬ所の統計圖表の見させ方について一言する。その種類には、面積比較・人口比較・各種産額比較・陸海軍兵比較等枚擧に遑ないが、統計圖表は社會の諸現象を數量的に簡單に明示したもので、一見甚だ無味乾燥で、兒童が興味を持たぬのも無理はないが、地理學習には頗る便利で且つ有益なものである。卽ち人口とか面積とかの數字を抽象的に記憶せしめるよりも、この統計圖表によつた方がより具體的でより明瞭ならしめることが出來る。そこで、敎師は十分に統計圖表の表示法・點圖法・線法・地圖法・點地圖法・象形法などについて授け、統計圖表を單に報告的に取扱はず、これに具體的な說話を試み、兒童の想像・類推力を深めねばならぬ。それには兒童をして卑近な例によつて自ら圖表を製作せしめるがよい。かくすることに於て兒童は圖表を理解すると共に、自然に興味を覺えるやうになる。

國史科獨特の學習訓練

國史の使命は國體の大要を理解せしめ、國家社會の發達の沿革を知らしめ、以て國家社會の現在を知解せしめるにある。

從つて國史敎授の生命とする所は、國民たるの志操を涵養することにある。卽ち我が國の起源・變遷・發展過程を明かにすることによつて、世界列國特の我が國體の尊嚴さが會得され、國民文化の進步・日本民族の繁榮・國運の隆昌の由來するその根本を體得されるも。我が國體が理解されれば、そこに忠君愛國の念は油然と湧き。この世界無比の國體を維持し、日本民族の文化の存續發展と國威の發揚とに貢獻しようとする志操がおのづから養はれることになる。しかしこの國民的志操は狹隘なる排外的精神ではなく、世界人類協調の大精神に基づいて、國家獨自の文化を以て汎く人類文化、世界文化に貢獻するといふ人道的・宗敎的精神と一致するものでなければならぬ。尙國史科は吾々に因果應報の理を悟らしめ、道德的にまた宗敎的に敎訓を與へることが頗る多いことを特徵とする。

過去の事實を正當に理解することは、つまり現時の國家社會を正當に理解することである。如何に確實なる史實でもこれを正當に解決しなければ、正しい史的知見を與めたとはいへず、またどんなに正當に理解しようとしても、その史實が不確實な根據の上に立つてゐるものであるならば、それは確かなる史的知見を與めたとは云へない。從つて兒童には確實なる史實を正當に理解せしめる學習の態度を養はねばならぬ。

元來史家の態度としては、史實を唯一の基礎としてその範圍から一步も出でることなく、しかも純客觀的に嚴密なる批判を下すにあるもので、その間些少の主觀を交へてはならぬ。そしてこの態度により史眼は養はれ行くのである。東西古今の治亂興亡・盛衰成敗の迹は、すべてこの正しき史實批判の態度を離れてはならぬ。卽ち犀利なる史眼に映じたものでなければならぬ。しかし、確實なる史實を正當に理解し緻密なる史眼に訴へて批判するのみでは、まだ歷史研究の目的が達せられたとは云へぬ。卽ち史實の根本に秘められてゐる精神を捉へねばならぬ。例へば維新に際し德川慶喜が大政を率還して王政は復古されたのであるが、單に慶喜が政權を率還したがために王政は復古されたのではなく、率還せざるべか

らざる氣運が澎湃として動いたがために、慶喜は大權を奉還する事になつたので、それは原因ではなくして結果であつてその結果がまた原因となつて王政復古といふ結果を見たのである。史的事實にはよくかうしたことが多いのであるから、單に皮相的に解釋することは、眞の歷史研究の態度と云へぬ。所謂眼光紙背に徹る底の犀利なる史眼によつて史實を觀、そして秋霜の如く冷靜に批判して行くことこそ、眞に歷史研究の態度といふべきである。

また歷史は單に過去の事實を確實に正當に究明するのみでは、まだ十分なる學習態度とは云へぬ。これを自己の道德觀に訴へ哲學觀に照して、自己修養の活きた教訓に資するに至らねば、文化生活に於ける歷史教授の目的は達せられぬ。例へば菅原道眞は政治家としては當時一流であつたけれども、その人物は少しく狹量であつたと、或る史家は評してゐるがそして史家の立場としてかく批判することは少しも咎むべきではないが、政治家として少量であつたといふことと、その無比なる忠君の士であつたといふことは、おのづから別問題で、道眞を吾々が皇室中心主義の人として欽慕するには一向さしつかへがない。

次に歷史の學習は單に史實を正當に理解するに止まらず、常に因果關係の推究を學習の要領とすべきである。即ち「何であつたか」といふことを解決するのみに滿足せず、進んで「何が故に」といふことを探究せねばならぬ。そしてこれを實生活の上に如何に應用するかといふ點にまで到達せねばならぬ。例へば源頼朝は蓋世の英雄であつたが、その子孫は繁榮せず、北條氏のために政權を奪はれてしまつた。この事實を研究して處生に資さうとするには、どうすれば頼朝は子孫を繁榮せしめ、政權を北條氏に奪はれずに濟んだかといふことを研究せねばならぬ。そしてその研究によつて處世の教訓を得るのである。この態度は延いて國際的に知見の修養ともなり、終に人類文化・世界文化に貢獻する所の人道的・宗教的精神の涵養ともなるのである。」

尙この科の指導に於ては、個々の事實を明かにすると共に時代の特色を摑むこと、(年代)年表と共に場所(地圖)を明瞭にすること個々の人物と事件との關係を明かにすることの三方面を忘れてはならぬ。この科の學習も兒童の自發的態度により自學的に學習せしむべきではあるが、知識の性質上信頼する教師の確信あり力ある說話により、事實の眞相を明快に了解せしめることによつて、兒童の感興も湧き、從つて國民的志操も涵養せられるのであるから、この點に一考するの要がある。

理科科獨特の學習訓練

凡そ文化生活に寄與しようとするものは、まづ文化生活を理解せねばならず、文化生活を理解しようとするには、文化生活の基礎たる自然界を了解せねばならぬ。理科はこの自然界——自然物及び自然現象——に關する知識の一般を授け、兒童をして文化生活に寄與貢獻するその基礎を與へるものである。これが教授に於ては兒童をして科學的活動の習慣を構成すべきである。そして科學的活動は創造的であつて、因襲的・傳統的舊慣に囚はれず、事物の利害長短を出來るだけ精細に正確に調査し、判斷し、また推理して事物の本質を究め、その理法を究めるにある。しかもこの科學的研究の精神は、知識を益し、人化を進め道德を向上する唯一の鍵である。即ち科學的研究によつて吾々は、自然の統一とその理法とを發見し、これを自然界並に人事界に應用し、以て正しき人生觀と世界觀とを建設し、人間生活をして價値ある理想境にまで導くことが出來るのである。そしてこの人生觀乃至世界觀を立てると共に、自然に對する美的陶冶・道德的陶冶を完成し、宗教的陶冶にも成功せねばならぬ。そこに眞の理想境は展開される。尤も眞理に對する愛好の念は、常に美的要求・道德的要求を促し遂に宗教的信仰に至らしめるものである。理科は畢竟この眞理愛好の念の涵養をその使命とするものなのである。而して

理科學習の根本的基礎は、觀察と實驗とにある。從つて敎科書に記されてある事實にしても、敎師の說く所にしても、これを無批判に直ちに承認してはならぬ。卽ち理科の對象物はすべて事實に後し實驗に訴へて、然る後に始めてその事實を承認すべきである。理科學習に於ては、飽くまでこの實證的態度を持せしめねばならぬ。故に自然物及びその現象に關して疑問とする點は、自ら進んで解決すべく、精確なる觀察と正當なる思考推理によつてこれを解かしめねばならぬ。そしてその思考・推理が正確であるかどうかを驗するには、事實に徹するのが最も確實である。從つて正確なる思考・推理をなすには、正確なる觀察が必要となる。かくて理科の學習は常に科學的態度でなければならぬ。卽ち科學的考察によりてのみ、よく自然界に於ける統一を發見し、自然を支配する原則を知り、宇宙構成の理想を認め得るからである。理科の學習にあつては、第一に自然を自然のままに觀察し、その觀察した事實を系統立てねばならぬが、更に進んでその各事實の內部に於ける因果關係を探求し吟味し、そこに動かすべからざる理法を捉へねばならぬ。宇宙・世界を對象としてこれを科學的に吟味し、正しき見解と普遍的理法とを發見せんとするは、卽ち理科學習獨特の領域である。

自然を機械的乃至個別的に見る時には、冷靜なる科學的考察によつて隱微なる自然の事實を發見することを得るが、自然を有機的・目的論的に見る時には、敬虔にして溫い藝術的考察によつて、幽玄なる宇宙の大眞理・大神秘を發見することが出來るのである。從つて理科學習に於ては審美的態度を等閑に附してはならぬ。吾々は冷たい個々の自然界の事實を知つたのみでは、まだ宇宙の眞相を知つたとは云へぬ。その冷たい個々の事實の奧底にすべてに相通じて流れてゐる溫がい脈絡——理法——を知つて、ここに始めて宇宙の眞理を知ることが出來、吾々の科學的知識は宗敎的信仰にまで到達するのである。卽ち自然を目的論的見地に立つて觀察する時には、そこに人類の進むべき目標を認めることが出來る。自然を單に冷たい自然と見ず、人生と溫い血の通つてゐる生きた自然と見れば、そこには人生の理想が暗示される。健全なる科

學思想に出發し、道德的・藝術的態度により正當なる世界を立て、以て宗敎の眞髓に觸れ、宇宙を達觀する宗敎的態度に出でることは、學究理科學習の窮極の目的である。自然は究めれば究める程玄妙不可思議となる。そしてその玄妙不可思議なる自然を統裁するものは神である。神は卽ち眞理乃至理法の顯化である。この神に歸依してその啓示——自然の事物・現象の眞相——に從ひ、神意——自然の理法——に添ひ行くものにのみ、神の恩惠があるのである。

尙理科の實際的指導に於ては、下記の態度に出づべきである。——敎科書の材料は全國共通的であるから、必ず各地方に於ける適切な材料に地方化し、これを直觀的に取扱はねばならぬ。敎科書に盲從することは各敎科でも避けねばならぬことであるが、理科に於ては特にさうである。理科は兒童の好む學科であるから、その兒童の興味に訴へ、兒童自ら材料を蒐集し觀察し考察するやうに、所謂發見的指導法に依るべきである。同時に校外敎授・博物の採集・工物の見學等により、實地について觀察せしめる。理科としては第四から始めることになつてゐるが、自然科・直觀科又は觀察科の名の下に低學年の頃から常に自然に親しめることが大切である。卽ちかうして兒童に理科學習の態度を十分に作り上げることが出來ると共に、自然愛好の念を根強く培ふことが出來るのである。

圖畫科獨特の學習訓練

圖畫敎授は兒童をして形象を美的に鑑賞し批判せしめることを本旨とする。兒童が自然界乃至人事界に已れの感情を移入してこれを美的に考察し賞翫することによつて、全我を美的に發達せしめ、從つて品性の陶冶に資することが出來る。而して鑑賞能力の發達は自然を美化し人生を高雅ならしめ、人に安心と幸福とを與へる。殊に物質文明に支配されつつある現代社會に於て、人間の物質化・機械化を防ぐ唯一の盾は、この美的情操である。尙この科にあつては、自然及び人生

を美的に考察し批判するに止まらず、更に進んでこれを美的に表現する所の描寫能力をも養はねばならぬ。而してこの表現描寫は深刻鋭敏なる觀察と獨自なる創造とを前提とする。それは兎もあれ、描くといふ事によつて、兒童の眼と手とは訓練されるのであるから、兒童にはまづ何よりも先きに描かしめねばならぬ。それによつて兒童の眼は益々精確に兒童の手は愈々自由になり、遂に眼の視る所、心の欲する所が、直ちに美しく描寫されるやうになる。一方圖畫は兒童の一般的創造能力を發達せしめることを目的とする。制限と束縛とに終始しては、決して兒童の創造能力は發達せられない。宜しく彼等を自由の天地に放ち、個性の活動を恣にすべきである。即ち彼等が自身で題材を選擇し、美を構成し、それを表現描寫するところに、その創造性は無限に向上し、描寫能力は自由に發展し、その間に美的情操は豐かに涵養される。

圖畫を學習するには、從つて兒童が自然界並に人事界の萬象について、その形狀・色彩・調子等を已れの個性を通じて審美的に鑑賞し批判し、そして表現描寫することを第一とする。而して圖畫の特色は分析的・理知的ではなく、飽くまで綜合的・情緒的でなければならぬといふ點である。故に兒童が描かうとする對象をば、その美意識に訴へて審美的に、即ち綜合的・情緒的に表現することが、圖畫學習の本質である。兒童が自ら題材を選擇し、考察し、描寫し、批判するところに眞に兒童の自由があり創造があるのであるから、圖畫の學習は兒童の個性を自由に活動せしめ、常に創作的發見的ならしめねばならぬ。兒童がかくして眞に自由なる生命に浸る時、そこに始めて眞劍なる精神の緊張を覺え、全我の美的活動をなし、從つてそこに自己を創造し、發展し、無限の感興と愉悅とを以て藝術の國に嬉々することが出來るのである。尙兒童には常に鑑賞・批判の態度を執らしめねばならぬ。即ち兒童が鑑賞し批判することによつて、益々自然美を意識し美的情操を喚起し、そして描寫能力を無限に發達せしめるものだからである。

圖畫科に於ては勿論自由畫を主とすべきではあるが、臨畫・記憶畫・寫生畫等の各方面に亘つての教養をも忘つてはならぬ。そして寫生には室內寫生と野外寫生とがあるが、教室で靜物寫生を行ふ時は對象を自然の狀態に於いて寫生せしめる必要があり、野外寫生の場合には、教師は必ず寫生上の注意をなしてから實習せしむべきである。即ち對象の把握——描かうとする自然の範圍——地平線の位置・陰影の効果・重量感の問題・連絡線の關係・色彩の濃厚などについて注意する所なければならぬ。殊に鉛筆には立體感を持たしめることが大切である。單なる遠近は平面的な繪畫でも表はられるが、立體的な重量感を持つまでの遠近たらしめねば、遠近法もその意義をなさぬのである。また明暗を正確に描寫せしめるには、靜物寫生に依らしめるがよい。しかし單に明暗と云つてもその對象の性質によつて明暗の調子は一定しない。例へば提灯のやうな柔かなものの明暗と、インキ瓶のやうな硬くて透明なものの持つ明暗とは、その調子に於て硬度に於て非常な相違がある。そこで、靜物寫生で十分に明暗の表はし方を會得し、然る後一層複雜さを加へる風景寫生に移らせる。尙兒童の色彩感は一般に甚だ貧弱である。それに色彩を一つの選つた有機體として感得することは頗る困難なやうである。從つて多くは生のままの色彩であり、部分的な色感の盾である。然るによい繪畫ほどこの色感が統一され、單純化され、そして却て複雜味が織込まれ沈潛化されてゐる。從つて色彩感の統一といふ點は素より重要視せねばならぬが、小學校に於ては色彩の基礎的觀察力を培養するに止めねばなるまい。それには教師は鑑賞畫を提出して、その色彩の深さに注意すると共に、繪畫の使用法を十分に訓練指導すべきである。

手工科獨特の學習訓練

手工科の眼目とする所は、物品製作の知能を養成するにある。即ち兒童自身が自ら工夫し考案し、その習熟した技術によつて物品を製作するやうに導かねばならぬ。しかもその到達點は模倣によらず創造によつて自由自在に製作するの域で

あつて、これまでに到達するまでには、素より教師の適當なる指導と模範とを必要とする。かく物品製作の能力を養成すると共に、兒童に工業的趣味を發達せしめる事が肝要である。我が國民は實業思想、殊に工業思想が歐米人に比べると頗る低い。從つて工業界の發達に於て彼等に非常に後れてゐる。そこで、工業思想を鼓舞し、大いに工業界の發展を期するの意味で、將來の我が國民に工業的知識を獲得さすべく、小學校時代に於てその工業的趣味を喚起せしめる要があるのである。それと同時に、兒童に勤勞の習慣を養はせる事を忘れてはならぬ。一體に我が國民は勤勞・作業を嫌忌する癖があり一般國民は勤勞なく作業なき生活を望み、袖手して暮すことを理想としてゐるが、實に間違つた考である。生活は要するに作業であり、作業は勤勞によつて始めて行はれる。そこで、兒童が將來活社會に出て眞に生活をなさしむべく、この勤勞の習慣をつけるといふことは、實に有意義であり必要缺くべからざることである。

手工學習程度の第一としては、他を模倣せず他に依賴せず、己れの知能のあらん限りを盡くし、己れの技能のベストを傾けて己れの欲するものを自由に自在に構成しようとする態度であらねばならぬ。それには精密に觀察し、確實に實行し勤勞・作業を厭はず、どんな困難に遭ふてもそれに辟易せず、飽くまで初志を貫徹しようとする忍耐敢爲の習慣をつけねばならぬ。一體作業の堪能は精密にその製作目的を完成しようとする熱心さのある所にこそ、理解より感激あり、そして愉悦があるのである。作品に生命があり眞に價値が現はれるのは、その作品に己れの思想と己れの感情とを移入することによつてのみ可能となる。從つて、兒童には常に作品に己れの全生命を打ち込む底の熱心な眞摯な態度を執らしめねばならぬ。

材料及び工具の準備の關係上、目的指示は教授前に豫告すべく、準備としては製作に關する既知の事項を問答し、製作品や材料や製法に關する兒童の知識を喚起すべきである。又實物或は模型を與へて模倣せしめるには、兒童をしてよく觀

察せしめ、製作の方法は兒童をして發見せしめるやうに誘導する。そして實習は製作について大體の案が出來るまで、指手せしめぬがよい。また題目を與へて工夫考案せしめるには、兒童をして模型や參考品を觀察せしめ、或は繪畫を見せしめ、その基礎なることについては相當の指導と援助とを與ふべきである。最初から單に自由に放任せず、或る制限內で工夫せしめ、漸次自由の域を擴大すべきである。一旦兒童が製作に取掛つたならば、それが製作の目的條件に背くことなきか、又は工作圖と相違することなきかを驗せしめる。それは製作が疎略になり不正確になるを恐れるからである。そして完成したならば、それを批評することを忘れてはならぬ。應用的創作的の場合には特にその必要がある。兒童は批評により製作上の見識を高め、鑑賞眼を發達させるものだからである。

唱歌科獨特の學習調査

唱歌科の目的は兒童をして平易な歌曲を自由に唱ふ事の出來る技能を得せしめるにある。唱歌は單に在學中の樂しみのために授けるものではない。學校生活よりも却つて實社會に出てからの生活に於て歌を唱つたり聽いたりして樂しむ機會が多いのであるから、學校ではその基礎を與へるのを目的とする。しかし實際に於てはその音樂的基礎は一向役に立つてゐるず、音樂的趣味は或る特殊の人々に限られてゐる。それは畢竟教授上に不徹底さがあるによる。平易なものは自分で樂譜を見て直ちに唱ひ得るやうに導くと共に、音樂を聽く耳を十分に養はしめねばならぬ。

唱歌には美感を養ひ德性を涵養するの力がある。直接に吾々に感動を與へて精神的に慰安を覺えしめるものは音樂である。兒童は歌を唱ふこと、それを聽くことにより淺我的快感を覺え、內部に溫味を感ずるものである。かくて唱歌は道德上への貢獻をもなすやうになる。音樂は直ちに倫理を敎へるものでもなく、道德を讀へるものでもないが、美を好み醜を

避けるの心情を養ふもので、その心情はやがて正しき行を求め、不正な醜悪な行爲を嫌ふ品性陶冶の上に大なる影響を與へるものである。

唱歌は歌がそこにあつてそれを歌ふといふのではなく、己れの心の底から歌はうといふ強い欲求が生れ、そして自然に歌ふといふ底のものでなくてはならぬ。即ち歌は己れの生命の聲であり、心の囁きであらねばならぬ。故に唱歌は兒童をしてその精神狀態にまで達せしめ、その內部の强い欲求の上に、音樂の神を踊らしめねばならぬ。唱歌は畢竟兒童の內部に祕めてゐる調和的・韻律的・音樂的心情を陶冶し表現するものである。故に歌は單に聽くだけではなく、自ら進んで歌はしむべきである。そして眞に己れの心情を陶冶し、感情表現の能力を獲得するものなることを知らしめねばならぬ。これ即ち唱歌の眞の學習態度である。また唱歌はその曲の全精神を己れの心の奥底に織込んで己れと融合し、同化しそれに己れの血を通はし肉を添へて表現するのでなくては、その曲に生命がない。曲に生命あらしめるこの境地に至つて、始めて歌を味はひ得るもので、しかも歌を味はふといふことは、唱歌の眞髓なのである。即ち歌を味はふ域に達してこそ、趣味の養成ともなり、德性の涵養ともなるのである。尙敎授に當つては熱心と愛とに滿ち、しかも嚴格なる管理と親しみ慎しみのある溫情とを以て、兒童を活動せしめ、以てその心身を音樂の花園の芳香の中に浸らしむべきである。

體操科獨特の學習訓練

體操科の身體的目的は、身體各部を均齊圓滿に發達せしめるにある。即ち身體を優美端正ならしめ、筋肉系及び神經系の發育を十分ならしめ、榮養・循環・呼吸・消化及び排泄等の諸機能の作用を促進順當ならしめるにある。一方、體力を增進せしめ、身體を剛健强壯ならしめ、他の抵抗に堪へ、劇動乃至困苦缺乏に堪へるに至らしむべきである。體操はかく身體上

の發達に留意するのみでなく、進んで精神上の陶冶をも目的とせねばならぬ。即ち知的方面に於ては注意力を修練し判斷力を養成し、想像力を增進し情的方面に於ては快活・同情・協同・團結等の心情を陶冶し、意的方面に於ては勇壯・活潑・剛毅・果斷・忍耐等の實行力を養成せねばならぬ。

學習に於ては受動的態度を避けて須く發動的態度を以てすべきである。今日一般の體操學習の弊は、兒童が受動的なることである。それはつまり體操科が兒童に興味を感ぜしめぬからである。故に發動的學習態度をとらしむべく、敎授は兒童の興味の上に出發せねばならぬ。そして盲目的器械的に敎師の授けることを受けるのみに滿足せず、深くその理論の根柢を探り徹底的に理解するに至らしむべきである。このやうな合理的・思考的學習は、敎授を一步々々理論の上に乘いて行つて始めて得られるのである。前記のやうに體操は單に身體方面の鍛鍊に局限せられず、知・情・意の三方面の安全なる發達を期すべきもので、この精神方面の陶冶によつて人格の圓滿なる達成を見るべく、學習訓練せしめねばならぬ。

體操科中體操(各種運動)運動は身體及び精神を分解的・部分的に活動せしめ、心身の鍛鍊を圖るを目的とするが、遊戲及び競技はこれに反し身體及び精神を總合的・有機的に活動せしめるを目的とする。從つてその心身に及ぼす効果は時に體操を凌駕することがある。殊に遊戲及び競技は兒童の本能の自然的發露であるから、その活動は實に活氣を呈する。但し彼等の興味に投じないものは、彼等に歡迎されないから、遊戲・競技は常に兒童の興味を覺えしめるものを行はねばならぬ。而して競技の要領は所謂勝たんかな主義、即ち目的の前には手段を選ばずの卑劣な根性を棄てて、正々と堂々と華々しく勝つ所のスポーツマンシップの獲得によつて始めて達成される。禮節を尙ぶこと、秩序を尙ぶこと、これは即ち運動精神の現はれである。それに競技を中途で放棄するが如き忍耐力なき性質を矯め、どうしても最後までやるといふ習慣、即ち一事貫徹の良習慣をも增養せねばならぬ。

次に教練の特質は、身體上の鍛錬よりも寧ろ精神上の鍛錬にある。即ち教練にあつては意志の命ずるままに身體を左右し、心身一致してよく規律を守る習慣を養成することを目的とする。攻撃的精神は即ち進取敢爲の精神で、進取敢爲は興國國民のシンボルである。從つて一國の興亡盛衰は一に國民の攻撃精神の如何にあるのであるから、教練に於ては兒童にこの攻撃精神の養成を圖らねばならぬ。また教練は協同一致の精神を尊ぶ。しかもこの精神は團體生活に極めて必要なものである。國民が假令個々としては微力であつても、これを大いに結束してその力量を發揮せしむれば、その結果は實に偉大なる力となつてあらはれる。從つて協同一致の精神は、國家存立上また社會生活上非常に大切なことであるから、教練を通じて兒童のこの精神を鼓吹するやう特に努力すべきである。

家事科獨特の學習、訓練

家事科は女兒に一家の主婦として一家を處理する萬般の知識とそれに必要な技能とを授けるを目的とする。從つてその內容は、料理・洗濯・衞生・看護・經濟等廣汎に亘るが、苟くも將來一家の主婦としては當然に修得せねばならぬもの、換言せば女兒として最も大切な事柄である。然るに、女兒の多くはこれを輕惡するの傾向がある。それは主として教材の面倒臭きことを、教師の指導がその要點を外れてゐることゝにある。將來主婦としての治家經濟の知識を教へるものではあるが、まだ主婦といふ立場にゐない女兒に餘りに主婦らしさを望むといふことも、彼等に家事科を輕惡せぬまでも關心さを持たしめぬ一原因である。女兒は主婦ではなく、乙女である。彼等が主婦らしさを欲せずして乙女らしさを欲してゐるのは當然のことである。從つて家事趣味を養成せしめるには、主婦としての立場よりも、現在の女兒の立場としての適切な る知識技能を授けることを本位とすべきである。それがやがては主婦の立場に立つた場合に生きて來る。

特殊な家庭のみ必要な教材よりもつと一般家庭の日常生活に密接な教材を選擇することは、女兒をして家事に關心を持たしめると共に、實際の上に役立つ。また女兒に家事趣味を養成せしめるには、理解の程度に應じて教材を採擇し、これを興味的に學習せしめるといふ點に重きを置かねばならぬ。何より家事の鄕土化・家庭化及び現代文化の要求に合致するといふ點に留意せねばならぬ。家事趣味は家事學習の基礎的態度として十分に涵養せしむべきである。何にしても趣味のない所には學習は滿足に行はれぬが、殊に家事科の如き現在の生活に密接不離の交涉を有してゐるものにあつては、これを强制的に形式的に學習せしめることは大禁物である。尙實習が器械的に理論的に流れることは、正當なる學習態度でない。飽くまで女兒の感情に立脚して、和氣藹々裡に自由に實習するやうに心掛くべきである。

家事教授に於てはつとめて說話の抽象化を避くべきである。また教科書一點張りで趣味のない說話振りではいけない。說話は具體的に興味的に話さねばならぬ。つとめて實際例をとつて、多くの經濟と觀察とを授くべきである。例へば教師の失敗談や成功談などは女兒の興味を惹くものである。時には兒童に既往の經驗にも觸れしめて、教師の獨り舞臺の弊を去ける。かくてこそ教師と女兒とは密接な學習環境を釀すことが出來る。尙說話の取材は女兒一般に理解される內容を持つものでなければならぬ。もし特殊の經驗を話さねばならぬ時には、それが獨り合點にならざるやう具體的に分りよく話さねばならぬ。また例へば家具の取扱法を授ける場合でも、單に要點に觸れるだけでなくして、實際例から要點を生かして行く方法を採らねばならぬ。衞生看護でも理論的な衞生法乃至看護法を授けるのでは、徒らに女兒に欠伸をさせるにすぎぬ。即ち女兒が實際に看護した經驗を語らせ、その看護後の誤謬或は長所に觸れて行くことによつて、女兒に興味的に學習を進ませることが出來る。

次に家事實習であるが、それは家事學習の論理過程の技術化であり實演である。即ち身的活動に訴へて技術として家事

學習を表現せしめるものであるから、理論が主でなく手の働きが主であらねばならぬ。そして家事科は技術を女兒に實際に會得せしめるのが目的であるから、この方面の發達を重視せねばならぬ。理論は具體的に簡單に、實習は生活的に頻繁ならしむべきである。尙實習上の要訣としては、先づ實習の順序方法が普通教授の要旨と合致すべき點である。論理學習から實習へと進むべきはいふまでもない。また材料の如きは家庭的な材料を選擇し、用具も家庭で使用し得るものを用ひるべきである。作業に於ては心身を敏活に働かせ、清潔を旨とし、その變化を吟味しつつ進行せしむべきである。材料の如何によつては、個別的に實習せしめる場合と、分團的に實習せしめる場合とがあるが、教師は常に机間を巡視して注意を與へ個別的指導を施すべきである。

早に教師の說く論理的過程に立つて、教師の指導によつて實習をやつただけでは、眞に家事の實力を養成せるものとは云へぬ。どうしても既に授けられた經驗を基礎として分解應用するの方法を採らしめねば、知識をして兒童自らのものとして獲得するに至らぬ。かくて家事を應用實習せしめるには、教師は間接指導乃至は補導者としての立場に立ち、女兒は獨立した態度の下に攻究せしむべきである。材料は既習のものを使用せしめてもよいが、その結果は獨自的のものたるべきである。參考書を與へ讀書に依らしめて應用實習せしめる場合もある。また家庭に於ての經驗を輪廓として應用實習せしめる方法もある。何れにしても女兒の分解綜合力と技術との訓練を目的としなければならぬ。大部分の女兒に取つては家事科位近い將來に實際の役に立つものはないのであるから、この科の本領を十分に發揮すべきやう學習態度を養ひ、十分に訓練せしめねばならぬ。殊に現代生活は經濟的に最も重きを置かねばならぬから理論のみではなく、實習に際してもこの經濟的思想を涵養するやう具體的にしかも痛切に教へねばならぬ。同時に主婦としての人格——一言にして云へば婦德——の養成を重視せねばならぬ。

裁縫科獨特の學習訓練

裁縫科の目的とする所は、通常衣服の裁ち方・縫ひ方に習熟せしめて、生活上必須な實用的の技能を授け、かねて被服に關する衛生・經濟等の思想を與へ、且つ審美的情操を養ひ、綿密・清潔・整頓・勤勉等の良習慣を得しめ、節約・利用の法に慣れしめるにある。世間では裁縫の教授は衣服の裁ち方・縫ひ方をのみ習得せしめれば、それで十分と考へてゐる人もあるが、衣服に關して女子の知得せねばならぬことは、この二つの事項のみではなく、前述のやうに諸般の事項をも授けて、將來の生活に便ならしめると共に、またそれによつて心情の陶冶をなすことも本科教授の要素である。そしてその主要目的たる裁ち方・縫ひ方は正確で且つ精巧迅速ならしめるやう努めねばならぬ。卽ち巧みに仕上げられた衣服はその品位を高めるし、速かに製作することは實用上大いに便利だからである。しかしこれらの目的を同時に達することは素より爲し得ないことであるから、最初はまづ正確を主とし、次に精巧に製作するやうに導き、そして最後に迅速ならしめるやうにすべきである。

何事でも忍耐であり勤勉でなければ、その成功を望むことが出來ないが、特に裁縫科の如きは一枚の衣服を仕立てるにも變らぬ忍耐さと纖密な思想とを持するのでなければ、その良好なる結果を得ることが不可能であるばかりでなく、巧拙精粗が顯然とその製作物に現はれるから、自然に忍耐と勤勉と纖密との必要を自覺するやうになるけれども、單習態度としても忍耐の氣象と纖密の思想とを訓練するになさしめねばならぬ。一體に技術に屬するものは、單に理法を了解したことをのみではまだ十分でない。必ずこれを十分觀察してその技の妙味を會得せしめ理法の實現に努めしめねばならぬ。從つて大いに觀察力を增し、尙進んでは自ら考察し、自ら工夫し、創作的に製作するまでに導かねばならぬ。かくして觀

察思考の力を增さしめると共に、創作の力をも修練せしめることは、延いては自治自動の氣象をも鼓舞する上で、少からぬ効がある。

五　各兒童獨特の學習訓練

性別の差異による學習訓練

男女性の相異は教育上特別の考慮を要する。まづ本能に於ける大なる差異を見るに、それは性の相違によつて著しい影響を受けてゐる。例へば、闘爭の本能・支配の本能・養育の本能・慈愛の本性・感精の本能等は、殊に性によつて大なる差異を見る。また能力に於ては男女兩性間にさう大した相違を認めず、或る論者の如きは全然無差別であると說いてゐる程である。しかし思考力・創造力の如きは男兒に於て特に秀で、知覺力・把持力の如きは女兒に於て卓越してゐることは容易に認められる。例へば男兒は多少大ざつぱで、注意力などに於て缺ける所あるが、女兒は些細な事項にまで注意し、且つ記憶するので、國史、地理科などでは却つて男性よりも好成績を示すが、思考力を要する算術科等に於ては男兒に一籌を輸さなければならぬ。

婦人の中にも知識的能力が非常に秀で、高等程度の學校に於ては、往々にして男子を凌ぐものもあるが、指導者の位置に立つといふ能力には缺けてゐる。殊に萬人に勝れるといふ人に婦人よりも男子に多く、白痴者の如きは殆んど男の二倍である。過去の婦人の經驗の性質と量とは男子のそれとは大いに異なるものがあつたが、近來は婦人の社會進出につれて

その相異が漸次減ずるやうになつて來た。男女間に生活の相異の餘りないやうにすることは、近代の一般的要求であるから、これは確かに喜ばしき現象といふべきである。しかし、どうしても女子は主觀的であり、個人的である。それは自然の本性と性の訓練の結果とから由來するもので、この特性は婦人の感情に影響し、そして職業を支配する。男子は理性的、意志的であるが、婦人は感情的である。また婦人は男子に比すると幾分器用で丁寧であるが、男子の活潑、恬淡なるに對し、沈鬱、陰險である上、よく欺き、また不貞腐る。

かく性別による差異があるのであるから、學習訓練に於てはその性の相違に着眼して、適當の變改を加へねばならぬ。例へば男兒の活潑性を導いては學習を興味本位乃至作業本位にして、觀察力や批判力を養ふべく、その元氣の度を越えて粗暴に流れるを防ぐには、謙遜と敬虔との德を自覺せしむべく、一方確乎たる自學心、正しき名譽心、沈着にして大膽なる性情にまで導く、その不得手とする纖密と注意とは、技能教科の學習に於て養成すべく配慮しなければならぬ。また女兒の知覺力・把持力はこれを文學教科の學習の上に利用して益々發揮させ、その丁寧さ深さはこれを技能教科の學習の上に於て實地に應用せしめ、一方その美的情操や同情心を助長して行くと共に、その不得手なる推理力・創造力をば數理教科の學習の上で養成せしめ、一方嘘偽・陰險・沈鬱等の惡い性情を機會ある毎に矯正して行かねばならぬ。

女兒は思春期に入ると月經といふ特殊の現象があるが、これは體質的にも心理的にも影響する所甚だしいものであるから、學科訓練上特別の注意を拂はねばならぬ。殊に體操科に於ては、男子と異なる方法を以て適當に教授せねばならぬ。

參考のために、テストにあらはれた性別と知能との關係について一言しよう。田村鑒・北田米松兩氏によれば、個人テストに於ても團體テストに於てもその今日まで經驗した所によると、知能指數で約二割も男子が女子よりも優れてゐる。即ち女子には優秀者が少く、劣等者が多いといふ事實は否み難い。實例として、大阪市兒童に就て大正十三年より測定し

た六歳兒の結果をあけると、男一千〇三十九人中指數一三〇以上の者三十二人、七〇以下のもの二十四人で、女一千〇三十三人中指數一三〇以上の者二十九人、七〇以下の者四十三人であつたといふ。

性格の差異による學習訓練

素より一概には云へぬが、大體から見ると、男兒は理性的で意志的であり、女兒は感情的である。しかし男兒でも比較的感情の强い子がある、女兒でも比較的に理性のの勝つた子もある。中には意志も强いが、感情も强いといふ子もある。女兒の相當に感情的なのはよいけれども、餘りに感情的で少しのことに怒つたり泣いたり笑つたりするやうではいけないし、男兒の相當に意志的であり理性的であるのはよいけれども、餘りに理性的で冷淡であつたりするのはよくない。女兒にも多少の理性的、意志的なところがなければならず、男兒も多少の感情的なところがなければいけない。故に、餘りに一方に偏するやうな兒童には、訓育上に於て矯正する所がなければならぬ。一體人間は知・情・意の三方面が圓滿に發達してこそ、始めて立派な人格が築き上げられるものであるから、餘りに主知的で冷血漢にならぬやう、餘りに主情的で感情家にならぬやう、そして餘りに主意的で剛情張りにならぬやう、各兒童各個の性格に鑑みてそれ〴〵に訓練して行かねばならぬ。

理性的な兒童はどうしても數學教科に興味を感じ、成績も從つてよく、意志的な兒童は比較的技能科の一部（例へば手工科、體操科の如き）に關心を持ち、成績もまたよく、感情的な兒童は何とかと云へば文學教科並に技能教科の一部（例へば圖畫科、唱歌の如き）に趣味を持ち、成績も相當によい。それで、各學科の學習の上から、それ〴〵の性格を善導しまた矯正して行くことも出來る。例へば感情的な兒童で文學教科や一部の技能教科には優秀であるが他科の成績が普通乃至

は普通以下のものに對しては、成績優秀な科目と不良な科目とはどうして出來るか、換言せば成績の良不良はどこから由來するかを反省考察せしめ、もつと意志的であり理性的でなければならぬことを如實に知らしめ、性格の變改をなさしめると共に、學科の成績の向上をも圖るべきである。次に意志的な兒童で手工科や體操科などには優秀な成績を示してゐるが、他科ではそれが思はしくないといふやうなものに對しては、これまた兩者を比較對照せしめて、勉强法や努力に一段の躍進を期せしめると共に、性格の變改にも責せねばならぬ。また理性的な兒童で數學教科には堪能であるが、他科は餘りよくないといふものにしては、その好む學科で優秀な成績を擧げた努力を褒め、どうしてその良成績を得たかを反省考察せしめ、然る後他科の不良な原因に考へを及ぼさしめて、そこに奮發心を起さしめると同時に、性情の變改をも圖らしめるやう導くべきである。

何しろ相手は性格と云つても大人程にかたまつてゐない兒童のことであるから、そして教師のいふことを云はば金科玉條と心得てゐる彼等のことであるから、前述のやうに彼等を導いて行くならば、その成績も擧り、性格の變改も行はれるに相違ない。しかし、かうしたことは、殊に性格の如きは、中々急には變るものではなく、そしてそこはまだ子供のことであるから、云はれた時には如何にもさうだと合點して、今度はさういふやうに心掛けやうと思つても、さて日がたつにつれると、色々の境遇や環境の變化や、また他の色々の事情に煩はされて、兒角それが忘れ勝ちになり、無視され勝ちになり易い。それで、教師の注意はその印象を深めた時を忘れしめぬやうに、絶えずその記憶を喚起せしめてゆく必要がある。この不斷の教師の努力は必ずや兒童に好結果を見るに遠ひない。卽ち成績に於ては各學科共に平均してよくなり、性格は素より根本から改造は出來得べくもないが、一方に偏するといふ極端さがなくなり、例へば女兒は主情的に知・意も圓滿に發達して行き、男兒は主知乃至主意的に情の方面も相當に發達して圓滿な人格を作り上げるやうになる。

成績の優秀な學科はこれを褒めて、その科と不得手な他科とを反省せしむべきであると云つたが、その褒め方について、少しく述べて見よう。褒められるといふことは、誰しも悪い氣持ちのするものでないが、兒童は殊に褒められることを好むもので、從つて褒めることによつてその成績を擧げ、性情を矯めて行くことが出來る場合が多いのである。しかし、褒めるに當つては阿諛便佞といふことを大いに愼しまねばならぬ。殊に反省力の薄い兒童に阿諛的褒め方をするならば、徒らに彼等の慢心を招き、學習上の成績も性格の陶冶も決して行はれるものではない。まして、他に成心あつて阿附迎合的に褒めるが如きは、嗤笑すべきの行爲で、教師としては最も嚴禁せねばならぬことである。その阿附迎合的褒め方をする場合は、兒童の背後にあるもの、例へば有力者であるとか、調官であるとかの意を迎へるがために、即ちためにせんがために、その兒童を褒めるもので、その心事の陋劣さは悪んでも餘りありだが、その無心の無垢の兒童を損ふに至つては斷じて許すべからざるものがある。假令それが有力者の子弟であらうが、名家の子女であらうが、學習訓練上では飽くまで公平無私の態度を以て臨むべきで、その褒め方にしても戒め方にしても苟くも他と些の徑庭もあつてはならぬ。しかも當事者たる教師兒童のみの問題ではなく、それによつて級全體に疾視反目を惹き起し、彼等の眞面目な勉強心をさへ奪ひ去るといふ恐るべき結果をさへ招來する。

最後に一言するが、性格は云はば持ち生れた性分で、中にはどうしても矯めることの出來ぬまでに根深く食ひ込んでゐる性情の兒童もあるが、さうした兒童の性格を下手に矯正しようとして、その長所の發達を妨げ、しかも短所を十分に補ふことが出來ぬやうなことがあつてはならぬ。既に「角を矯めて牛を殺す」といふ諺があるが、性格を矯めやうとして兒童の性格を破壞してはならぬ。要はその偏頗なる發達傾向を防止しつゝ、長所の助長を圖り、短所を補ふにある。知・情・意の圓滿なる發達は、素より理想として大いに望ましいことであるけれども、それは比較的の話で、どんな人格者でも、

或は主知的であつたり、或は主情的であつたり、乃至は主意的であつたりする。しかしその立場に於ては圓滿なる人格中特に主知的、主情的、乃至主意的なことが望ましいことが多い。例へば政治家の如きは主知的並に主意的で、軍人は主意的で、學者は主知的で、美術家は主情的なことが、却て望ましいのである。

性質の差異による學習訓練

兒童の性質は、素より千差萬別ではあるが、これを大體に分けて見ると、熱心と怠情、凝り性と飽き性、注意と不注意となる。學事に熱心な兒は注意力も强く、從つて物事に凝る傾きがある。この凝るといふことは、何事にも必要な態度ではあるが、餘り凝りすぎるといふことはよくない。從つて凝り性の兒童は、餘り一時的に同じ事に凝らずにいつも同じ態度を持してすべてのものに臨むやう指導訓戒すべきである。殊に兒童にあつては、凝るといふ積極的よりも飽きないといふ消極的態度をもたしめたい。熱心で注意深く、そして物事に飽きないといふ兒童は、即ち優秀な兒童であつて、學科の全體に對してまたすべての學習に對して、そのやうにあるならば勿論何にもいふ處はないが、その熱心さ注意力が或る學科にだけで、他の學科に對してはさうでないといふやうであるならば、その偏頗を矯正すべく配慮せねばならぬ、即ちすべての學習に同樣に熱心であり、そして同じ注意力を注ぐやうに指導すべきである。凝るといふことは、兎角一方に偏する傾のあるものであるから、凝り性の兒童に對しては特に注意する要がある。

優秀兒童が熱心で注意深いと反對に、劣等兒童は多く怠情で不注意でそして飽き性である。從つてこれが指導訓戒には特別の考慮を要する。以下各性質についてそれ〴〵に述べよう。まづ怠情について見る。獨り學業のみに限らずすべて物事を成就しようとするには、この怠情といふこと程恐るべきものはない。尊い人生をして醉生夢死に終らしめるものは皆

この怠情のなすわざである。かく兒童の學業に於ける怠情性は、彼等の一生涯を左右する重大な關係を有するものであるから、これを双葉にして芟除せねばならぬ。そしてこれを矯正して行くには溫情主義と嚴格主義との二方面がある。怠情性の輕微なるものに對しては常に溫情を以て臨みこれを諄々と諭して行くならば、長い間には直らぬことはないけれども、その頑固なものになると仲々一朝一夕では、また溫情のみでは矯正し得ず、勢ひ嚴格主義に出でねばならぬ。嚴格主義と云つても決して叱くとか怒鳴るとかいふ意味ではなく、彼等に何かしら精神的苦痛を與へて、これを反省させるまでである。尙怠情性には先天的と後天的と二種類あるが、後者はその環境に影響されて出來上つたものであるから、その原因のあるかを明かにして、これが對策を講ぜねばならず、また先天性のものであるならば、彼等は怠惰な生活をやつてもそれを怠情と意識してさへゐぬのだから、一層矯正に骨が折れる。もしその先天性の怠情が病的原因から起つて來てゐるとせば醫療を受けさせることによつて、その原因を除去させねばならぬ。幸に先天的怠情性はその數が甚だ少なく、一見先天性と見えるものも、深く環境に左右されて先天的のものと同じやうになつたものが多いから、この判別には十分注意を必要とする。故にこの怠情性を矯正するには、その方法として先づ家庭と連絡を取り、彼等の日常生活を整理して規則正しい生活をなさしめることが第一である。そして生活を統一し秩序を保つやうに導くべきである。例へば起床就寢の時間や登校時間等を嚴守せしめ、各方面に亘つて極めて規則的の動作をとらせ、これが監視を怠つてはならぬ。然る後學習に於ける怠惰性を矯正すべきで、日常生活が秩序正しくなれば、學習上の怠惰性は容易に矯めることが出來る。それに怠惰な兒童はとかく責任觀念が乏しいが、かく責任觀念が薄弱なるが故にかうした怠惰性が增長されたといへる。そこで、彼等には相當に責任ある課業を課してこれを履擔して行くことも一つの方法である。また他の二三優良な責任觀念の强い兒童と一つのグループを作らせ、それに連帶責任をもたせ、彼等兒童にも履擔せしめるやうにすることも一方法である。しかもそこに協調精神が確立して來ればもうしめたもので、その怠惰性は日ならずして矯正され、學業も漸次に好成績を見るに至るであらう。

次に不注意な兒童の矯正であるが、一體兒童といふものは、決して一つところにじつとしてゐるものではなく、あつちに目をやりこつちに耳を傾けそして目に觸れ耳に觸れるものを手當り次第に取上るに從つて注意力もだん〳〵增して行き、その點では敎師も別に骨が折れずに濟むやうになるものであるけれども、高學年になつても尙且つ注意力が散漫で、成績が不良であるといふものも見受ける。それらの兒童にはまづ落付かせるやうに導くべきである。素よりそれは一朝一夕に矯正され得るものでなく、從つて氣永く倦まずに敎へると共に、一方家庭と連絡を密にして行くべきである。出來ることならば、さうした兒童の家庭では、彼等の勉强室の周圍などは出來るだけ靜かに落ちつかせるやうに配慮すべきである。心が落ちつき精神が統一されて行けば、ひとりでに注意力の散漫は矯正される。またどんな注意散漫な兒童でも、何かしら自分の最も好む學科乃至、遊戲運動といつたものがある筈であるから、その學科なり遊戲なりに彼等を出來得る限り熱中させ、それによつて注意力の伸展を圖り、時にはそれに對する感想を聞いたり質問を發したり、絶えずそれに注意を向けさせるやうにし、それが稍目的に近づいたならば、その熱を他の學科に移らせて行くといふことも、亦一方法であると思ふ。尙不注意な兒童は學業の成績などの良否などにも一向無頓着で、またその不良が注意散漫から來たものであるかどうかなど少しも反省せぬものであるから、敎師はこれらの反省をも彼等に促すことによつて矯正に努むべきである。

最後に飽き性であるが、幼い兒童はどうしても物にあきる。その興味は一時は大人も及ばぬ程の熱度を持つてゐるが直

ちに冷めてしまふ。しかし學年の上るにつれて、注意力が增して來るとこの飽きる性情もだん〳〵に直つて來るが、性來飽き性の兒童もあつて、高學年になつても低學年同樣の狀態にあり、一時間は愚か半時間も同じ事に噛りついて居れぬものも決して少くない。しかしかうした兒童も何か自分の非常に興味を感ずるものに對しては比較的凝るといふ點もなくはないのであるから、その比較的飽きない物事から反省せしめて矯正すべく、これも甚だしいのは家庭と連絡して行はねばならぬ。昔から「油斷大敵」と云つてる通り、何事でも油斷といふことは大禁物で、一寸の油斷から九仞の功を一簣に缺くといふことさへある。例へば數學である許心な一箇所を油斷して聞落したために、次回の講義が少しも腑に落ちず、結局不成績に終るといふこともある。油斷はかく修學上大いに警戒せねばならぬものであるが、その油斷の多くは、不注意なことと飽きるといふことから由來するもので、しかも飽きることから不注意にもなり、そして油斷も生ずるのであるから、油斷は云はゞ飽き性の兒童に殊に多いのである。從つて飽きるといふ性情を矯めて行けば、おのづから油斷もなくなり不注意もなくなつて行く。ところで油斷は成績優秀な兒童にも往々にして見る現象である。何故この恐るべき油斷を彼等が招來したかといふと、それは彼等の慢心によるもので、例へばどんな學科でも成績がよく、どんな問題でも容易に解けるとなると、遂ひ子供心に高慢になり、そこに油斷といふ惡魔が跋扈し、豫習もせず復習も怠り、果ては不成績といふ結果を見ると云つた塩梅である。それにしてもさういふ兒童はどうかと云へば飽き性であるから、その慢心を戒しめると共に、その原因が飽き性でないかどうかをも考察する要がある。この飽き性も先天的と後天的とあり、後者は習慣的のものであるから、これを矯正するには永く能き少にやれば十中八九は效ふことが出來るが、前者即ち先天的な飽き性は所謂低能兒に多く、從つて容易に矯正も出來ず、中には絶望のものさへある。痴漢はすべて飽き性で決して同じ事にいつまでも食つついてるない。しかし「馬鹿の一念」と云つて、それでも何物にかは凝ることもあるのであるから、先天的の

飽き性もその凝ることのある何物にかよつて反省矯正の道がないものでもない。

氣質の差異による學習訓練

人の氣質はこれを神經質・多血質・膽汁質・粘液質の四つに分けるのが普通で、大抵の人の氣質はその何れかに屬するが、必やしも多血質の人が飽くまで多血質で、膽汁質な人はどこまでも膽汁質一點張りであるといふわけではなく、主に神經質で多少多血質を加味してゐるとか、膽汁質で幾分粘液質な氣質をも含んでゐるとかである。しかし玆では氣質の標本的な前記の四つのものについて、その學習訓練の仕方をそれ〳〵に述べる。從つて實際に於ては、個々の兒童の眞の氣質を觀察して、その兒童に最も適當なる學習訓練を行はしむべきである。

神經質な兒童は、現角物事に感じ易く、敏捷で活潑であるけれども、性急でやゝもすると優柔不斷の嫌ひがある。時には神經過敏で中には病的なことも往々してあり、よく物事に感動し、何かと懸念し心配する。從つて物の好き嫌ひが甚だしく、好きなものには見向きもせぬと云つた調子である。かうした氣質であるから、文學教科には興味も持ち、成績もよいが、數學教科には不得手である、しかもその差が非常に烈しいのが常である。從つて學習に於ては好きな學科は放つて置いても成績は決して惡くならぬから、嫌ひな教科に對しても關心を持つやうに仕向け、相當に成績を擧げるやうに導かねばならぬ。それ相當にしても所謂神經過敏な彼等のことであるから、訓戒指導に當つて餘りに嚴肅であつてはならぬ。即ち諄々と說き聞かせて、漸次に導くやうの方針に出づべきである。殊に病的なものに對しては、家庭と連絡を取つて徐々に冷靜ならしめるやう導くべきである。またかうした兒童は、藝術方面に秀でるものであるから、一方面を補ふと共にその長所をば何處までも助長するやう心掛くべきである。

神經氣質に似て非なるものは多血質である。この多血質の兒童は、常に快活で活潑で元氣であるが、性急で輕躁で所謂おつちよこちよいであつて、忽ちに熱中し忽ちに飽きる。從つて忍耐力がなく、物事に遽るといふことが少い。それに附和雷同性に富むといふ厄介な性質をも持つてゐる。一體にかうした兒童は技能教科に興味を持つてゐるから、これを導くにはその得意とし且つ興味を持つてゐる學科によつて自分の性情を反省せしめ、そして他の不得意とする學科に關心を持たしめるやうにすべきである。どうかと云へば、おだてに乘る方であるから、その長所を褒めて短所を反省せしめることは、案外容易である。しかし、その輕躁なこと、即ちおつちよこちよいなことゝ、附和雷同することとについては、十分に訓戒せねばならぬ。忍耐力に乏しいことを矯正するには、根氣を要する學科を課して徐々にその忍耐心を養つて行くべきである。またかうした兒童は、非常に得意になつたり、非常に失望したりするものであるから、得意になつて慢心せぬやう失望して悲觀せぬやう導かねばならぬが、それには褒めすぎと責め過ぎとを愼しまねばならぬ。

以上の氣質の反對にあるものに膽汁質と粘液質とがあるが、しかも兩者はまたおのづから差異あること神經質と多血質との如くである。膽汁質な兒童は、興奮したり感動したりすることは遲緩であるが、附和雷同せず盲動激昂せず、常に沈着冷靜で思慮に富み、意志も强固で忍耐力もあるが、どうかと云へば傲慢不遜であり、時には皮肉殘忍な態度に出ることがある。かゝる次第だから、由來英雄豪傑と稱せられた人は多くこの性質を有してゐる。一體にこの氣質の兒童は、數學教科を得意とするが、文學教科でも技能學科でも相當にやり、中には行くとして可ならざるなし底のものもある。從つて學習訓練の指導上多くの努力を要せぬが、一旦自分がさうと信じたことは、容易に改めないといふ剛情さを持つてゐるから、この點に留意して指導せねばいけない。しかし頭腦は一體によく意思の力も强い方であるから、その非を自ら反省せしめさへすれば、案外容易に缺點を改めさせることが出來る。例へばその皮肉殘忍さも人道や同情といふ方面から導けば

或る點までは反省せしめることが出來る。殊にこの性質の兒童は發揮せしめると共に、短所缺點を矯めて最の模範的兒童たらしめるやうせねばならぬ。更でだに傲慢不遜な兒童のことであるから、一段をリードするに及んでは、鬼角高慢になり他を顧使しようとする傾があるが、これもその思慮分別に訴へて反省せしめることは容易である。

一方粘液質の兒童は、刺戟を感受することが遲鈍で薄弱で、大抵のことに興奮することなく、從つて熱心もなく活氣にも乏しい。云はゞ子供らしくなく、陰氣なのがこの氣質の特徴で、以上の三氣質に比べると最も矯正し難い性質で、教師としては一番學習訓練上の指導に骨の折れる兒童は、多くこの氣質を有してゐる。殊にかうした子供らしくない性情であるから、教師に可愛がられず、友人にも好かれず、ます〳〵むつつり屋になる。何事にも興味を感ぜず、冷々淡々として一人ぼつちになり、そして益々性情が鬱められずにゐる。この點は教師として十分に考慮し、この氣質の兒童に特に關心を持つやうにせねばならぬ。彼等は文學教科や技能教科には殆んど興味を持たず、數學教科に得意である。そこで、その科學的な實着な態度を助長して、他の學科にも興味を覺えしめるやうに導き、唱歌、體操の如き學科から陰鬱な性情を矯めて快活ならしめるやうに仕掛けたい。彼等を快活に活潑にすることが最も急務で、それさへ幾分矯められると、友人も出來、その交友の間に性情は益々善導されて、學習の態度も一變して來る。

以上の四種の氣質はいづれにしても、先天的なもので全然これを變改するといふことは不可能であると共に、その何れにも長所長點があるものであるから、これを徒らに矯めることは慎しまねばならぬ。卽ち角を矯さうとして牛を殺してはならぬ。一般の兒童は大體に色別けすると、殆んど四分してその一氣質を有してゐると云つてもよい位に、稍同數のそれ

への氣質の兒童がある。そこで、各々違つた氣質の兒童を一人乃至二人で一つのグループを組織させ、學習に當らせるといふことは、學習上また性情矯正上特に効果がある。卽ち各々相異なる氣質と從つて學科上の得意とがあるので、その學習作業に於て互に一長があり一短があり、しかも協同協學の淘汰によつて長は助長され短は補はれて行くからである。これが理想的に行はれるならば、敎師の個別的指導と相俟つて、氣質の差異による學習訓練の仕方は容易に且つ最も効果的に解決されるであらう。

知覺典型の差異による學習訓練

感覺の單獨活動といふことは、極めて稀な現象であつて、吾々は視、聽き、動くことによつて、完全に外界との交渉をなすものであるが、兒童の中には殊に劣等兒は、この視覺・聽覺・筋覺の調和的活動が完全に行はれず、彼等の感覺作用には何等かの缺陷がある。從つて彼等の學習訓練の實際に當つては、その感覺の缺陷を十分に實驗調査して、その完全なる發達を期し、特殊の注意を施して三者の調和的活動をなさしめねばならぬ。また反對に感覺の特質に應ずるためには、兒童各自の感覺活動の狀態を常に考察し、一方敎材の性質を考慮して、十分にその間に遺漏なき敎育上の注意を施して行くべきである。

各種の感覺器官はいづれも知識收得の門戸であるが、就中視覺は知識收得に最も有力である。例へば優秀な兒童は聽覺からの知識收得は不明瞭で、その活動は敏速でなく、何うしても視覺の活動に訴へるが、それが劣等兒になると反對で、視覺活動は不活潑であるのに聽覺活動は盛んである。これに依つて見ると、優等兒と劣等兒とは、その知識收得の密度の差は勿論であるが、その感覺活動の如何といふことも大いに與つてゐるといふことが判る。卽ち劣等兒の視覺活動の遲鈍

であることは明瞭な事實であるから、その視覺器官の完全か不完全かを調査すると共に、視覺練習を頻繁ならしめて、その發達を期すべきである。

視覺活動の鈍い兒童卽ち劣等兒は、その活動が鈍いに拘らず視覺に訴へる學習の方法、例へば圖解によるとか掛圖を用ひるとか自由畫を描くとか、さうしたものを好むものであるが、その好む割合に彼等の觀察力、把持力乃至記憶力、注意力、想像力は實に貧弱である。それで少し複雜な迷路歩みのやうなテストを與へると、彼等は初めは興味に乘つて努力するが模が注意力が散漫で持續力が薄弱であるから、うまくそれをやり終せず、しかも直ちに倦怠を覺える。つまり彼等の視覺活動は皮相的な興味に流れて知的作用にまで關聯する視覺活動をなすことが出來ないのである。また理科の實驗の如きでも、彼等は單に化學的變化が外觀的に彼等の興味を惹くに止まるのみで、視覺が直ちに知的活動に移入することは不可能である。故に視覺活動によつて惹起される彼等の注意力を何等かの方法を以て持續させ、以て注意力を集中せしめて知的活動にまで高めて行くべく考慮せねばならぬ。

視覺活動が鈍く聽覺活動の鋭い兒童には、聽覺作用が最も効果的であるが、彼等は實際に於てはこれを好まぬやうである。從つて學習に於て彼等の聽覺のみに訴へてその知識的收得をなさしめようとしてもだめである。例へば修身科に於て彼等は敎師の說話を單に聽くだけでは不完全で、敎材の核心に觸れることは出來ない。そこで彼等の意志にまで訴へるには　どうしても聽覺からはいつて視覺を活動せしめ、次に筋覺を働かして彼等の想像活動を起さしめる必要がある。また例へば國語科の新出文字の敎授に於ても、まづ文字の形態を知らしめ、寫字せしめ、學習せしめることによつて初めて知識としてそれを收得せしめることが出來るのである。つまりかかる兒童は鋭い聽覺活動を有しながら聽くことによつて直ちに知的活動を惹起するだけの順應力、想像力を持たぬのであるから、その聽覺活動を利用してまづ聽覺に訴へ、然る後

視覺乃至筋覺を活動させ、それによつて彼等の想像活動を起させて、遂に知識收得をなさしめねばならぬ。

劣等兒の中には多く筋覺作用の鈍重なものを發見するけれども、特殊的に技能方面に優秀なるものも決して尠くなく、知的敎科に低劣で技能敎科に秀でてゐる兒童は、劣等兒と稱せられる者の中に多く見出すところである。從つて敎師はそれ等の兒童の特質を十分に考察して、その特質に順應する學習をなさしめねばならぬ。殊に低能兒や劣等兒は、卒業と共に家庭乃至實業界の人となるのであるから、筋覺方面の發達に留意し、彼等に勞働の習慣と勞働に對する正しい見解とを與へてやらねばならぬ。

知能典型の差異によつては前述の如くその主とするものがおのづから生じて來るが、これらの感覺は素より協同的に調和的に活動せしめねばならぬことは論を俟たない。

知能程度の差異による學習訓練

兒童を知能より大別すれば、優等兒と劣等兒とになる。優等生はその學術方面に於てはその特徴を助長しつつ、すべての學科に於て圓滿なる發達を期せしめればよいが、その體育については大いに訓練の要を見る。卽ち優等兒と稱せられる兒童の多くはその體格が貧弱である。幾ら學校生活中では優等であつても、そんな貧弱な體格では實社會に出ては活躍が出來ず、從つて優秀な地位に立つことが出來ない。斯くの如きでは、國家的にも個人的にもこの上もない不幸であり損失である。そこで彼等には體格的にも優秀兒たらしめ、この不幸と損失とを防止せねばならぬ。彼等優等兒は一般に神經過敏で、高學年に進むにつれてそれが諸病の根源となり、延いては憂鬱症となり、その結果往々にして自殺の如き怖るべき事を惹き起し易いものであるから、彼等には適當な運動を每日規則的に課して、その心身を適度に疲勞させ、神經の安靜

を圖ることが肝要である。一方家庭との連絡を取り、家庭に於ける復習豫習時間と休息時間とを一定せしむべきである。

優等兒はとかく負けじ根性を持ち、そしてどうかと云へば孤獨好きであるから、この缺點を矯正すべく、休憩時間には友人と遊び戲れしめ、以て明るい眞やかな生活を樂しむやうに仕掛けねばならぬ。同時に劣等生を輕蔑したり、高慢な態度をとつたりすることや、子供らしくない變に分別臭い考へを持つたりすることをも矯め直さねばならぬ。また優等兒は豫習などに熱心な餘りとかく夜更して勉强に耽る傾があるが、發育期の兒童に取つてこの夜更しほど神經を病的に纖弱ならしめるものはない。彼等の顏色が蒼白で激情的なのは皆それに基因する。それで彼等には睡眠を十分にとらせ、元氣を恢復して活快に活潑ならしめねばならない。それに彼等は概して早熟であるが、この缺點を矯正するには、敎師は努めて無邪氣な明るい傾向へと導くことを忘れてはならぬ。例へば課外時間の競技などにも成るべく參加せしめ、その柔弱な神經や陰鬱な性情を矯めて、剛壯活潑ならしむべきである。

優等兒乃至普通兒の學習に於ては自學自習をその中心とすべきであるが、劣等兒に於ては徹頭徹尾敎師の指導計畫の方法によつて終始せねばならぬ。從つて敎師は一層彼等の心理を考察して萬全の指導を施さねばならぬ。卽ち劣等兒は放縱で無秩序で、殆んど學習に對する自發心といふものがないからである。彼等の學習指導に於ては彼等の興味に訴へるより外はなく、この興味といふ點が云はば彼等の學習の凡てである。普通兒に於ても興味喚起といふことは學習上重大な問題であるが、劣等兒に於ては殆んど決定的に全的に學習を左右すると云つてよい。卽ち敎材を如何に興味的に取扱ふかといふ點で、彼等の學習效果は決定されるのである。兒童が敎材に興味を覺えるといふことは、彼等がその敎材に注意を働かせるといふことであるが、劣等兒の興味なるものは決して永續するものではなく、しかも注意力は弱く且つ不平均で、おまけに思考的な興味は全然起らず、單に感覺的な點に止まつてゐるのみである。それにその興味と共に行動が粗暴にな

り、爲めに教室の靜肅が亂されさへする。そこで教師は劣等兒を興味中心で指導する上に、この彼等の複雜な心理を十分に考慮して行かねばならぬ。西久保氏によれば、彼等の注意については、(一)練習及び成長が少いために注意の範圍が狹く、(二)一定時間に於ける注意の焦點は一事物の思想又は一概念的系統に限られてゐる。一事物又は一條に注意し得るにすぎない。(三)一時に幾つもの注意を急速に轉換することは不可能だから同時に澁山の仕事は課せられない。(四)注意は散漫で持續が弱い。(五)注意の選擇及び抑制作用不發達のため、不要の身體的隨伴運動を多く行ふ。(六)刺戟に對しては感覺的に注意する。また彼等の興味については、(一)抽象的思考の興味は全然不可能で、(二)製作・圖畫・動物飼育・穴掘り・芝居の眞似など粗暴な實際的興味は旺盛であるが、計畫的なものは少い。(三)無秩序にして放縱なる行爲に興味を持つ（多く男兒）。(四)長じて性的差異は年齡の進むほど大となることは普通兒に同じである。

斯くの如くであるから、劣等兒教育の實際訓練に當つては、努めて兒童の直觀的作用に訴へて視覺・聽覺作用を銳敏に活動せしめねばならぬ。そして學習をば遊戲的に誘導せしめることが肝要である。普通の兒童にとつても、遊戲は彼等の生活の大半で、換言すれば遊戲することが彼等の生活であり仕事である。まして劣等兒には、常にこの子供らしい生活の環境を與へて、遊戲のよい學習的な指導を必要とする。彼等を遊戲せしめるにはそこに興味的な對象を採り入れねばならぬが、その興味ある對象としては多くの場合玩具が選擇される。しかもよき玩具は彼等の知能を啓發し、想像世界を深めまた廣め、愛情の念を涵養し情操陶冶に資することも決して尠くない。同時にその選擇には愼重の考慮を要する。それにはまづ彼等の直觀に訴へる玩具を選ぶべきである。例へば電車の玩具、それも模仕掛でレールの上を走る仕組になつてをり、轉機機があり信號燈があるやうな科學的で精細で實際に近いもの程効果がある。彼等はその電車を自由に運轉せしめ、喜び弄ぶうちに自然と半遊戲的興味の裡に、種々の科學的知識を獲得するであらう。彼等劣等兒は類推作用が不活潑で、自分

の經驗以外の事柄を理解し想像することが困難であるから、想像力を養成するに資する玩具を提供することも忘れてはならぬ、殊に低能兒になると殘忍性を帶びてゐるから、愛情を涵養するに資する玩具を與へて、自然に遊戲中に彼等の情操を美化するやう圖らねばならぬ。また推究的思考に資する玩具も必要である。しかもこの種の玩具は彼等の學習には最も効果的である。彼等は素より劣等兒ではあるが、その記憶力は努力によつて普通兒位にはなれるが、推究力はどうしても落ちる。それで推究的思考を要する玩具によつて、彼等に自然と疑問を抱かせ、興味の中に推究を働かせるならば、漸次に彼等の推究力を養成し得るであらう。

前述の次第で劣等兒は操行學業の點で劣つてゐるが、その體育方面でも思はしくないことが多い。即ち學業を好まぬ彼等は過度の遊情によつて自然な野性のまゝに放任されて、身體は至つて頑健であるが、またそれだけ優等兒に比べると擯生の點が劣つてゐる。例へば優等兒が筆記帳や參考書を買つて勉學に資するのに、彼等劣等兒はその金で間食をやつたりつまらぬ玩具を買つたりして、夜更けまで惡童と遊び耽けるので、遂に朝寢坊になり遲刻の常習兒となり、一方頭痛を起したり風邪を引いたりする。斯くの如く劣等兒の生活は徹底的に不規則であり無節制であるから、折角の健康體も破壞されてしまふ。また危險な遊びをやつて大怪我をなす。この劣等兒の缺點を矯正するには、どうしても規則的な生活を强要せねばならぬ。即ち操習復習も正しくやらせ、就寢起床の時間もキチンとさせ、遲刻や缺席もさせぬやうにせねばならぬ。

階級程度の差異による學習訓練

貴族の子女と平民の子女、乃至上流社會の子女と下流社會の子女とは、學術方面では別に大差を認めぬが、性情に於てはまた操行に於ては非常の差異がある。即ち貴族乃至上流の子女はどうしてもノーブルで、廉揚であるが、傲慢で氣位が

高いといふ點は免れない。そして兎角依頼心があり、獨立心に乏しい恨みもある。これに反し、平民乃至下流社會の子女はどうしてもこせ〳〵して下卑てゐるが、高くとまつたり生意氣であつたりする點は比較的少い。そして獨立心があり餘り人に依頼せぬ。また前者は大人しく、時には不活潑であるが、一般に正直で柔順であるに反し、後者は活潑で元氣で時には亂暴でさへあり、そして中には不正直で不柔順な子もゐる。貴族乃至上流の子女からは最も優秀な兒童が出る。ものは殆んどないが、平民乃至下流の子女からは最も優秀な兒童が出る。

素よりこれらの點を考慮して彼等の學習訓練に當らねばならぬが、甲は貴族乃至上流の子女であり、乙は平民乃至下流の子女であるといふその階級の差異を念頭に置いてはならぬ。卽ち兒童の階級より來る性情の差異はこれを十分に認めてそれに最も適應した指導を行はねばならぬが、その背景としての階級を以て兒童を遇するに差別あつてはならぬ。もし不心得な教師があつて、貴族の子女を褒めるに當つて、彼等に必要以上の阿諛的態度で臨むならば、或は平民の子女を貴めるに彼等に必要以上の威壓的態度を持するならば、一級の兒童の不平は立ちどころに勃發して、教室の神聖は忽ちに破壞されてしまふであらう。貴族平民の子女を一級に網羅してゐる級の教師は、この點を特に注意して、苟くも兒童に階級差別待遇による怨嗟の聲を絶無にせねばならぬ。同時に兒童同志に階級的意識を持たしめぬやうに配慮せねばならぬ。

貴族乃至上流子女には、その長所たるノーブルで鷹揚な點乃至正直で柔順な點を益々發揮せしめると共に、その短所たる傲慢で徒らに氣位の高い點、不活潑な點乃至獨立心の乏しい點を矯正せねばならぬ。卽ちノーブルで鷹揚な點を利用しては、級或はグループのリーダーたらしむべく、正直で柔順な點を利用しては、學術の餘りよくない兒童には豫習復習を規則的に課してこれを實行せしめ、以て成績の向上を圖るべく、また傲慢な點を利用しては不得手な學科に一段の努力勉勵すべく鞭韃すべく、不活潑な點は活潑な兒童と交らしめ、以て一方に不活潑を徐々に矯めて行き、一方に活潑な兒童

は多く平民の子女であるので、階級意識を失はしむるに盡すべく、そして依頼心が多く獨立心の乏しい點は是非とも獨立心を要する豫習作業を課して矯正して行くべきである。上流の殘に餘金ある流の家庭にあつては必要もないのに、父兄の虛榮などのために、或はその子女を溺愛するの結果として家庭教師を雇つて子女の學習を手傳はしたり、また兒童自らやれるし、またやるべき事を召使にやらしたりする傾があるが、これなどは徒らに兒童に依頼心を起させ、延いてその獨立心をそぐものであるから、必要のない限り家庭教師を廢せしめ、また人手を要せぬ事や自らせねばならぬ事は必ず自らなさしめるやうに指導せねばならぬ。これは當然に家庭と連絡して行ふべきことである。上流の子女の高慢で虛榮心があり、不活潑なのも、一つは以上の事に基因するものであるから、十分にこの點に調査して、不具でもないのに自動車で送り迎へさせたり、召使をお伴させて登校したり、華美な服裝をさせたり、豐澤な鞄嚢を持參させたりせぬやうに注意せねばならぬ。

次に平民乃至下流社會の兒童であるが、下流社會の子女には特に性質のよくないものが多い。しかも彼等の家庭は子女を願慮しておれぬ境遇にあるものであるから、從つて家庭と連絡して兒童の缺點弱點などの矯正に當るわけに行かぬから、教師としてはその矯正指導に於ては一層の努力を要するのである。平民乃至下流社會の子女の長所を助長し、短所を補つて行くのは、素より貴族乃至上流社會の子女のそれと同じ筆法で可なりである。卽ちそのこせ〳〵して卑屈であり下卑てゐる點や亂暴な點は、彼等を上流の子女との交友によつて徐々に矯めしむべく、不正直で不柔順點はその結果として及ぼす學業の成績に反省せしめて矯めることも出來、又適當復習を教師のいふ通り實行せしめたり、或は課題を必ず條件通りに履行せしめたりすることによつても矯めることが出來よう。一方その獨立心のある點や元氣で活潑な點はそれを要する學科の學習上に發揮せしめると共に、級の空氣を明るく愉快ならしめることにも盡すべきである。

前にも述べたやうに、彼等兩階級の兒童を差別待遇すべきでないことは、素より論を俟たぬ次第であるが、學習上グループを組織せしめる場合には、兩者を適宜に配當してその協同作業によつて、兩者の性質上の差異と學問上の差異とに於て互に長を執り短を補ふやうにせしむべきである。その協同學習はその上に兩者の階級意識を破打するに最も効果あると思ふ。尙貴族乃至上流の子女は知的教科に興味を持ち、平民乃至下流の子女は技能教科に興味を有する傾があるやうだが（勿論異例は多いが）、これはその將來の方向を考へると、尙に然るべくありたいことであつて、教師はその傾向を然るべく助長せしむべきである。

環境の差異による學習訓練

兒童は前節で述べたやうに家庭なり環境によつてその特質があるやうに、地方なる環境の異なるによつて、その性情を異にする。從つてこれが學習訓練の指導も亦異なつて來ねばならぬ。近時學校の地方化が叫ばれてゐるのは、卽ちそれがためである。以下都會と田舍、市內と郊外、海岬と山間、商業地と農業地と工業地との各項についてそれ〳〵に聊か述べて見よう。

都會の兒童は所謂利口で、知的乃至感情的には發達してゐるが、意志が薄弱で忍耐力が足らず、身體も强健ではない。これに反し、田舍の兒童は所謂鈍で、感情は鈍く知的には發溂さがないが、意志が强固で辛抱强く、身體も頑健である。從つて都會の兒童に對しては一方體育に十分の配慮を要すると共に、一方意志を練り忍耐力を增すべく、殊に教練に於て訓練を行ふの要がある。そして所謂利口でなく實質的に怜悧ならしめるやう、學習上に於て導くべきである。世の中が輕佻になり浮薄になるに連れて、益々吾々は剛健質實の精神を必要とするから、都會兒童の小利口さには最も戒心する所が

なければならぬ。この都會兒童の長點も弱點も大都會になればなる程益々甚だしくなるのであるから、大都會の兒童に對しては一層の配慮を要する。それとは反對に田舍兒童の長所短所は僻陬の地になればなる程益々甚だしくなるから、邊鄙な地の兒童に對しては、夫に述べることについては一層の關心を持たねばならぬ。卽ち田舍兒童に對しては、その鈍重さを助長して飽くまで質實に剛健に學習訓練せしめると共に、知能を啓發し情操の陶冶を期さねばならぬ。由來一世に名をなす人の多くは、田舍出であるのを見ても、人物の素質は田舍兒童に於て大いに優つてゐるが、知的活動の鈍いといふこと美的情操に陶冶を缺くといふこととはその一大缺點とする所であるから、それらを必要とする學科の學習に努力せしむべきである。また都會の兒童の社交的なるに反し、田舍兒童は非社交的で從つて孤獨的であるから、その矯正を圖るべくグループ學習を特に奬めたい。尙注意すべきは、都會兒童の利口を直ちに聰明と解すべからざると同樣に、田舍兒童の鈍重を直ちに愚鈍と解してはならぬ事である。云はば都會兒童の利口は磨かれぬ金剛石の寶玉であるから、前者はそれ以上に磨くことは出來ぬが、後者は磨けば磨く程光を發せしめることが出來る。要は都會兒童はこれを小利口に終始せしめず、田舍兒童はこれを鈍重のまゝに捨て置かざるにある。

市內の兒童はこれを郊外の兒童に比べると、益々都會兒童の特質を發揮し、郊外の兒童を市內の兒童に比較するとどうしても田舍兒童の特質を多分に持つてゐる。從つてその學習訓練は都會兒童並に田舍兒童のそれを參酌して適宜に行ふべきである。尤も同じ市內と云つても東京市の如き大都會にあつては下町の兒童と山手の兒童との間には大いにその特質を異にし、下町に於ては更に都會兒童の特質を發揮し、山手に於ては幾分田舍兒童の特質を加味してゐるし、同じ郊外でも新開地と然らざる地とでは少からざる相違を見出す。從つてそれ〳〵に學習訓練の指導法を考へて行かねばならぬ。

次に海岸の兒童と山間の兒童であるが、前者は粗暴・慓悍で感情が激烈で行動が敏捷であるに反し、後者は沈着で質朴

で感情や行動が鈍い。一言にして云へば、前者は飽くまで動的で主情的であるに反し、後者は何處までも靜的で主意的である。それは主として惹起する動的な環境に育つと、山も樹も皆眠るが如き靜的な環境に育つとの相違に因るもので、この性情はこれを根本的に改めしめることは素より不可能であり、またその必要もないが、海岬の兒童の粗暴はこれを導いて開放の氣象に移らせ、山間の兒童の鈍感鈍行はこれを矯めて、感情に於て又行動に於てもつと銳敏に又敏活にならしめねばならぬ。それには前者の學習に於ては理知的なそしてより靜的な學科に重きを置き、後者のそれに於ては主情的なそして動的な學科に重きを置くべきである。

最後に商業地と農業地と工業地との兒童であるが、商業地の兒童は主知的なことに於て優り、農業地の兒童は主意的なことに於てすぐれ、工業地の兒童は主知的にして主情的なことに於て特質がある。從つて商業地の兒童は怜悧であるが輕薄であり、農業地の兒童は鈍感であるが沈着であり、工業地の兒童は精悍であるが輕燥である。この各々の特質を考察してその學習訓練に當らねばならぬが、まづ商業地の兒童にはその短所とする主意的な學科に比較的多くを努力せしめ、農業地の兒童には主情的乃至主知的な學科にたてその弱點を補ふべく勵ましめ、工業地の兒童にはその缺點とする主意的な學科に特に關心を持たしむべきである。かくして各々の長所を發展せしめて行くと共に、短所を徐々に反省矯正せしめ、學業成績の圓滿なる向上を期すると共に、性情の極端さを矯めて行かねばならぬ。尙近頃にあつては、商業道徳の必要が痛感され、農村の疲弊・荒廢が絶叫されつゝあるのであるから、商業地の兒童には道徳教材を多く課するの要があり、農業地の兒童には農業趣味を涵養すべく配慮するの要がある。また勞資問題が殊に工業地に喧しいのであるから、その地の兒童には正しい勞資の見解を持たすべく特別の考慮がなければならぬ。

以上述べた所は、地方的環境を主とした兒童の一般的特質を對象としての話であるが、實際の指導に於ては、その地方

色々背景として各兒各個の特質を更に配慮すべきことはいふまでもない。

職業の差異による學習訓練

前節では兒童を地方的に見たが、これを職業的に更に見て行くと、そこには又違つた特質が發見される。從つてその特質に適應した學習訓練もおのづから別に考へねばならぬ。しかし、二千種に近い職業別にこれを見て行くわけには行かぬから、それを七種に大別してその特質と學習訓練法とを述べて見よう。

(一)專門的職業　即ち官吏・教育家・學者・宗教家・文士・記者・醫師等の子供は、知能が秀で思慮も深く、筋肉的作業よりも抽象的作業を好む風がある。從つて體格も一般に華奢で、元氣活潑といふ兒は少いが、操行も上の部に屬する。父兄は知識階級であるから、子弟の教育といふことを考へてゐる。從つて家庭との連絡に當つては都合がよい。彼等兒童はどうかやうにし、一方長點を發展せしめつゝ、弱點を補つて行かしむべきである。その體育上からも考へて、技能教科にも關心せしめるもなくはないから、早にその表面だけの觀察に止めず、內部的調査をする要がある。

(二)實務的職業　即ち技師・會社員・銀行員等の子供は、大體に於て專門的職業者の子供と似てゐるが、家庭教育は比較的劣つてゐる。從つて優秀兒が少く、不良兒が案外多い。この點は十分考慮して學習訓練の指導に當らねばならぬ。尙專門的職業者の子供よりも幾分社交的性質を帶び、頓智もあり機智もあり。多少小利口といふ點を缺點とするから、この小利口を善導して、眞の聰明にまで到達せしめねばならぬ。それには知的教科の學習に於て實質的に知力をつけて行かしめねばならぬ。また技能教科に努力せしめることは前者と同じく必要である。

(三)商業　即ち卸賣商・小賣商・商店主・店員等の子供は、比較的快活で、主知的よりも主情的で、幾分主意的でもある。そして機智に富み、社交性が發達してゐる。その得意とする學科は矢張り知的教科で、中でも數學教科に關心を持ち、技能教科を餘り得意としない。從つて彼等には技能教科に興味を有せしめ、小利口に墮し輕薄に流れることを警戒せねばならぬ。殊にこの種の子供には不良性が多く、しかもその多くの家庭は子女の教育に多くの關心を持たぬのであるから、一層の配慮を要する。

(四)特別營業　即ち旅館・料理屋等の子供は、殆んど前者に似てゐるが、生意氣で不良分子の多いことはそれ以上である。即ち家庭では兎角あまやかして育てるので、我儘氣儘で、萬事放縱で投遣である。從つて學習に於ても訓練に於ても、すべて規則的に導いて、まづ不良分子の消滅から圖り、然る後積極的に學術と操行との向上を促すべきである。

(五)技術的職業　即ち技手・大工・職工等の子供は、熱心であるが無口で、社交的なことを嫌ひ孤獨を愛する傾向があり、そして幾分放縱でもある。學科では知的教科よりも技能教科を一般に好むといふ風がある。從つて彼等を導くには文學教科にも興味を有たしめて、美的情操を增進すると共に、もつと快活ならしむべく又規則的ならしむべく訓練するを要する。

一般的にはさう不良性は少いが、中には手におへぬ無宿もなきにあらずであるから、その外見の寡默屋たるによつて眼光を鈍らされることなく、內面的個性の觀察が必要である。しかも家庭が家庭であるから、家庭には多くを望まれぬことをも忘れてはならぬ。

(六)半技術的職業　即ち運轉手・理髮職・指物職・仕立職・製本職・洗濯屋等の子供は、稍前者に似た特質を有してゐるが、前者よりは一層技能教科を好み、知的教科に關心を持たぬといふ傾向がある。また一體に身體が壯健であるが、粗暴で腕力が强く、所謂餓鬼大將となるものが多い。しかし、中には操行もよく學術も優秀なものもあつて、大いに將來を嘱望される兒童もなきにしもあらずである。即ち學業に熱心で、觀察力も注意力もあり工夫力にも長じてゐる子供もある。この點は技術的職業者の子供にも見られる點で、指導上大いに考慮する所あつて然るべきだと思ふ。

(七)筋肉勞働者　即ち農夫・工夫・人夫・船夫・漁夫・鰊夫等の子供は、一體に粗野で肉體的には頑健であるが、知的方面では他に比して稍劣ると云つた風がある。しかしその性情に於ては非常に異なり、農夫の子は飽くまで鈍厚で靜的であるのに、漁夫・船夫の子は輕燥で動的であるのに、鰊夫の子供は頑固で靜的であるのである。從つて學習上の指導では共に知的教科に精進せしめるやうに仕向けるべきであるが、主意的で靜的のものには主知・主情的にまた動的に訓練するの要がある。農夫・船夫・漁夫の子供には主知・主意的にまた靜的に訓練するの要がある。農夫の子供には不良分子が多分にある。それはその父兄の職業上一定の土地に土着してゐずに轉々として生活してゐることによるもので、故鄕を有せぬものはどうしても不良性が多い。これは第一の專門的職業者中、住居を轉ずることの多い官吏や教員の子女にさへ案外不良性を帶びてゐるものゝあるのと一般である。

體格の差異による學習訓練

兒童の體格の差異によつては特にその學習訓練を異にせねばならぬ。健康兒と虛弱兒とまた異常兒——畸形兒——とはこれを同じレベルに置いて見ること能はざるは、大人と子供とを同日に論ずるよりも當を失してゐる。そこで、虛弱兒及び異常兒乃至畸形兒に對する學習訓練に關して少しく述べて見たいと思ふ。

「人生健康より大なる幸福なし」といふ諺があるやうに、健康こそは吾々に取つて何にもかへ難い寶である。實際健康で

さへあれば、多少の失敗の如きは長い日月の間にはどうにでも恢復することが出來、物質的に惠まれる所が少くても、目に觸れるもの耳に聞くものがすべて幸福に感ぜられ、從つて元氣は常に旺盛で、大いに活動して新天地を開拓することも出來る。然るにその反對にもし不健康であるならば、幾ら物質的には惠まれてゐても、常に陰鬱な氣持ちに支配され、前途の希望といふものも考へられず、その結果生き甲斐がないなどゝいふ厭世觀を起したり、さうでなくとも運動や活動の不活潑を來たして折角成功しかけてゐる事も中途にして挫折するか中止するかの止むなきに至つたりするといふことが、極めて有り勝なことである。從つて不健康は人世の最も不幸と云へば云へるであらう。これを兒童について見るに、不健康のものは勢ひ病氣勝ちであり、身體も亦虛弱で、他の兒童と共に運動なり遊戯なりして嬉々として樂しむといふことが出來ず、時には數週間も數ヶ月も學業を廢せねばならぬといふ狀態をも惹起する。しかもそのために成績が不良となる上に、身體の虛弱の故に學友と並進出來ぬといふ精神的苦痛をも味はねばならぬ。かうした境遇にある彼等病弱兒に對しては特別の配慮を要するは當然すぎる程當然な問題である。まづその病弱兒の成績に對する處置について考察して見るに、同じ病氣であつても、それには急性と慢性とがあり、またその病症によつて比較的短時間で快癒するものもあれば、意外に永引くものもあるから、その處置に於ても從つて異なるものが生じて來る。即ち彼等に對してはその不成績を戒めるといふよりも慰め勵ますといふ方針に出づべきである。何故かなれば、彼等は先天的に又は偶發的に自ら求めることなくして病弱といふ災厄を身に負つてゐるのであつて、これに基因する不成績に對しての責任については、多少のハンディキャップを附すべきが當然だからである。それ故、かゝる場合に於て、他の一般的原因、例へば怠惰に原因する不成績とか、乃至は注意散漫に原因する不成績とかの場合と同一視して、それと同一方法を以て戒めるといふことは、どうしても妥當な策とは云へぬから、その不成績に對しては虛弱兒を慰め勵ますといふ方策に出づべきで、そしてその今後の成績の向上

を圖らしむべきである。また急性の病氣であつても、時期の問題であつて、もしそれが不幸にして試驗最中にでも起つて當然受くべき試驗を受けられぬことによつて起つた一時的の不成績である場合には、大いに慰めて後日の奮發を促すの必要がある。次に急性のものでも比較的長びき學校を長く缺席した結果、不成績になつたやうな場合には、家庭と連絡して努めてその遲れを取かへさせると共に、兒童にもよくそのことを理解させて學業の恢復に努力せしめねばならぬ。最後に慢性の病氣が原因で不成績な時には、教師としては取る方法もないのであるから、一に醫療の力に俟つより外ないが、常にそれら病弱兒の健康狀態に留意し、その健康の增進につとめねばならぬ。

以上は病弱兒の成績を主として述べたが、平常にあつても彼等には勿論特別の配慮を要する。彼等は虛弱兒の特質としてとかく意志が薄弱で物に飽き易く、不規律不節制であるが、これを健康兒のそれとは素より同一視すべきでない。もし彼等を一級に集めて教育する養護級の如きがありとせば、授業の一時限を短くし、且つその前後に自由作業・童話・唱歌等を課したり、又時間の中途で二分間體操などをさせて氣分の轉換を圖り、常に彼等に生氣あらしむべきである。そして時々は作法室で靜座法を行ひ、一は精神の集中を、一は健康の增進を圖るべきである。しかし他の健康兒と同一學級に交つてゐるにしても、彼等には右を考慮して適宜に配慮する所あるべきである。

一時的疾患兒童に對しては、保護者の了解を得て衛生技師・囑託醫・囑託齒科醫の手によつて、トラホーム・化膿性中耳炎等の病疾を治癒し、又齲齒の治療をなす外、專門醫についてアテノイド・扁桃腺の除去手術をなさしめるやうの配慮もあるべきである。また——異常兒——畸形兒はこれら一時的疾患兒や病弱兒と違ひ、その局部が畸形であるといふだけで、多くは他の健康兒と異なる所のない健康體の持主であるが、その畸形な局部のために學習の不可能な學科もあり、或は出來ても勢ひ不成績にならざるを得ぬ學科もあるから、その學科の成績と學習とには當然に特別の取扱ひをせねばならぬ。

それに一層の留意を要することは、彼等異常兒はその畸形のためにとかく他の兒童の嘲笑を買ふことから、ひどいひがみ根性を有してゐることで、そのためには、彼等のひがみ根性の矯正を圖ると共に、他の兒童の嘲笑蔑視を嚴重にいましめねばならぬ。それに異常兒はその畸形のために常に歳調であることも少くないから、これは病弱兒と同じ取扱ひをせねばならぬ。

習慣の差別による學習訓練

習慣は第二の天性といふ程、吾々の性情を左右する力のあるものだから、兒童の習慣によつて學習訓練法をもそれ〳〵に考慮せねばならぬ。

兒童は一體に早寢早起なもので、これは保健上からしても良習慣で、是非ともこれを實行せしめねばならぬ。しかし、中には晩寢晩起といふ惡い習慣を持つてゐる兒童も尠くない。そしてこの習慣には家の職業などのために勢ひさうなつたものと、兒童自身の不規律や過度の勉強などのためにさうなつたものとがある。もし前者の場合であつたなら、よく家庭と相談して特別に兒童を早寢させるやうにせねばならぬし、もし後者であつたならば、十分に兒童に訓戒すると共に、早朝に必ずなすべき或る適當の課業を與ふべきである。但し長い間の習慣であるから、一朝一夕でこれを矯正しようとせず、暫らく倦まずに、敎師も兒童も努力すべきは勿論である。とにかく、彼等に早寢と早起の習慣をつけることを得ても、夏休などの長い休暇中には、また元の木阿彌になつてしまふ恐れがあるから、彼等には特にその休暇中に早起するやう何等かの課業を與へるか、その機會を作つてやらねばならぬ。一旦その良習に習慣づけられさへすれば、もう第二の天性となつて却つて晩寢晩起が出來ぬやうになる。

また一人子と兄弟澤山な子との習慣による性情に又は非常の差異がある。卽ち一人子はどうしてもあまやかして育てられるから、我儘で氣儘で傲慢で同情心に乏しいが、兄弟澤山な子は親の情を獨占せぬから、柔順で、自分の事は自分でし、割合に妥協心があり、同情の念も厚く、その反面に僻み根性をも持つてゐる。

六學級訓練の要領

學業成績通評の吟味の仕方

兒童の成績を見ると、その通評欄に記入された平均點には、甲乙丙等色々の差別があるが、尙、詳しくこれを吟味して見ると、同じ甲にも、全甲の結果、その平均が甲になつてゐるものもあり、又、中には一科目乙或は丙なるにも拘らず、他の科が全部甲である故に、平均點が甲となつてゐる場合もある。

又、等しく平均點が乙でも、甲や丙が混合して居つて、結局平均點乙の場合もあるのであつて、これは平均點丙の場合にあつても同じやうなことが事實に於て表はれてゐるのである。これは要するに、八十點以上を甲とし、六十點以上、八十點以下を乙とし、六十點以下を丙及びその他の劣等記號を以て表はす場合に於て、當然あり得べきことといはねばならぬ。

斯くの如く同じ平均點が甲の場合であつても、果た平均點が乙の場合であつても、幾多の種と相を包含してゐるのであるから、等しく平均點甲の場合、將たその他の場合にあつても、之を吟味して行く場合に於ては、その間自らその場合々々に順應する對策——吟味が遂げられねばならぬのはいふまでもないことであらうと思ふ。以下その三四の場合を假想して、それに對する吟味——對策を考へて見たい。

先づ第一に全甲の場合の平均點甲の場合であるが、これはいふまでもなく特に優秀の學業成績の持主であり、又かうし

た兒童は、ホンの一部のものに過ぎないのが通例である。そこで、かうした時には如何にこれを吟味して行くべきかといふに、かうした兒童は得て慢心を起したがるものであり、且つ、どの學科でも自分が自由に解きこなせるといふ自尊心から、兎角、なげやりになりたがるものであり、中にはその結果として漸次成績の低下して行くものがなくもない。

のみならずこの種の兒童にあつては、一度全科中の一科目に不良の成績をとる時は、非常に悲觀するやうな神經質の兒童もないではないのであるから、かうした點に對してはよく注意を拂つて行かねばならぬ。兎に角、全甲のものは秀才として上級學級に進級し、又は上級學校に入學し得る可能性が多分にあるのであるから、出來得る限り彼等の健康上に留意せしめて、一意その既得の成績を失墜せしめざらんことに努めしめて行くことが大切である。

次には平均甲のもので而も中に一・二科目不良のものある場合であるが、これは極力その不良學科の向上に努めしめることは勿論のことであるが、これに對しては漠然とその向上を促しても效果があるものではなく、須らく兒童の氣づかざる成績不良の原因をつきとめて、これに對して反省を促して行くやうにし、徐々にその缺點を補つて行つてやることに努めねばならない。

次に平均點の乙の場合の殆んど甲に間近い場合であるが、この際は、よくその內容を兒童に知悉させ、自分はどの點でよりよき成績を擧げれば、平均點甲に滑ぎつけることが出來るかといふことを反省、自認させて、これに對して極力勉强をさせるやうにし、又これに對する好意的助力を吝んではならない。彼等は、他の何れの場合の兒童よりも奮發心に燃えてゐる場合が多い。といふのは、甲の場合であると、多少の油斷もあり、一科目悪くとも他がよいからといふ自慰の心持ちも手傳つて居り、又全部乙で平均乙のものや、成績劣等のものにあつて往々見る所のあきらめといふものがなく、彼等の目標——目的物は最早や眼前に横はつてゐる。一奮發でその榮冠を贏ち得ることが出來るといふ所から、導き樣如何によつては、非常な效果を擧げることが決して難事ではないのである。

次に平均乙中の平均甲にやゝ遠いもの、及び成績中で平均乙に終始するものに對する吟味は如何にすべきかといふに、

これは全兒童の大部分を占めてゐるものであるが故に、大いに考慮を要する問題といはなければならない。先づ彼等中位成績の多くのものの中には、一種の輕いあきらめをもつてゐるものがある。たとへば、どんなに勉强した所で結局甲になれるものでなし、といつて落第する心配もないから、この點で放つて置けといふやうな氣持を——それが有意識的でなくとも——持つてゐることが多い。

先づ彼等に對しては、これを除去してやることが先決問題である。又、これには——さうした將來を抱いて來る原因には色々とあるが、その第一に擧ぐべきは、學科に興味を覺えないといふことであらう。誰しも興味のないことに對しては手を下すことが嫌やであるし、從つてそこには上達といふことは望み得られないのである。兒童の學科に於ける場合も亦同じことで、興味がないから自然になげやりになる。從つて成績は一向向上しない。成績が向上しないから、そこに勵みといふものが全然失はれて來るといつた具合である。

策は少しく横にそれるが、ある中成績の兒童に試みに多少出來榮えのよかつた場合に、甲を與へた。次にも亦甲を與へた。所が俄然その兒童はその科目に態度を一度して非常に自信づけられ、又實力も出來、益々勉强して來て結局押しも押されもせぬ甲を取るやうになつたといふ話がある。

これなども一つの矯正方法ではあらうが。兎に角、彼等をして如何にして興味を湧かしむべきか、といふことに成功するならば、この缺點は自ら除去されると共に、彼等の勉强を刺激し、彼等の成績をして一躍せしめ得るや疑を容れない。

第二には彼等兒童の生活環境を整理することである。如何に學校にあつて成績向上に努力しても、これは學校に居る間の僅に四・五時間の間のことであつて、一度び彼等が歸宅して家庭の人となるや、その學校に於ける績け——折角の訓育が根底からでなくとも兎に角損はれるやうな環境に彼等を置いたのでは、到底その萬全を期することは出來ない。これは只にこの場合のみに限つたことではないが、特にこの程度の兒童の數が多いのに鑑みて、彼等の家庭との連絡を一層緊密にし、兩々相俟つて努力することが肝要である。

最後に平均點丙の場合である。これの中にも乙に近きものもあり、又全然箸にも棒にもかゝらぬものもある。しかし、何れかといへば、結局丙は丙であつて知能の劣等なることには變りはない。こんな兒童の中には又身體の發育不完全等から來てゐるのも素より計算に入れてかゝらねばならぬのであつて、非常に取扱ひ難い階級であるといはねばならぬ。

これ等の兒童に對しては、その不成績のよつて來る原因を探究してその除去に努むべきは素よりであるが、彼等に對しては特に考慮を拂つて、劣等兒取扱上の色々の手段を講じてやることが必要であると共に、學業成績の向上が殆んど望みのないものであつても、その能廣が許し、又は身體が頑丈であるといつたやうな場合には、彼等の將來の生計に最も適するやうな方面に力を入れて導いて行くことを忘れてはならない。

これを要するに、學業成績通評に對する吟味は、兒童の個性に順應して行はるべきものである。只、通信簿上に表はれる甲乙丙丁を以て一把一括けの吟味をなすは、無責任の甚だしきものであつて、殆んど吟味の意味をなさぬものであるといつていゝ。吟味は須らく兒童の個性によつてなされ、彼等個々人に順應する對策が講ぜられてこそ、初めて通許の好果を期待することが出來るのである。

文科成績優良者の褒め方

以下三節に亘つて、文科、理科、技能科に於ける成績優秀者の褒め方に就て、述べんとするものであるが、小學校に於ける文科といへば修身科、讀方科、綴方科、國史科などをいひ、理科に於ては、算術科、地理科、理科等を含み、技能科に於ては、書方科、圖畫科、手工科、唱歌科、體操科、家事科、裁縫科等を含ませてよいと思ふ。以下これ等各科を一括した文科、理科、技能科といふ總種を用ひて、少しくその成績優良者に對する褒め方の種々相を見るならば等しく文科、理科、技能科といつても、その內容には上揭の各科を含んでゐることを一應お斷りして置く。

さてこの各科に於て優良な成績をとつてゐるものに對する褒め方を如何にすべきかといふに、この各科に亘つて成績優

良なものといへば先づ全甲の成績者と看做すべきで、かういふ兒童はさう多くはないことはいふまでもない。これ等の生徒に對しては、極力その慢心を戒めることの必要なことは、前にも述べた通りであるが、やはり、成績がよければよい程より以上の成績を擧げんとするのが人情であり、又、既得の成績を失墜せざらんとするのも自然のなり行きであり、他と競爭してそれに追ひ越されぬやうに、又、他を追ひ越してやらうといふ幾烈な競爭心をも起して來るのであるから、かうした微妙な心の動きを捉へて、巧みに彼等の向學心、勉強心を喚るやうに褒めることが大切である。

褒め過ぎるといふことは考へものので、かの恐るべき慢心はそれから起つて來るのであり、その結果却つて豫期に全然反した結果を招來することが往々にしてあり得るのであるから、大いにこの呼吸が大切である。場合によつてはかうした優秀な兒童に對しては、兒童程度以上の問題を課して、その慢心を防ぐと共に、更に色々な世界のあることを知らしめて置くことも、考へやうによつては褒め方の一方法であるかとも思ふ。以上は三科に共通したものであるから、理科、技能科に於てこれを省くこととする。

次に文科が成績優秀であるが、他科の成績普通乃至は普通以下である場合、これに對して如何なる褒め方をなすべきかであるが、これには、成績優秀な科目と、不良な科目とはどうして出來るか、別言すれば、成績の良不良はどこから因由してゐるのであるか、といふ點を反省考察せしめることが一つの方法であらう。

褒められるといふことは、それが阿諂便佞でないかぎり、誰しも惡い氣持ちのするものではない。尤も中には阿諂と知らずに、いゝ氣になつて上げられてゐるお目出度い人もなくはないが——それが況して兒童に於ておやである。彼等は褒められるといふことは、彼等の無上の愉快であると共に、褒められるといふことなしにした仕事は、彼等は餘りに呆つ氣なくさへ感じてゐる場合がある。

それ故に、これを褒めるといふことは、決して惡い事ではなく、寧ろ場合によつては、彼等を褒めることによつて、彼等の自尊心を增し、彼等の自信を强め、更に一層の勉强心を奮ひ起さしめることの出來るのは疑ふことが出來ない。しか

し、その褒め方にも色々あつて、無暗矢鱈にこれを褒め上けることは、決して策の得たるものではなく、その褒め方如何によつては、却つて反對の結果を招來し、徒らに彼等の慢心を招く場合が尠くないのである。

理科成績優良者の褒め方

これも理科のみがよく、他は普通又は普通以上の成績であると假定してのことであるが、こんな場合にはどんな褒め方をなすべきかといふに、前項の褒め方と別段變つた所はなく、その努力は買つてやるが、これに對して褒め過ぎるといふことは避けなければならぬ。で、こんな場合には必ず一方の優秀な學科に對する努力を褒めると共に、これを利用して他科——比較的優良ならざる科目に對する勉强心を喚び起させる所に他科の成績不良缺點を以てすることが賢明な策である。

たとへば、理科が成績優良なるにも拘らず、技能科が普通或は普通以下の成績であるといふやうな場合にはどうするかといふと、先づ、理科に於て優秀な成績を擧げた努力を褒め、將來もこの良成績を持續して行くことに努めしめるやうにし、そのためには如何なる手段、方法に出づべきかと考へさせるのである。自分はどうしてこの良成績を得たかといふことを深く反省させ、それを將來にも長く持續せしめるやうにさせることが大切である。

次に他の技能科に於ける成績不良は何に原因してゐるかを考へさせることが大切である。彼等は徒らにしてその不成績を無意識に看過し、或は、勉强法を誤つてゐるのも知らずに、自分は元來かうした科目には不得手であるとか、或は不適當であるとか考へて、輕いあきらめをつけてゐるやうな場合がないでもない。

由來、普通の能力を有してゐる兒童である限りに於て、相當の努力と研究さへして行けば、決して他と歩調を合はせて行けぬことはないのであつて、それが自分に分らずに居る場合が甚だ多い。教師の役目としては、只物を教へ、彼等を知識的に幇助してやることのみを以て能事終れりとするものではなく、かうした方法に於ける彼等のよき相談相手となつてやることが極めて肝腎なことなるは論を俟たないのである。

故に教師たるものは、日常自己の接する兒童の個性を明確にわきまへてゐて、かうした機會を利用して、徹底的に彼等の反省考慮を促すことに努めねばならない。

技能科成績優良者の褒め方

技能科の成績が優秀なるにも拘らず、文科又は理科、或は兩科とも成績が普通又は普通以下である場合、この褒め方はどうしたらよいか。それも亦前者の場合と變りない。

彼等が一方に於て成績優良な原因が奈邊に存するかと考究せしめると共に、他方成績不良の原因が何處にあるかを考察せしめ、兩々比較對照せしめて、その勉强法、努力等に一段の躍進を期せしめるやうにすることが大切である。

相手が思慮未だ定まらざる兒童であり、先生の言を全科至條と心得てゐる彼等のことであるから、如上の方法によつて彼等の前途を開發してやるならば、その成績は期せずして擧つて來るに相違ないと思ふ。しかし乍ら、かうしたことは、中々早急には出來ないもので、やはり兒童であるから、いはれた時だけは成程と考へて、將來はかうして行かうといふ考へもつくが、さてそれが日が經つにつれ、又色々の境遇や環境の變化、乃至は他の色々の事柄に煩はされて、兎角それが忘れられ勝ちであり、無視され勝ちに流れ易い傾きがある。これでは折角の決心も、努力も結局は水泡に歸する場合がないでもない。

であるから、かうした注意や褒め方は、その印象を深めた時を忘れしめやうに、絶えず、常にその記憶を喚起せしめて行くことが必要である。そのためには、凡ゆる機會を利用して、その不成績なる科目に對する彼等の注意を喚起するだけの親切心があつてほしいものである。無心の牛馬と雖も日々眺うたれて馴らされれば、その歸途を忘れずに家途につくものである。況んや彼等は萬物の靈長たる人間の卵である。晉つて永きに亘れば決してその努力が空に歸するやうなことは

尠くのである。

即ちこれ等の場合にあつて、褒め方も只一時的のものであつてはならない。一面それを褒めて愈々勉強心を鼓舞すると共に、他面これを利用して他の不良科目の勉強心を誘致し、これを習慣にまで持ち來たすまでに彼等を導いて行く、といふことが兒童の成績優良者の褒め方の妙諦であると考へられる。

然るにここに、注意すべきは、阿附迎合のために褒めるといふやうな唾棄すべき人間のあることは、吾々の痛惜に堪えない所である。既ち、彼等は兒童その物でなく、その背後のある者、たとへば有力者であるとか、顯官であるとかといふものの意を迎ふるために、その兒童を褒めるといふやうな場合である。換言すれば、ためにせんための褒め方である。斯くの如きは筆にするもいまはしいことであるが、獨りその教師の人格を疑はざるべからざるのみならず、その兒童――無心の――無垢の――を損ふこと萬々なるを知らねばならない。

たとへそれが有力者の子弟であらうが、名望家の子女であらうが、成績の上に於ては飽く迄至公至平の態度を以て臨むべきは論を俟たぬのみならず、その褒め方、戒め方にあつても、苟くも他と軒輊があつてはならない。かゝる行爲は評せられる兒童、評する教師兩當事者間の問題ではないのであつて、級全體に疾視反目を惹起するは火を見るよりも明かであり、延いては彼等より眞面目なる勉強心をさへ奪ひ去るといふ恐るべき結果を招來することすらあるのである。尙、その結果、最も尊嚴なるべき教師の尊嚴さへも無視せられるに至つては最早や教師の生命は零であることを深く考へねばならない。

文科成績不良者の勵まし方

教師が身を粉に碎いて一心こめて導かうとしても、相手の兒童が馬耳東風であつたり、馬耳東風でないまでも、一向理解が出來なかつたり、所期の効果が擧がらなかつたとなると、いかに教師であつても人間である以上、腹も立つであらう

し、ムツともするであらうことは、決して無理のないことと思ふ。こんな場合、相手が何んの理解もない兒童であるから何んとも仕末に行かぬ。暖簾との腕押しには、いかな教師もウンザリして天を仰いで嗟嘆之を久うすることなどは、決して他にあつて考へられない事柄である。

かゝる場合に於て、從來は、教鞭が本來の使命を失つて、往々にして兒童の頭上に落下したものである。尤も今ではそんなことが大分影を潜めて來たやうには思はれるが、それでも時たま思ひ出したやうに、兒童が教師に打たれて氣が遠くなつたとか、いや何んだかんだと教育界の事故が三面記事を賑はしてゐる所を見ると、それが決して全然なくなつたとは考へられない。

尤もかうした手段――最後的の――に出づるまでには獨り、學業を覺え込まぬことから出發することもあらうし、又行儀が惡過ぎて抑へかねる所から出發することもあらう。その出發點は何れにあるにしても、結局は教育界の問題を惹起したり、父兄間の反感を起すことが解り切つてゐる癖に、事ここに出でざるべからざる教師の身にもなつて見ると、全く同情に値せぬ所がないでもない。

が、教鞭は飽く迄も教鞭であつて、鞭撻の鞭とは趣きを全然異にしてゐるのは論を俟たない。教鞭はボールドを指す鞭であり、鞭撻は牛馬の尻をひつぱたく鞭であつて、その間自ら雲泥の差のあることを知らなければならぬ。この意味に於て教師の手に負えぬものを叱る、といふことは隨分考へねばならぬ問題であるといふことが明白になつて來る。

そこで、かゝる兒童に對しては、飽く迄教へ導くといふ態度を持し、その不成績の何處より來るかを反省せしめ、これが除去に就て懇切な相談相手となつてやる態度が大切である。

理科成績不良者の勵まし方

一體人間は感情の動物である。他からよくせられれば、自分もよくしてやらうといふ氣にもなる。兒童とても同じこと

でこれを化するに徳を以てすることが大切である。筆は少し横にそれるが、教師が兒童を叱る——たしなめる場合に於て自己の態度が正當に兒童に諒解が行つてゐるかどうかといふことを、先づ以て考慮してかかる必要がある。尚、更に進んで自己の態度が兒童に何が故に正當に理解されねであらうか。この外に如何なる手段によつて彼等を正當に導くべきか。彼等を正當に導くべき手段は他にないであらうかといふやうなことを反省して見る必要がある。かくするならば、無理な教鞭のふり廻し方もしなくともよくなり、又折々世間に發表されるやうな教育界の不詳事件を惹起せずとも濟むやうになる筈である。

のみならず、兒童を叱る、怒鳴る、といふやうなことは、果して彼等を矯正し、又は彼等を心から心服せしめ得る所以であるか、どうかといふことは暗る餘間の存する所といはなければならぬ。一體、人間は叱られたり、怒鳴られたりすると、たとへ自己に非があるにしても、決してハイとは服從するものではなく、必ずそこにこれに反發する心持ちが起つて來るものである。卽ち反抗心がそれであつて、一時叱ることによつて、その恐ろしさから屈服したやうに見せかけてゐても、かうした手段に訴へた結果は、決して眞の心服ではありうない。否、彼等は裏に廻つて舌を出してゐることすらあるこんなことであつては、たとへ一時はそれを矯正し得たりと思つてゐても、日ならずして、その過ちを再び、三度び繰り返へすといふやうな結果に到達することが決して珍しくないのである。のみならず、叱るといふ威壓を加へることは、彼等純眞の兒童をいぢけさせこそすれ、決して正當な指導法ではないのである。故に彼等の指導に於ては、常に溫顏を以てこれに接し、德を以てこれを化す、といふ態度に出でなければならぬ。

技能科成績不良者の勵まし方

本科の不成績者に對する戒め方に於ても、別段他の場合と差異があるわけのものではない。一體、小學教育は本來兒童の問題ではなくして、教師對兒童の問題である。そこに、お互に相親み得ざる、相近づき得ざるギャップが生じたならば

どうして教育の目的を貫徹することが出來やう。この意味に於て、教師對兒童間は、洋々春の海の如き感あるべきと共にその間に何等の親み難き支障があつてはならないのである。

斯く論じ來たれば、既に本題の論旨を貫徹し得たるかに考へられるが、更にこれを敷衍して說くならば、文、理、技能科の何れに於けるを問はず、從來はその成績不良者には絕えず誤れる教鞭が振はれてゐたのであり、甚だしきは、いくら教へても覺えぬから面倒だと許り、場合によつては殆んど投げやりにされてゐたことすら見受けられた有樣であつた。かくして、彼等の成績が向上するはさておき、現狀維持さへも難しく、更に低下して行くといふやうな結果に陷つてゐたことは珍しくなかつたのである。

斯くの如きは、無責任も甚だしいもので、そこに愼すべき手段を愼さず、反省すべきを反省せずして、徒らに兒童を叱りつけて苦惱せしめ、萎縮せしめて手も足も出さず、却つて彼等の反抗心を助長せしめてゐたといふことは、從來の小學校教育界の一大痛恨事といはなければならない。

それは兎も角として、かゝる成績不良兒の勵まし方に對する具體的對策如何とならば、これにはその實際に當つて幾多の方法がとられるであらうが、先づ以て、彼等兒童が教師の一言一動に心服するといふ態度を養ふことが大切である。その根柢には、必ず叱るべからずといふ一大鐵則が横はつてゐる筈である。これなくしては、如何なる戒めも、勵ましも結局は徒勞に歸することは爭を容れる餘地がない。

さて又、理、技能科各科に亘つて成績の不良なものに對しては、素より勵ますことも大切であるが、不具者でない限り將來の生計に適當な方面に力を注いで誘いて行く方が教師として執るべき手段であると共に、兒童にとつても幸福なことといふべきであるから玆に多くを述べるまでもないと思ふが、この各科の中一科乃至は二科の成績不良者を如何にして勵まして行くべきかといふことが問題である。

これには、褒め方に於て說明してゐる同じやうに、先づその成績不良のよつて來る原因を追究して、これを知悉せしめ

ることが肝心である。原因が分らずに、その對策の講じやうが素よりないことはいふまでもない。彼等にその缺點を知悉せしめるといふことが先決問題で、然る後に、他の兒童との競爭心を起させるやうな手段を講じることも一つの方法であらう。

卽ち級方の如きにあつては、他の優良者の作品を公開して、それに比較せしめて自作の缺點を補はせ、かくあるべきことを會得せしめる等もよからう。又裁縫の如きにあつては、今一息と勵まして、その缺點を補捉すべく鼓舞して行くことも一法であるに違ひない。尙、地理科の如きにあつては、暗記力、推理力等の方面に於て缺くる所があるならば、明かにそれを促進すべき方法を教へて、一意專心その成績向上に努力せしめることも一法であらうと思ふ。

要は、勵まし方にあつては、教師になれ近づいて、その一言一行に溢るる如き親みを持ち、唯々諾々として教師の言に反せざる態度の調練に發し、これを德を以て化するといふ尊い精神を以て導き、彼等をして不斷の努力をその缺點に向つて傾注せしめる、といふ所に至つて効果を奏するのである。個々の方法等にあつては、その場合々々によつて幾多の種類があるのであるから、これは後章に讓つて置く。

成績不良の原因の反省のさせ方

從來の小學校教育を見るに、優良な成績の保持者のみ、頭抜けて進んで行き、他のものは進まうが進むまいが一切お構ひなしに、おいてけ堀を喰はされてゐた傾きがある。たとへそれが計劃的になされたことでないにしても、結果から考へて、一向さうした成績不良者にはお構ひなしに、時たま叱りつける位が關の山で更にこれに對する對策が講じられてゐなかつたかに考へられる。否、それが講じられてゐたにしても、一向効果が表はれなかつたことに照合すると、その努力の程が推して知られるといはれても一言もあるまいと思ふ。

それかといつて、天才教育てふ一種の劃一教育打破の見地からの教育かといふと、さうでもない。一言にして盡せば教師は教壇に立つて、自分勝手な理窟を述べて、如何にして時間を消費すべきか、などといふ甚だ無責任な考へを以て教務の任に當つてゐたといつても過言ではあるまい。斯くの如きは、小學校教育上實に由々敷大事であつて、兒童の不幸この上なきのみならず、これでは國民教育の達成などといふことは、全く痴人の夢を語るに等しいといはなければならない。

今日にあつて成績不良者に對する對策として、如何なる態度手段に出づべきかは、彼等の成績を向上し、延いては將來の社會生活をなす上に於て、重大なる關係を有してゐることはいふを俟たぬ所であらう。以下說かんとする所はその具體的對策であるが、先づ、彼等成績不良兒童の成績向上策として、第一に取らるべき手段は、その不成績の原因の奈邊にあるかを知悉せしめて、その原因を芟除せしめることである。

卽ち、何故に成績が不良になつたかを反省せしめることでなければならぬ。抑も成績不良のよつて來る原因は二・三にして止まらない。ありと凡ゆる彼等の生活環境が、直接間接に彼等の成績の良不良を左右するものなる以上、その原因も亦極めて多岐に亘るべきはいふを俟たない。

然るに彼等は理智に乏しい兒童である。それ故に、彼等の不成績が奈邊より來てゐるのであるか、などといふことにはテンデ氣がつかぬものが大部分であり、たとへ氣がついたものがあつたにしても、それを如何にして除去して行くべきかといふことに就ては、殆んどなす所を知らないのである。

この結果は實に怖るべきもので、彼等の不成績も遂に習性となるに至つては、最早や五蓋六箘、中々これを除去して平常或はそれ以上の成績を得せしめるには、並大抵の努力では到底及びもつかぬといふことになつて了ふのである。

從來の小學校教育にあつては、屢々この現象が見られたのであつて、その原因さへ除去すれば、十分知能を伸張し得る頭腦の所有主であつても、遂にそこに適當な手段方法が講じられなかつたために、たうとう不成績で通し、何が何やら一向分らずに、校門を押し出されて來た、といふやうな不幸な兒童も多分に見られたのである。

かうしたことは、或はその責の全部を教師否小學校教育に歸すべきではあるまいとは思ふが、小學校に於ては、秀才を

うたはれ、この兒將來如何なる像ら者にならうと、衆人に目を刮はらせた者が、上級學校に入つて俄然愚鈍化したり——これには色々の他の原因があらうけれど——又は、小學校に於ては殆んど顧みられなかつた兒童が、上級學校に至つて急に良成績を續出して來た、といふやうな話はよく聞く所であり、又事實さうしたことがあり得るのである。

かゝる場合に於て、小學校教育の中にその兒童を啓發すべき手段方法が、完全に行はれてゐたといふことを、誰しも明かに保證することは出來まいと思ふ。要するに、かうした場合には、小學校に於て、その兒童の個性を完全に覺破し、これに對する——その知能を伸張する處置が適當になされなかつたのではあるまいか、といふ疑ひをさへ生じて來るのを否定することは出來ない。

故に小學校にありては、その兒童の個性を十分に觀察して、これに順應する對策を誤ることは、先づ以て第一に着手せられねばならぬことであると信ずるのである。然るに、これは獨り教師のみが行ふべきことではなくして、兒童にもその對策を考へさせることは大切である。といふのは、自分が考へて、教師が肯定したこととなると、これを實行して行く上に於て、その感銘が深く、從つてその結果も良好となるは信ずるに難くない。

かくして不成績の原因が、怠情にあつたか、油斷からか、病氣の精か、事故のためか、それとも勉强嫌ひの精か等々と考へ來る時、彼等の頭には自らよつて來る原因が浮んで來ると共に、これを芟除すべく如何なる方法によるべきかといふことも自ら明確になつて來る筈である。かゝる場合に於て、教師は飽く迄彼等の好意ある助言者となり、彼等の氣附かざる所を啓發して行つてこそ、初めて教師としての責が果たされると思ふ。その方法としては家庭と連絡をとるもよく、又兒童を物蔭に呼んで、よくその事情を聞き、意見を述べさせて後、その對策を徐ろに考へさせるなどといふ方法も亦一法であると思はれる。

成績不良の箇所の反省のさせ方

さて、兒童の成績不良の原因が分つたにしても、それは概ね外部的のことで、內部的のものではない。たとへば怠情、油斷、病氣、事故等々の原因は、彼等の生活環境をめぐる外部的成績不良の原因であるが、それが分つたからといつて、その原因を反省させ、對策を講じ得たからといつて、それで十分であるとはいひ得ない。

成績不良の原因には、內部的の原因も亦存在することを忘れてはならない。といふのは算術に於てこれを見るならば、計算が捗いとか、復習を怠つたとかいふことであり、記憶力が乏しいとかといふやうな種々の事故に對する原因である。や歷史などにあつては、讀圖力が足りないとか、暗記力が乏しいとかといふやうな種々の事故に對する原因である。

それで外部的の原因が判明しても、この內部的の原因が判明しない中は、どうしても彼等の成績は向上して來ない。これを彼等兒童に自省せしむるといふことは、成績向上の上に於て忘るべからざる大問題といはなければならぬ。

或はこれをつきつめて行つたならば、中には單に好き緣ひから出發してゐるものもあらうし、又、怠情から不成績を釀してゐるものもあらうし、更に病弱の故を以て成績不良に陷つてゐるものもあり、運動に熱中して學業を放擲してゐた結果のものもあらう。或は注意の散漫が原因であることもあらうし、家事の手傳ひ等をしてゐるために、復習豫習の時間がないことを訴へる者等千差萬別の原因があるに違ひない。

その何れの場合にあつても、この原因を究明し、彼等の幼い頭腦に明確にこれを自覺せしめて、その原因を取り去つてやるといふことは、實に教師としてなすべき重大なる責務でなければならぬ。而して、如何なる方法を取つて反省せしむべきかといふに、その各々の場合によつてその對策にも亦差別のあることは勿論であり、一概にこれを論ずることは出來ないが、その不成績の箇所に至る毎に、特にその反省、注意を喚起することに努めねばならぬ。

既にしてその原因が明瞭となり、その原因芟除のために日常の注意が拂はれ、不良の箇所に對する自覺が明確に印象づ

けられ、これに對する不斷の反省と恢復の努力が注がれる時、その成績の向上や期して俟つべきものあるを信じて疑はない。

怠惰で成績不良の戒め方

單り學業のみに止まらず、凡そ物を成就せんとするに當つては、この怠惰程怖るべき敵はないのである。怠惰は逡巡を生み、大事既に去つて、遂に平々凡々草木とその生を同じうして尊い人生を醉生夢死に終る場合が多いのである。

就中兒童の學業に於ける怠惰性は、彼等の一生涯を左右する重大なる關係を有するものなるが故に、双葉にしてこれを芟除しなかつたならば、彼等の一生を不幸に葬つて了ふことになる場合が多いのであるから、その矯正に當つては、一層の努力を用ふべきや論のない所である。

さてこれを叱正して行くためには、溫情主義と、嚴格主義との二方面がある。相手が兒童なるが故に、その怠惰性の輕微なるものに對しては、諄々としてさとして行くならば、長い間には決して直らぬことはないと思ふが、それが頑固なものとなると、中々手に負へないことになるのであるから、勢ひ嚴格主義で臨まねばならぬ。といふことになつて來るのである。嚴格主義といふのは、何も叩くとか、怒鳴るとかいふこと許りを意味するのでなく、何かしら彼等に精神的な苦痛を與へて、これを反省させるといふことである。

さてこの怠惰性といふのにも、先天的のものと後天的のものとの二種類がある。後天的のものといふのは、つまりその環境に影響されて出來上つたものである。今これを矯正せんとするには、先づその原因の奈邊に存するやを明かにして、これが對策を講ずることが大切である。それでそれが先天性のものであるとせば、彼等は怠惰な生活を繰り返へして居つても、それが怠惰であると意識して居らぬ場合が多いのであつて、かるが故に、自己の行爲が、毫も他の指彈を受くべき性質のものではないと思つてゐるのであるから、これに對する矯正法としては、中々手緩い事では効目が薄い。强いていへば、それが大人でないだけで、又矯正の方法もあらうといふものである。

その先天性の怠惰が病的原因から起つて來てゐるものとすれば、かゝる場合は醫療を受けさせることによつて、その原因を除去させるか、それ以上彼の在校することによつて、他の兒童にまでその性質が蔓延する、といふやうな兆があり、且つ矯正の見込なしとせば、これは斷然家庭と共同して、最後の處置を講ずるより外に途はあるまいと思ふ。

けれども惡いからとて、これを校外に放り出すことが學校の眞使命であるかどうかといふことを考へねばならぬ。その兒童一人を校外に放り出すことによつて、成程校風が清くなることは事實であるが、放り出された兒童の前途はどうであるか、延いては社會が彼によつて蒙る將來の損害如何などといふことを考へたならば、この斷然たる最後の處置も決して策の得たものでないといふことが明白になると思ふ。出來ぬ所を飽迄も盡す、人事を盡して天命を俟つ、そこに尊い教育の使命があるのである。

話は横にそれるが、かの共產黨事件の如きは正にそれである。このためには幾十、幾百の前途有爲の青年が連座し、殆んどその全部が校內廓清のために、最後の處置に遭つたのである。而して當局は獨り校內が清淨になつたが故に、既往にもそんなものはゐませんでしたといふやうな頹付をして濟し込んでゐる。

然るに放校された學生の前途如何。更に彼等がもし眞に社會を荼毒する思想の持ち主であつたならば、彼等がその奉ずる主義を變ぜざる限り、現代社會組織と相容れざる思想を以て戰をつづけて行くであらうと共に、彼等はこの處置によつて益々反感を高め、その反社會心を高調させて行くことを想像するに難くない。

となると、教育の眞使命は如何にある。教化の目的は何處にある。只校內の清潔を誇示せんがために、かゝる不良分子と看做さるゝ青少年を放り出したことによつて、果して教育の眞使命が果たされたのであらうか、吾々はそこに大なる疑問を存せざるを得ないのである。事甚だ少なる問題ではあるが、先天的怠惰性の兒童の教化に當つても、正にこのことがいひ得られると思ふのである。

先天的怠情性といふものは、幸にしてその數が甚だ尠いのである。先天性と一見見えるものであつても、それが周圍の環境に影響されて、殆んど先天的のものと同じやうになつて了つたものが多いのであるから。その判別には十分の注意が必要である。如何なる性質の善良な人であつても、多年亂雜な環境裡に生活して來てゐるならば、怠情性にならない人はあるまいと思ふ。況んや、方圓の器に從ひ易く、朱にそまり易き兒童期に於ておやである。

かるが故にこの怠情性を矯正するためには、多分の努力が傾注せられねばならぬのであるが、その方法としては、先づ家庭と連絡を取つて、彼等の日常生活を整理して規則正しい生活をなさしめることが第一である。しかもそれを統一と秩序を保つたものに導かなければならない。たとへば起床就寢の時間、登校時間等を嚴守せしめ、各方面に亘つて極めて規則的の動作を爲め、これが監視を怠らぬやうにしなければならない。遲刻、早退、道草の如きは嚴に戒めねばならぬ點であらう。

かうした兒童の責任觀念の乏しいことはいふまでもないことで、又責任觀念が薄弱なるが故に、かうした怠情性が增長して來るものであるともいひ得よう。それ故に彼等に相當責任ある課業を課して、これを鞭韃して行くことも一つの方法である。而して周圍の事情上、自然に規則的にならねばならぬやうな環境を作つてやることが大切である。

又他の二三優良な責任觀念の强い兒童と一つのグループを作らせて、これに連帶責任をもたせ、彼等にもこれを鞭韃せしめるやうにすることも一方法である。かうした協調精神が確立して來れば、もう〳〵たもので、彼の怠情性は日ならずして矯正されて行くであらう。

劣等者成績不良の戒め方

「人生健康より幸福なものがない」とか「生命あつての物種」とか古人はいつてるが、敢て古人の言を俟つまでもなく、事實健康こそは吾々に取つて無上の幸福でなければならぬ。健康でさへあれば、長い時日の間には、多小の失敗の如きは

易々として恢復する術もあらう。健康でさへあれば、目に觸れるもの、耳に聞くもの一として幸福の種ならざるはなく、活潑々地の活動はかくしてなされ、全身の生活機能は覺えず躍動を禁じ得なくなつて來るのである。

所がこの反對に不健康であるとどうかといふに、ここに數するまでもなく、人生の一切はジメ〳〵して來て、陰慘の氣に閉ざされ勝ちであり、前途の希望等の如きは一切消滅して了ふ。その結果、生き甲斐がないなどといふ、厭世觀を起したり、乃至は運動、活動の不活潑を來たして、折角のほりつめることの出來る成功の坂も中途にして挫折するの止むなきに至る等のことが有り勝ちである。とすると、一面に於て健康は人生の最大幸福なりてふ語も亦あり得べきである。

これを兒童に見るに、不健康のものは、勢ひ病氣勝ちであり、身體も虛弱で他と同じ運動をして鬱々として樂むことすら出來ず、場合によつては數週間、數ケ月間學業を廢せざるべからざる狀態を惹起することが間々あるのであつて、その結果、彼等の成績が勢不良に赴かざるを得なくなるはいふまでもなく、彼等の不幸は、一に身體の虛弱なるのみに止まらず、他の學友と並進することが出來ぬといふ精神的苦痛によつて二重の桎梏に苦しまざるべからざるに至るのである。

かゝる場合に於ける、彼等病弱不成績兒童に對する成績向上の對策如何は、大いに考究して置く價値があると思ふ。さて同じ病氣であつても、それが急性のものと慢性のものとあり、又その性質によつて比較的短時間で快癒するものもあれば、その反對に意外に長びくものもあり、從つてその對策に於てはその個々の場合を豫想して、豫め考へて置く必要がある。

先づ第一に、これに對する一般的注意を述べるならば、これは戒めるといふことよりも、慰め勵ますといふ方針のもとにありたい。彼等は先天的に、又偶發的に、自分が求めやしてこの災厄を身に負つてゐるものである以上、これに因由する不成績に對しての責任に對しては、若干のハンデキャップを附せられるべきは當然のことといはねばならぬ。

かゝる際に於て、他の一般的原因、たとへば怠情の原因する不成績とか、或は注意散漫の原因する不成績とかといふ兒

宣と同一視して、その成績向上に對して、同一方法を以て戒めるといふことは、如何に考へても妥當な策とはいひ得ないのである。でかうした場合には飽く迄も、彼等を慰め勵ますといふことを前提として戒めて行くべきである。

さて急發性の病氣であつても、時期が問題であつて、不幸にしてそれが試驗最中にでも起つて當然受くべき試驗を受けられぬことよりして起つた一時的の不成績であつた場合は、大いにこれを慰めて、後日の奮發のために力づけてやる必要がある。又これが怪我をしたやうな場合には、それが不注意より起つたことであるとするならば、十分にその不注意をさとして然る後に慰め勵ましてやるが宜しい。

又急性のもので比較的長びいたために、學校を長く缺席した結果、不成績を招來したやうな場合には、家庭と連絡を取つて、つとめてその遲れを取りかへさせることに努力すると同時に、兒童にも亦その趣旨を徹底せしめて、一意專心、頽勢挽回に努力せしめることを忘れてはならない。但しこの際あまり甘い言葉をかけることは禁物で、甘い言葉であまりに慰問が過ぎると、彼等兒童はこれを一に不可抗力に歸して晏然病氣の勢からである位に考へ、他日の奮發心を起さぬことがあるから、かういふ呼吸はよく飲み込んでかかる必要がある。

最後に慢性の病氣が原因する不成績者の戒め方であるが、これは教師と雖も如何とも致方がなく、斯くの如きは一に醫療の結果に俟つより致方がないのである。しかし乍ら、かゝる場合に於て、これは教師の係る範圍ではないなどとうそぶいてゐたのでは、眞の教師としてのとるべき策でないことはいふまでもない。

然らばかゝる場合に教師は如何なる策に出づべきであるかといふに、やはり一々日常彼等の健康狀態に留意し、一方家庭を督して家庭的の醫療方面に萬遺算なきを期せしめると共に、他方校醫の診斷を絶えず參考して、その兒童の健康增進策につとめ、又一面運動なども適當に課して、彼等を出來るだけ快活にし、學校方面に對する執着力を喚起することにつとめねばならぬ。

又兒童に對しては、病氣の故なるを以てのあきらめなどを決して起させぬやうにし、常にこれを戒め勵し慰めて、どこ

までも彼等も同等の兒童である以上、他兒童と並進するの元氣を振ひ起させるやうにしてやらなければならない。

運動狂成績不良の戒め方

歐洲大戰以來、各國はその既往の戰績に鑑みて、戰爭は畢竟體力にありとなし、擧つて國民體力の改善に努力をなすに至つた。その結果、從來行はれ來たつた國際オリンピック競技は、いやが上にも高調され、我が國の如き後進國にあつても、數回に亘つてこれに參加し、水に陸に驚異的進展を遂げ、歐米先進國のレコードに肉迫し、或はこれを突破して世界的名聲を博する等、實に目醒しき進歩を遂げてゐる。

然るにこれ等の競技に於ても、痛切に感ぜられるのは、肉體的の劣勢である。かれの堂々六尺に餘る體軀の選手に伍して、我々は僅々五尺數寸の體軀を以てするのであるから、その持久力に於て、そのスピードに於て、多大の遜色、否ハンデキャップの附せらるべきは自明の理でありそこに我が選手の歷々蔽ふべからざる苦心の跡を窺ふことが出來ると共に、愈々國民體力の改善の急を痛感し、國民體育の益々熾んならんことを望まざるを得ないのである。

この世界的運動競技勃興の趨勢に連れて、我が國に於ても續々大グランド、大フキールド、プール等の建設があり、極東オリンピック競技大會や、明治神宮競技大會、さては對校競技、對校競泳、各種青年團運動競技會等續々開催せられていやが上も運動熱の勃興を見、今や全國津々浦々に亘つて、ボールの響き、ラケットの音、さては槍の唸りを聞き、就中世界的選手の輩出、世界的選手の來遊等に刺戟せられて、レコードは年一年向上の一路を辿り、從つて運動競技會又年々盛んになり、國民體育向上の路に猛進しつゝあるは、國家の幸慶事これに如くものはない。

この內外の狀勢裡にあつて、熱血內に迸る我が青少年は、何人ぞ默してゐることが出來よう。或はフキールドに、或はトラックに、或はコートに、或はグラウンドに、或はプールに男といはず女といはず、苟しくも學生、生徒なるものは馳驅する事が出來なければ、共に談ずるに足らずといふやうな狀勢が馴致されて來てゐる。拭ふが如き碧天の下に、澄み切

つた空氣を突いて白いボールが飛び交ふ。なんといふ壯快なことであらう。宜なる哉、彼等青少年の熱狂するやである。

が、このために、往々にして學業を廢し、否忘れて、唯ひたすらに運動に熱中したる結果、不成績を釀すといふことはよくあり勝ちのことで、これに對する戒め方も亦一つ考へて置かねばならぬことである。由來、物として一利一害を伴はぬものはない。その一面に於て利益があつても、その他面に於て必ず多少の弊害を伴ふ。これは自然の數である。

かの國運を賭した日露の戰役に於て、我が國の大勝利は我が國の一大利益であると共に、他面戰敗國たるロシアにとつては一大損失であつたのである。而も、我國の大勝利の裏面には何があつたか。曰く百萬の生靈を犧牲に供し、十五億の軍費を費消するの一大損失を伴つてゐたことを忘れてはならぬ。のみならず、これは只に戰爭の上に表はれたる軍費であつてその他、國民が軍隊を後援するための努力、費用に至つては、殆んど金錢に換算することの出來ない程の犧牲を拂つてゐたのである。

而もかくの如き犧牲をまで拂つても、尙、且つかの大勝利を贏ち得なければならなかつた所以のものは、實に國礎を危うからしむるからであつた。卽ち、ロシアの南下は、何物を犧牲にしてもこれを喰止めとめざるべからずといふ大目的のために一大犧牲が拂はれたのである。

運動競技に於ても然りであつて、國民體育改善、向上のためには、又何物をも犧牲に供せざるべからざる形勢である以上、些々なる弊害に拘泥して、時勢に逆行するが如きは、我が國家の將來の發展を沮む一大賊徒と叫ばざるを得ない。而もこれ等無智の徒に口實を與へざらしむるの責は、實にかかつて教育家の雙肩にありといはねばならない。卽ち、話は前にもどつて、かゝる人々に運動競技排斥、否定の口實を與へる先づ第一のものは、卽ち、これに熱狂する青少年の成績低下であることはいふまでもない。

それ故にこれを矯めると共に、彼等にその口實を與へず、國民教育の健全なる發達を保育して行くのは實に教育家であるといはねばならない。そこで、かうした運動狂の兒童を戒めるには、どうしたらいゝかといふに、徒らにこれが手足を

縛して角をためて牛を殺すの愚を演じては、これを戒むるの趣旨に悖ること甚々であるから、彼等の體育競技愛好精神を正當に守り育てて行くといふ所を狙つてかからなければならぬ。

それには彼等の行動を規則正しくさせることが第一番である。運動狂ともなると、殆んど運動にその全精神を奪はれ、學んでゐてでも、外にボールの音を聞くと、形こそあれども心は既に校庭に飛んでゐるのである。であるから是非共かうした兒童には、正確な運動時間を與へてこれを守らしめるやうにしなければならない。そのためには家庭との連絡は極めて必要なことで、たとへ學校にあつて如何に運動時間を制限しても、家に歸つて直ぐ鞄を投げ出して外に飛び出すといふやうなことでは、到底矯正の實は擧がらないのである。

扨か餘談に亙るが、筆者の幼少の頃は野球の全盛期に入る頃であつて、猫も杓子も野球でなければ夜も日もあけなかつたものである。筆者も御多分に洩れず野球には目のない方で、素足にやられミット（當時はグローヴは投手と進撃だけしか用ひなかつた）で一日一杯、駈けづりまわつてゐて、殆んど學業などは顧みず、隨分親を面喰はしたものであつた。所で、これを直さんと親がどんなに苦心したか知れない。

ある時親に呼びつけられて、當時ランプの掃除を日々命ぜられた。これは午後四時に掃除にかかつて夕幕時の點火に間に合ふやうにとのことであつた。然るにその次の日から、この命令をクロリと忘れてボールに熱中してゐたのだから助からない。型日も例の如く汗みどろになつて駈ぎ廻つて、さて夕幕時家に歸つて見ると家の中は眞暗である。フト昨日の命令を思ひ出して、恐る〳〵親の前に陳謝するに漸り出ると、親はなんともいはずに、明日から注意しろよ、と只一言いはれた切りだつた。

日頃の言にも似ず、この溫和な一言にはハタと胸を打たれた。如何な自分のやうなヌー坊な而もガムシャラな人間も、この言外に意をこめた親の言葉には敵し得なかつた。兩來夏中はランプ掃除を午後五時からと妥協してもらつて、大部莊の部から逐ざかつたといふ經驗がある。かうしたことは、今時のことにはあてはまらぬかも知れぬが、參考までに記して

書く。

　次に一つの方法は、如何に運動競技に熱中して、技能が秀でて來ても、日進月歩の運動競技であるから、所詮は頭腦の問題に歸する。學術劣等のものに、優秀な選手は皆無とはいひ得ないが甚だ尠いのである。この理窟を徹底させることが必要である。のみならず、萬人共に優秀な選手になり得るものではなく、彼の世界的に名聲を馳せつつある人々は、その裏まれたる天然の素質に加ふるに不斷の努力を以てして今日を致したのである。

　それ故に皆が皆立派な選手になるものではなく、將來の生計を樹つるには學問こそは眞の根柢であり、只健全なる身體に宿るが故に、健全なる精神を宿らせんがために、健康を保持せんがためにするのが運動である。といふことをよく呑み込ませて、徐ろにその反省を待つのが又一法であると考へる。

　只ここに注意までに附記して置きたいことは、兒童よりも、寧ろ教師の方に運動狂があることである。一度對校競技ともなると、その數週間前から、學業もそつちのけに、グランドに立ち、間がな隙がな選手を鞭韃し、試合濟んで勝つたといへば、校を忘れて狂喜雀躍し、敗れたといへば、痴に陣るとの理由で、やはり教壇をおろそかにする果て復讐のためとかなんとかかんとか理窟をつけて、グラウンドに立ちたがる教師が若いものに多い。

　かういふ熱狂兒は素より小學校競技會にあつて、あながち不必要であるとはいひ得ない。しかし乍ら、これを學校へといふ點から見ると決して賞めたものではなく、かうした教員があるがために、一校の運動競技熱が熾んになることは爽ひを容れないが、しかし、これあるがために、他の運動狂不成績兒童を滅めるために障害となるやうなことがあつてはならない。これは、經營の立場にある當局に對して特に切言して置く。

事故で成績不良の滅め方

　成績不良の原因の中には、又事故による成績不良といふのがある。事故とは何かといふに、家事の手傳、父母兄弟の死

非常事變等々の事柄であつて、これ等が原因して兒童の成績を左右することは、蓋し甚だ多いことといはねばならぬ。

　就中、富有な家庭に育つて、家事の手傳を知らぬなどといふ兒童は、數ある兒童の中のホンの小部分に過ぎないのであつて、他の兒童は何かしら分相應の手傳を課せられてゐるから、事故の普通の場合として、この手傳といふことが一番多いと見なければならない。

　しかしながら女兒にあつては、拭掃除から炊事の手傳等々、將來女子としての素養上缺くべからざる手傳へは、むしろ奬勵すべきことであり、又男子にあつては、拭掃除、走使ひなどといふことは、親の手傳けのために賞むべきことであつて、これが適當に課せられるならば、彼等の兒童の益にこそなれ、決して害になるものではなく、それが適當に課せられる限りに於て、直接不成績の原因となるなどといふことは、先づ考へられないことである。

　けれども家内が非常に手不足な所へ、働き手が病氣で臥床してゐるとか、或は一家の締めくくりをなすべき母親が病氣してゐるとか、乃至は子供が多くてその子守に忙殺されるとか、或は家庭が非常に貧困のために、放課后家計の助にもと内職の手助けをするとか、他の工場商店に通勤して夜勤するとかいふ風な事故のあることは、屢々見聞する所であり、これが原因して不成績を招來するといふことは、何人も想像の出來る所であらうと思ふ。

　然らばかゝる場合に於て、彼等の不成績に對する滅め方は如何にすべきかといふに、誰しも人の親として、その子供を家計の一助として、働せたいものは一人もなく、必ずや子供等ののび〳〵と成長して行くことを希はぬものはあるまい。然るに、事のここに出づる所以のものは、よく〳〵の事情からでなければならぬ筈である。それ故に、この原因を究明して見ると、一掬同情の涙を禁じ得ないものであつて、どうしてその原因たるべき手傳を廢止せしめよと家庭に要求することが出來よう。ここに普通の場合と違つた特種の惱みがなければならない。

　かゝる場合に於て、尚且つ彼等の疲勞の身を挺して、更に勉學を强ひるといふことは、隨分忍びない所である。然るにそのまゝに放任することも亦、彼等の將來にとつて一大不幸なるはいふまでもない。それ故にかゝる場合には、やはりす

時の閑暇を盗んでも本に眼をさらし、復習、豫習を十分とまでは行かずとも、是非共廢することのないやうに導いて行かねばならぬ。

その好例としては、二宮尊德がある。その他古來貧困にして尙後世に名を垂れた偉人傑士が、史上その例に乏しくないのであるから、かうした實例を引いて彼等を勵まし、彼等の手傳の寔に尊い犧牲であり、孝行であることを賞讃して、彼等の日頃の苦難に報いると共に、更にこれによつて彼等の勉强方面の奮發心を喚起することを忘れてはならない。

次には父母兄弟の死が原因する不成績に對する戒め方である。彼等兒童はまだ自分で自分のことを辨ずる力はない。彼等は杖とも柱とも頼んでゐた父母の死に遭つた場合、或は又幼少の時代から、同じ慈愛深い父母の膝下に育まれてゐた兄妹の死に會したといふやうな場合、別れとあれば、數十里を離れ、數十日を隔つるも尙時に斷腸の涙を絞るのである。それを況んや幽明境を異にして、永遠に亦見ゆる能はざるに至つては、その悲痛や蓋し何物にも絶すべく、その少さき胸に頭に受けるショックに至つては甚大なるものあるは想察するに難くない。

かゝる原因よりして不成績を釀したといふやうな場合、教師は如何にしてこれを戒むべきか。これ又一の特異の事故に對する對策でなければならない。然らば、これに對して如何なる策を施すべきか。他なし、心をこめて彼等の悲痛を慰め彼等の精神的苦痛を少しでも忘れしめ、やはらけることに努力しなければならぬ。

惟ふにかゝる原因よりして來る不成績は必ずしも永續的のものではなく、如何に深き悲痛であつても、日を經るに從つて自然にそれが輕減されて來るに違ひない。が、教師としては、その輕減の日の一日も早く來らんことを希ひ、それに對する努力を忘れてはならない。尙この原因によつて不成績を來たした場合に兒童は親近者の死の苦痛に加へて、更に不成績の苦痛を嘗めねばならない。かゝる場合に於て、教師は飽く迄彼等の親切な相談相手となつて、その原因を究明し、彼等に安心を與へると共に、成績恢復に對する手段方法を教へ訓して行かねばならぬ。それには彼等を慰め勞つて、彼等の苦痛を輕減し一日も早く、學業にその專心を打ち込ましめるやうにしなければならぬ。

最後に非常事變に遭遇した場合である。たとへば、火災とか、震災とか、或は盜難とかにかかつた場合である。こんな場合に、それ等のどさくさのため、暫く勉學を廢せざるべからざるに至つた結果の不成績、乃至は極度の恐怖から温かな心の芽生えが損はれて、不成績を招來したといふやうな場合、こんな場合にはどうしたらよいかといふに、その原因を推してこれに對應する策を以て彼等の成績の向上發展を計らなければならない。

火災その他で學事にいそしむことが出來なかつた場合には、百難屈せざる勇氣を振ひ興させるやうに彼等を勇氣づけ、こんなことに負けてたまるものか、といふ風に、彼等を鞭韃することが必要である。又極度に恐怖に襲はれたやうな場合には徐ろに彼等の精神の鎭靜するのを待つて、その然るべからざる所以を說きあかすのである。かうしたことは一時的のことであるから、時が經つにつれて、日ならずして努力次第によつて彼等を常態の成績に復せしめることが出來やうと信ずる。」

油斷で成績不良の戒め方

何事でも油斷といふことは、事をするためには大禁物である。一寸の油斷のために九仞の功を一簣に缺く、といふやうなことは、日常我々の見聞することで、殊に、これが勉學にあつては、一日の怠漫、油斷は遂に絶大なる損耗を來たす原因とならぬと限らない。

たとへば數學に於てある肝心の一箇所を不注意油斷のために、聞き落し、又は研究し落して置いたとすると、次回からの講義はその基礎が分らなかつたために、遂に解くことが出來ず、結局分らず了ひになつて不成績を招來するといふことになることがないでもない。油斷は勉學上に於て、實に警戒すべきことといふべきである。

この油斷は、普通の生徒にも屢々見受くるが、これが主に成績優秀者に見る現象で――これは成績優秀者なるが故に、殊更に目立つためでもあらうと思ふが――彼等の漫心は、遂にこの恐るべき油斷を招來し、その結果、不成績を釀すとい

ふことは、よくあり勝ちといはねばならぬ。

何故に彼等は漫心するか。それは餘りに、教師の寵に溺れ過ぎた結果から來ることもあり、又家庭や、世間のチヤホヤから、子供心に、如何なる問題でも解き得るぞ、といふやうな考へを起したり、或は先生は僕がやればどんなことでも通してくれる、などといふ遂には狡い考へをさへ起して來て、何んの算術位とか、何んの地理位とか、と考へるやうになり果てはこれが當じては、先生を先生と思はぬやうな天狗になる結果、學業を投り出して、豫習も復習も怠り、遂に不成績を招くといふやうなものである。

斯くの如き兒童を戒めるには、平素の彼等の取扱ひに一層の嚴格なる注意を拂ふと共に、時には、深刻な質問を發し、兒童の世界以外に他の更に廣い世界のあることを知らしめることもよからう。又天狗が鼻につい來たなと見たならば、それとなく辛い點數をつけて、その原因が何處にあるかを愼重に反省せしめることも一つの方法であるに違ひない。

それから家庭との連絡を密にして、かゝる漫心の習癖ある兒童に對しては、つとめて彼等の反感を招かぬやうに、出來るだけ温和の手段を以て、漫心を矯めるやうにしなければならない。たとへ學校に於てのみ、これを嚴重に取締つても、家庭に歸れば唯我獨尊で、親をも親とも思はぬやうなことであつては、折角の教師の努力も、遂に水泡に歸せざるを得なくなる。といつたやうになり勝ちのものである。

而して一度不成績を取り、その原因が彼等の油斷から生じたるものであるとしたならば、彼等を呼んで、如何にしてこの不成績が招來したかといふことを考へさせなければならぬ。而も、彼等は無心の小兒である故に、その原因の油斷にあることを知らせるかを考へ得ないかも知れない。そんな時に寓話や、訓話や、比喩等を以て巧みにその原因の油斷にあることを知らせるやうにし、深くこれを反省せしめて、彼等をしてその誤りを二度せざらんことに努めしめるといふ風にするがよい。

注意散漫で不成績の戒め方

一體兒童といふものは、決して一つところに止まつてゐないもので、あちらにきよろ〳〵こちらにきよろ〳〵目に觸れ耳に觸れるもの悉くが珍らしく感ぜられるが故に、彼等は常に何か新奇なものに目を奪はれ、心を捉はれ易いのが普通である。かと思ふと、又一方には、到底大人も及ばぬやうな見方をして、その質問に大人が唖然たらしめられることも亦有り勝ちのことである。が、それは兎も角として、兒童の注意は散漫に流れ易く、これを統一せしめて行く教師は並大抵ではないのである。

しかし乍らこれが高學年になるに從つて、注意力を愈々增して行き、一切の注意をある一事に纏め得るといふやうな時代がキツト來るものであり、又さう來なければ、教師も努力した甲斐がなく、學校教育の効果も亦疑はざるを得ないのである。

一般には、如上の過程を履んで、高學年になるに從つて、おちつきも出來、注意力も增して來ることは既に述べた通りであるが、然るにかうした年輩になつても、尚且つ、その注意力が散漫で、成績が不良であるといふのを見受ける場合が決して珍らしくないこんな場合には、如何なる戒め方をなすべきであるか、これも一つ考へて置くのは決して無用の業ではない。

ではどうするかといふに、先づ彼等におちつきをつけることである。これは中々一朝一夕では出來難いと思ふが、その兒童に對しての對策は、家庭と連絡を密にして、一切をそこに歸納して行く、といふ方法を取るのが一番である。家庭に於ては、出來得るならば、彼等の勉强室の周圍等は出來るだけ精神を鎭靜せしめるやうな色彩をなし、電燈カバーその他にも意を用ひ、更に、雜音から遠ざからせるやうにして、靜かに自己を反省するの時を與へるのも一つの方法であらう。

又こんな注意散漫の兒童にも、何かしら必ず自分の最も好む學科、又は遊戲、運動といふやうなものがある筈である。さうしたものがあつたとするならば、出來得る限り、これに熱中させ、注意力の伸展を計り、時にはそれに對する感想を聞き、又質問を發し、絶えずそれに注意を向けさせるやうにする。そして、それが稍目的に近づいたと見るならば、その

熱を他のものに移らせるやうに仕向けるといふことも一つの方法であるに違ひない。

兎に角かうした兒童にあつても、注意散漫から來た不成績であらうが、なからうが、本人は一向お構へなしでゐるものが多いのであるから、教師は常にこれを觀破して、これを善導して行くことを忘れてはらない。

素質低劣で不成績の戒め方

油斷とか、事故とか、その他の原因から成績不良を招來した者に對しては、幾多の學力向上に對する鞭撻法や、戒め方もあるであらうが、先天的に素質低劣なもので、成績不良なるものに至つては、最早やこれを生れ更らす外に、學力向上の術はない、と見なければならない。

しかし乍らそれが學力低劣なるが故に、更にそれが先天的素質低劣に原因せるが故に、といつて、これをそのまゝ放任して置くといふことは、實に責任ある教師の執るべからざる所であると共に、兒童にして、かゝる無責任の教師の下にある、これより不幸なことはあるまいと思ふ。豎子教ふべからずとなすも尙且つこれに盡すに手段を以てする位の氣構へがあつて欲しいものである。

さてかうした難物にブツかつた場合はどうしたらよいか。隨分難しい問題である。牛馬と雖も尻に鞭をあてれば動くのである。而し、かうした手合は鞭をあてやうがどうしようが、更に學力が向上するものではない。恰もそれは石に鑽いで石を鞭つの暴をなすの類である。

しかし乍ら考へて見ると、それが白痴でない限り、何かしら、その兒童に個性のあることを看落してはならない。これは老練な教師と雖もよく看落すことで、況んや若い教師においておや、彼等は最早や救はれざるものとして、かゝる兒童を路傍の石視する傾きの多いのは慨嘆に堪へない。つまり、如何なる兒童にも個性がある、必ず取り柄がある筈である。

學問は出來ないが身體が並はづれて發育がよいとか、學問が出來ないが、力は馬鹿に強いとか、忍耐力は強いが學問が

出來ないとか、といふ話は日常よく吾人のきく所である。かうした兒童の個性を觀破して、これが伸張を計つてやることこそ彼等にとつて最も妥當なる戒め方であると思ふ。只徒らに、學問が出來ないからといつて、これを叱りつけたり、怒鳴りつけたり、といつてそれで向上するものでないことはいふまでもない。

のみならず、それが出來ないからといつて見切りをつけ、嘲笑の的となし、座談の圓拔けの對象とするが如きは沙汰の限りといはねばならぬ。かゝる場合には飽く迄、その個性の發見につとめ、これを發見したならば、極力その個性の伸張につとめてやらねばならぬ。これを鞭ち、學問を無理矢理に詰めることが、決して學校教育の全體でないことを牢記せねばならない。

鐵には鐵の用途があり、金には金の用途がある。金尊しと雖も、必ずも鐵の代用物とすることは出來ない。ここが現代教育の狙ひ所でなければならない。學問が出來なくとも力業に秀れてゐるならば、力業の方面にこれを伸張してやらねばならぬ。又身體が强壯であるならば、これを勞役の方面に指導して行かねばならない。そこに現代教育の眞使命があると信ずるのである。

成績漸進者の褒め方

凡そ熱し易いものは、冷め易い。といふのは天下の常法である。地道にヂツクリと進歩の過程を辿つて行つたものにはどこにか底力がある。成績の場合も同じことで、普通出來ない兒童が、急に良成績を得たとなると、何かそこには原因がなくてはならない。皆々さうとはいはれぬのかも知れぬが、得てかうした急激な良成績の裏面には、必ずといつてもよい位大人の智慧が働いてゐる。

つまり兄姉の入智慧、家庭教師の策動等々が多分に働いてゐる場合が尠くない。その結果、教へられて來たことだけは叱られるのが怖さに、棒暗記して來るが、さてこれの應用となると、テンデ應用の方が利かない。つまり、彼等は自分の

本當の力で、苦しみ苦んで地道の地歩を固めて來たものではないから、そこには自分の勉强といふものがない。自分の成績といふものがない。從つて表面的には良成績であつても、本當の力がついてゐない。かうした兒童は小學校では成績がよいにも拘らず、入試などで躓く場合が多く、又入試を都合よくパスしても、入學後一向成績が思はしなく、遂に中道にして自暴自棄に陷るなどといふ例はよくあることである。

これに反して地道に、一歩は一歩より固く履み固めて行き、その辿る過程を悉く自己藥籠中のものとして進んで行つたものには、その間に拂はれた自分の苦心、努力が必ず自分の中に美しい實を結んでゐる。かうした成績漸進者に對する時教師の喜びや蓋し想察するに難くないと共に、かうした喜びは教師であつたればこそといふ感じを泌々と味ふことが出來ると思ふ。

と考へて來ると、かうした成績漸進者を澤山作る。といふことが、つまり優良な教師のバロメーターであるともいひ得るのではあるまいか。健全なる精神は健全なる身體に宿るの古言は永久に眞理である。この場合、健全なる身體は優秀なる教師であり、成績漸進者は、健全なる精神である。又瓜の蔓に茄子がならぬといふことも、吾々を欺かざる眞理である。優秀な教師にして、よくこの境地を解して得られると思ふのである。

さてかうした成績漸進者の褒め方はどうすればよいかといふに、教師にして見れば、自分の努力の結晶がそこに表はれたのであるから、實に目に入れても痛くない程可愛いのは無理もない。撫でてやりたい。嘗めてやりたい。よくやつて呉れたと手を執つて共にその努力を泣き合つて見たいのは人情である。しかし乍ら斯くの如きは、正に優良教師の成績漸進者に對する途ではないのである。より刻苦せしめ、より勉强せしめて、更に大なる花を咲かせ、實を結ばすべき責任はかかつて教師の双肩にあるのだ。褒むべき成績漸進者が、褒むべき程度に達して來たのであるから、これからはもう〆たものである。今一息で、自己の理想はそこに實現せられるのである。

かうした場合に、只徒らにこれを賞揚するが如きは婦女子のことであつて、決して有髯男子のなすべきことではない。

かゝる場合には徐ろに彼等の努力を勞ふと共に、一層の奮發心を起さしむべく、彼等を更に一努力の苦惱の彼方に追ひやることを忘れてはならない。獅子はその子の强弱をためさんがために、その愛子を千仞の谷底に落すときく。教師の成績漸進者に對する褒め方は、正にこの態度を學ばねばならない。かくしてこそ、彼等兒童の既得の知識は、更にその固きを加へると共に、未知の世界を開拓する鍵鑰となつて、いやが上にも彼等の世界は啓發されて行くのである。

成績漸進者の戒め方

成績が急に上つたり下つたりする兒童には、何かその裏面に突發的の原因があり、その原因をつきとめて、教師兒童兩者相俟つて、これが向上矯正に盡力するならば、決して、これを常態に復することは難事ではないが、これがだん〳〵に上つたり又だん〳〵に低下するやうなものにあつては、その原因も亦相當根强いものであるから、これが除去に就ては、一段の努力を要する。

尤もだん〳〵成績が向上して行くものにあつては、その裏面に兒童の異常の努力を認めねばならぬことで、スローリーパット・スデッディに進む進歩の仕方は、確實に何物かを自分のものとして、歩一歩を踏み固めて行くのであるから、これを如何に褒むべきかに就ては、前節に於て述べた通りである。

然らばこれと反對に成績のだん〳〵に低下して行く兒童に對しての戒め方はどうか。これは前にいふ通り、隨分根强い原因が、その根底に横はつてゐることを先づ考へなければならぬ。そして、第一にその原因の奈邊にあるかを究明し、これを除去するの對策を講ずることが必要である。

而して、その原因が病的のものであるならば、直ちに醫療を受けしめることが必要であり、家事上の問題、又は家庭的事情に煩はされての結果であるとしたならば、又それ〳〵それに順應した對策を講じて、これを救濟指導してやるがよい而してその實際に當つては、該兒童を呼んで、靜かに不成績の原因を考へさせるのである。どうして過去によい成績を取

つたものが、今日さうした不成績になつたか。となると兒童は病氣のためとか、家庭上の問題に煩はされてゐるとか、又は怠情からであるとか、必ず吿げて來るに相違ない。

その時敎師は口を極めてこれが對策に就て諄々說き、彼の反省を促すと共に將來の奮發心を喚起せしめ、且つその奮發心を空に終らぬやうに努力せしめることに努めねばならない。が、ここに一つ成績漸退の原因が存在してゐることを忘れてはならぬといふのは、これは高等一・二學年等の比較的高學年の兒童に、ともすると有り勝ちのことであり、而もそれが現はるべくして表面に表はれず、生涯の不幸を兒童等に與へつつある原因である。

それは他なし、自瀆行爲の害である。青少年期就學期の時代にあつて、手淫程彼等の身體を破り暗記力を鈍らせ推理力を減退させ、奮發心を消耗せしめるものはないのである。醫師の統計によると、現代青少年期に於てこの自瀆行爲をなさざるもの、殆んど數パーセントに過ぎず、他は悉くこれの洗禮を受けてゐるといふに至つては、實に一大寒心事といはなければならない。

タカが小學校生徒であるといつて、家庭も敎師もまだ兒童扱ひをしてゐるが、高學年となると、十四、五歲で、正に青年期に入らんとする兒童である。殊に、近代文明の副產物として、都會と鄙とを問はず、凡べてが急テンポで進むと同時に、一切から放敎する享樂的刺激は、彼等をして、往時の十四、五歲程度の兒童とは雲泥の差をその思想にも、肉體にも與へてゐる。

自瀆行爲の害たるや、玆にその詳細を說くを憚るが、實に恐るべきもので、高學年に於ける成績漸退に對しては、かうした方面もある程度まで考慮の中に入れて行く必要がある。そして、かうした兒童に對しは、その恐るべき害を說き、一日も早くその惡習から脫却せしめることに努めねばならぬ。といつて、何も知らぬ兒童にこれを究明して、却つて參らし半分にこれ等の惡習を實行するものが出來て來ぬとも限らぬから、これを究明指導するには、一段の手心を要するのはいふまでもない。

成績不良で落第者の救め方

近頃成績不良を悲觀して、小學生が自殺を計つたといふことは、屢々新聞紙上に散見することであり、その都度敎育界の問題を惹起してゐるのは由々敷大事であると共に、世智辛い世相が兒童を驅つて、事ここに至らしめるに至つては、吾々は亦痛切に考へさせられざるを得ないのである。

彼等は精神異狀であつて何事も知らない。成敗利鈍は世の常であり、七轉び八起きは世の常法であることを知らぬ彼等は、一度び惡成績を得ると、極度の悲觀に陷入つて遂に死の途を選ぶといふ極端な所に行くのでは、ウツカリ惡い點數もつけられないといふものである。が、事實は如何とも扞けることは出來ない。然らばこんな時にはどうするか。

かうした極端な兒童は、神經的の兒童に多い。それ故に、不斷からさうした個性の兒童に注意して、かゝる兒童が不成績を取つた場合には、直ちにこれを呼んで懇ろに慰め乍ら、そのよつて來る原因を自擧させ、且つ極力これを勵まして、捲土重來の意氣を鼓え立たせるやうにし、將來に大なる希望を與へるやうにするがよい。

この際敎師も亦家庭も叱つたりするやうなことは大禁物であつて、彼等を慰め、懇ろに勞り乍ら、共々に將來の發奮に努力するやうにすることが大切である。

成績不良で無反省者の救め方

兒童の中には、前に述べた通り、極端に神經的で、何もかも氣にかけ、くよくよしてゐる性質のものもあるが、それと全然反對に、筆にも棒にもかからぬ、といへば少し語弊があるが、一切お構ひなしに成績が惡からうが、よからうが、我關せずの態を極め込んで、當るを幸ヤンチャ振りを發揮するといふやうな性質のものもある。

しかしどつちかといへば、前者よりも後者の方が心配もなく、又扱ひ易い、が成績が惡いのにも拘らず、如何にこれを